併合主義者ハ吾人ノ間ニ在ラスシテ吾人以外ノ所ニ彷徨スト

（五）「ストラスブルガー、ポスト」ハ曰ク宰相カ摘發ヲ爲シタル手腕ヨリ見レハ宰相ハ外交政策ノ指揮ヲ自己ノ掌中ニ保持セントスルモノナリ且宰相カ新聞紙ノ任務ヲ理解スル樣子ナルハ吾人ニ多大ノ希望ヲ與フ又氏ノ暴露ハ一大反應ヲ生スルナラント

（六）「キヨルニッシエ、ツアイトウング」ハ曰ク宰相ハリボー及ロイド、ジヨージヲ彼等手製ノ虛言ノ網ニテ生擒シタリ各國民ハ漸次眞相ヲ理解シ得ルニ至ルヘク衷心平和ヲ希フ露國ハロイド、ジヨージ、リボー及ソンニーノ等ノ貪慾的侵略政策ノ犧牲トナリタルコトヲ悟ルナラン彼等ハ露國民ヲ欺キ以テ米國干涉ノ來ル日迄時日ヲ延ハサント欲シタルナリ英國ハ埃及ヲ印度ニ合セ佛國ハアルサス、ローレーン、ライン沿岸地方及シリヤヲ併合セントス帝國主義ノ英國ハ過去三箇年間虛言ヲ以テ固メ來リタルモノナルヲ以テ今更眞理ヲ再建セント試ムルモ容易ニアラサルヘシ

（七）七月三十一日夕刊ベルヌ發刊「ブンド」ハ曰クミハエリス氏ノ摘發カ果シテ佛國政府ノ見解ヲ正確ニ示スモノナリトスレハ最近數週間發露シタル平和ノ希望モ又復空想ニ了ルヘシ獨逸ハ全敗セサレハリボー氏及ブリヤン氏ノ要求スル土地割讓ヲ決シテ承諾セサルヘシ而シテ獨逸カ敗北シ居ラサルコトハ地圖ヲ披キテ一瞥スレハ之ヲ知ルヲ得ヘシ故ニ佛國政府カ宰相ノ摘發ハ事實ニ相違スト表明スルニ於テハ平和ノ機會ハ一層增進スヘキモ今日迄吾人ハ未タ何事ヲモ聞カサルナリ「ハバス」電報ノ如キハ正確適切ノ答辯ニアラス何等實相ヲ明白ニスルモノニアラサルナリ

報告者曰クリボーハ露佛祕密條約ノ存在ヲ否認セス只ライン河左岸地方ハ之ヲ緩衝地帶トナサントスル旨ヲ述ヘ居レリ

（四）佛國ノ征服意圖ニ關スル獨逸ノ宰相ノ陳述ニ對スル瑞西新聞評論

（大正六年八月一日附報告）

七月十九日ノ獨逸議會ニ於ケル新宰相ミハエリスノ演說及妥協的平和希望ノ決議、七月二十一日「ギルドホール」ニ於テ爲シタルロイド、ジヨージノ演說、七月二十八日墺洪國外相チエルニンカ新聞記者ニ爲シタル戰爭目的談、同日獨逸宰相カ新聞記者ニ爲シタル佛國野心摘發及倫敦「タイムス」カ一九一四年七月五日ノポツダム祕密會議ノ內幕ヲ暴露シタルコト等ニ依リ此數日來歐洲ハ論戰頗ル激烈トナリタル觀ヲ呈ス

獨逸宰相ノ摘發ニ對シテ七月三十一日佛國首相リボー氏モ辯駁スル所アリ又英佛新聞ハ獨逸ニ對シテ反對ニ獨墺間ノ祕密往復文書ノ發表ヲ迫リ居ル次第ナルカ本件ニ關スル瑞西新聞評ハ比較的穩當ナルカ如シ尤モ獨逸贔負瑞西新聞中ニハ聯合側ハミハエリスノ言ヲ完全ニ打消スコト不可能ナルヘシト述ヘタルモアリ又ミハエリスノ摘發ハ露國ニ多大ノ影響ヲ及ホスナラント論シタルモアレトモ七月三十一日ノ「トリビユーン、ド、ジユネーブ」及「ジユルナル、ド、ジユネーブ」新聞ノ評論ハ恐ラクハ正鵠ヲ得タルモノナラント思考ス

「ジユルナル、ド、ジユネーブ」所論ノ大要ニ曰ク吾人ノ信スル所ニ依レハ六月初メ佛國議會

祕密會ニ一ノ外交文書提供セラレタリ之ニ依レハ本年二月末ニコラス二世ノ沒落以前ニアリスチード、ブリヤン氏ハ佛國カライン河左岸ノ或地域ヲ獲得シ得ヘキ旨ノ約束ヲ聯合側ヨリ得タルナリ此事ニ關スルブリヤン氏ノ演說ハ或議員ノ歡迎ヲ受ケタルモ或議員ハ意味空漠ナリト看做シタリ此ニ於テリボー氏ハ演壇ニ上リテ前政府ノ決定セルサール河流域地方ノ要求ヲ拋棄シ其ニ代ヘテ佛國ノ主張ヲアルサス、ローレーンニ集中シ兩州ニ對スル佛國ノ權利ヲ一層確實ニスルノ意見ヲ述ヘタリ議員ノ大多數ハリボーノ意見ニ贊成シ社會黨議員モ亦之ニ同意シタリ故ニ六月五日ノ公開議場ニ於テハ右ノ意味ノ決議案ヲ可決シタルナリ

（中略）ミハエリス氏カ佛國ノサール河流域獲得ヲ要望スル旨ヲ暴露シタリトテ獨逸カ歐洲ヲ侵食シ佛國ハ之ヲ防禦シ居ル事實ヲ毫モ變更シ得ルモノニアラス然レトモ聯合側ハ其公式宣言ヲ爲スニ當リ注意ヲ缺キタル點ナキニアラス是辯難攻擊ヲ招クニ至レル所以ナリ吾人ノ見ル所ニテハ外形上經濟方面ニ一層重キヲ置キ又權利正義及自由等ハ多ク論議スルヲ愼ミ且祕密ト信シ居リテモ其實到底祕密ヲ保持スル能ハサル所謂祕密外交ヲ（「トリビューン、ド、ジュネーブ」ハ佛國ニテハ外交ヲ祕密ニ保持スル能ハスト評セリ）今少シ輕視スルヲ可トスヘシ兎ニ角主要點ハ左ノ一事ナリ即チ聯合側ハ白耳義及セルビヤノ爲メニ防戰シ居ルコト是ナリ如何ナル素破拔キモ此單純ナル實證ヲ動カシ得ルモノニアラス云々ト

第三 獨國講和條件ニ關スル事項

（外事彙報大正六年第十號）

（一） 獨逸社會黨代議士ヘルマン、ウェンデルノアルサス、ローレン問題ニ關スル意見

（大正六年八月三日附報告）

獨逸帝國議會議員ヘルマン、ウェンデルハ七月三十一日ノ「アルバイター、ツァイトウング」紙上ニ前記問題ニ關スル意見ヲ揭載シタリ其要略次ノ如シ

『アルサス、ローレン問題ナルモノハ存在ス平和條約ハ關係各國ノ承認スヘキ確定的解決ヲ同問題ニ與ヘサルヘカラス或ハ曰ク二州住民ノ一般投票ニ依リテ決定シテハ如何ト一般投票ノ結果ハ豫見シ難シ戰爭前ニ在リテハ一般投票ノ結果ハ獨逸ニ有利ナルヘキコト殆ント確實ト認ムルヲ得タルモ戰爭後特ニ陸軍官憲ノ執リタル態度ノ結果トシテ事態ハ一變シタルヤモ知レス且一般投票ノ原則ヲ適用スルハ困難ナリ何トナレハ如何ナルアルサス人ハ投票權ヲ有スルカノ先決問題ヲ決定スルコト容易ナラサレハナリ例ヘハ同州ニ移住セル獨逸人トアルサス婦人トノ結婚ニ依リテ生シタルアルサス人ハ投票權ヲ有セストスルヤ否ヤ等ノ問題ノ如シ

或ハ又曰ク佛語ヲ話ス部分ハ之ヲ佛國ニ返還シテハ如何ト一八九〇年デルブルック教授ハ此種ノ解決方法ヲ抱持シタルコトアリ思フニ本問題最上ノ解決方法ハ之ヲ中立地トナスニアランモ獨逸ハ此解決方法ヲ同情ヲ以テ迎ヘサルヘシ但シ獨逸國民ノ大多數ハアルサス、

ローレンチ他ノ諸聯邦ト同一ノ權利ヲ享有スル獨逸帝國内ノ自主國トスルコトニハ何等ノ異議ヲ有セサルヘシアルサス、ローレンハ自主國トナリタル後共和制ヲ採ルカ王制ヲ採ルカヲ自ラ決定シテ可ナリ何レニスルモ議會政治ハ同州ニ適用セラルヘキナリ斯クノ如クセハ一面ニハアルサス人ノ希望ヲ十分ニ滿足セシメ又一面ニハ佛國征服意圖拋棄ヲ容易ナラシムルヲ得ヘシ

（二）「フランクフルター、ツァイトウング」ノ戰爭目的論

（大正六年八月九日附報告）

八月七日ノ同紙ハ經濟的觀察點ニ重キヲ置キテ獨逸ノ戰爭目的ヲ論シタルカ是獨逸カ歐洲ノ小天地ニテ鋭意聯合國ト雌雄ヲ爭ヒ白耳義等ヲ困境ニ陷レツヽアル間ニ海外殖民地及世界貿易ハ聯合側特ニ英國ノ爲メ奪取セラレ了シタルコトヲ憂慮スルニ至レルモノナルヘシ唯獨領東亞弗利加丈ニハ今モ尚頑強ニ抵抗シ居ルモ其他ハ悉ク皆聯合側ヨリ奪取セラレタル上ニ國ラシキ國ハ獨逸ノ貿易排斥ヲ目的トシテ獨逸ト國交ヲ斷チ又ハ獨逸ニ宣戰ヲ布告セル有樣ニテ獨逸ノ經濟的着眼點ヨリ云ヘハ心細キ感アルヘク又ナポレオン戰爭以來英國ノ着眼點及强點ハ亦茲ニ存スルモノト思考ス

「フランクフルター、ツァイトウング」ハ曰ク獨逸ニ於テハ戰爭ノ目的ヲ口ニスル者ハ大抵皆領土問題ノミニ着眼スレトモ是一大謬見ナリ獨逸ノ將來ニ取リテ最モ緊切ナルハ地理上ノ問題ニアラスシテ經濟的問題ナリトス

戰爭中英國ノ態度ハ世界ニ於ケル獨逸ノ經濟的地位ヲ覆滅スルヲ以テ其要旨トシタリ此點ニ於テ英國カ既ニ顯著ナル成功ヲ收メタルコトハ遺憾ナカラ之ヲ自白セサルヲ得ス獨逸ノ永年間ノ努力ノ結果ハ英國ノ爲メニ廢亡ニ歸シ獨逸ノ莫大ナル有形無形ノ資本ハ殄滅シ了レリ獨逸ハ何事ヲ差措キテモ右ノ地位ヲ挽回セサルヘカラス一九一六年七月十四日ヨリ十七日ニ亘リ巴里ニ開カレタル經濟會議ノ決議ニ徵スルニ獨逸ノ敵ハ戰後ニ於テモ獨逸ニ對スル經濟的封鎖ヲ續行スヘキ組織ヲ設クルノ意思ナルコト明カナリ吾人ハ是非共斯カル經濟聯合ヲ打破セサルヘカラス獨逸ハ其ノ東部又ハ西部ノ國境ニ若干ノ領土ヲ得ルヨリハ右經濟的地位ノ回復ニ遙カニ多大ノ利害ヲ有ス吾人ハ一面ニハ海ノ自由ヲ確保シ以テ吾人ノ欲スル如何ナル場所ニ於テモ原料品ヲ購買シ且最惠國約款ニ均霑スルノ權利ヲ獲得セサルヘカラス帝國議會ハ此狀況ヲ十分ニ理解シ居ルヲ以テ七月十九日ノ決議文中ニ此事ヲ明記シタルナリ云々

（三）「ケルニッシエ、フォルクス、ツァイツング」ノ戰爭目的論

（大正六年八月十六日附報告）

八月十一日ノ「ケルニッシエ、フォルクス、ツァイトウング」ハ獨逸ノ戰爭目的ニ關スル倫敦「タイムス」社說ニ答ヘテ次ノ如ク述ヘタリ

「獨逸カ其ノ戰爭目的ニ關シテ留保シ居ルハ正當ナリ獨逸カ右留保ヲ爲シ居ルハ「タイムス」ノ考フルカ如ク征服的意圖ヲ包藏スル爲メニアラス又其弱點ヲ隱蔽センカ爲メニモアラス獨逸ノ留保ノ正當ナルハ其ノ軍事上ノ形勢ニ職由ス獨逸ハ少ナクトモ歐洲ニ於テハ勝者ニシテ聯合諸國ハ敗者ナリ敗者カ其ノ失ヒタルモノヲ要求スルハ獨逸カ其意思ヲ言明スルヨリハ遙カニ容易ナリ

次ニ獨逸ハ單ニ防禦戰ヲ戰ヒ居ルノミ然ルニ聯合諸國ハ侵略戰爭ヲ爲シ居ルヲ以テ彼等ハ何故ニ獨逸ヲ攻擊スルカノ目的ヲ言明スルノ已ムヲ得サルニ至ルナリ

最後ニ白耳義ニ關シテハ獨逸新聞ノ一部ニモ獨逸ノ白耳義ニ對スル意思ヲ明示シ以テ平和ノ主タル障碍物ヲ除去スルヲ要スト考フルモノアレトモ獨逸ノ利益ヲ害セサル範圍內ニ於テ白耳義ニ關シ言フヘキコトハ既ニ言ヒ盡シタリ商買ノ見地ヨリ云ヘハ敵ハ獨逸ニ向ヒ平和談判ニ入ルニ先タチ我骨牌ヲ示セトハ要求シ得サル筈ナリ云々

(四)戰爭ノ損害賠償ニ關スル獨逸進步黨議員ゲオルグ、ゴタインノ說

（大正六年八月二十一日附報告）

獨逸帝國議會進步黨議員ゲオルグ、ゴタインハ八月十八日ノ「ノイエ、フライエ、プレッセ」紙上ニ戰爭ノ損害賠償ニ關スル意見ヲ發表シタリ右ハ同人一個ノ私見ニアラスシテ其筋ノ意向ヲ反映シタルモノナラントノ批評モ有之獨逸側ニ於テ聯合側ノ損害要償ヲ體裁良ク免レントスル底意モ窺ハル、ヲ以テ其要點ヲ左ニ譯出スヘシ

彼ハ曰ク戰爭ニ依リテ損害ヲ被ラサル交戰國ハ一國モナシ一切ノ交戰國ハ或ハ其ノ領土ノ一部分又ハ其植民地ヲ占領セラレタリ而シテ或交戰國ハ其ノ受ケタル損害ヲ自國ノ財源ノミニテ補塡シ得サル狀態ニ在ルコト亦明白ナルヲ以テ戰爭ノ損害回復ニ要スル必要ノ經費ハ之ヲ交戰諸國全體ノ共同負擔ト爲スヲ可トス但シ諸國ニ散在セル商船ノ受ケタル損害ハ之ヲ共同賠償ノ範圍外ニ置クヲ正當トス

損害額見積リハ中立國ノ專門家ノ助力ニ依リテ之ヲ行ヒ戰前ノ動產及不動產價格ヲ基礎トスヘシ例ヘハ動產、不動產ニ對スル火災保險料幾何ナリシカヲ參考トスルカ如キ是ナリ

損害賠償額分擔ノ標準ハ如何此問題ニ關シテハ二個ノ方法アルヘシ第一ハ各國ノ人口ヲ標準トシ第二ハ戰前ノ各國ノ軍事費ヲ標準トスルコト是ナリ第二ノ方法ハ獨逸ニ取リ不利益ナレトモ墺洪國ニ取リテハ有利ナルヘシ何レニスルモ戰爭ノ慘害ヲ輕減シ而カモ何レノ交戰國ノ名譽ヲモ傷クルコトナキ或形式ヲ發見スルヲ要ス人ハ調和セント欲セハ調和シ得ルナリ人道ハ調和ヲ要求ス尙又中立諸國ニ向ヒテモ損害回復ニ盡力センコトヲ求メテ可ナラン實ニ中立諸國ハ交戰國ト同樣ニ戰爭ノ急速ナル終熄ヲ利益トスレハナリ

第四　羅馬法皇ノ講和提唱ニ對スル獨國宰相ノ聲明

（外事彙報 大正六年第十一號 大正六年八月二十七日附報告）

羅馬法皇ノ講和提唱ニ關聯シ本月二十一日獨國宰相カ同國議會中央委員會（豫算委員會ト

異名同體ニシテ樞要政治審議ノ中心トナリタル關係上中央委員會 der Hauptausschuss des Reichstags ト稱セラル）ニ於テ爲シタル聲明ノ梗概ヲ摘記スヘシ
宰相ハ先ツ就任以來其ノ外交政策上當面ノ急務ハ同盟諸國當局者トノ觸接ヲ圖ルニ在リタルヲ告ケ勃土兩國當局者トハ乍遺憾未タ文書ノ交換ヲ爲シタルニ過キサレトモ墺洪國當局者トハ屢々親シク意見ヲ交換スルノ機ヲ得殊ニ同國外相チェルニント維納、伯林及大本營ニ於テ前後三回ノ會見ヲ遂ケタルニ依リ同國トノ同盟關係ハ彌々鞏固ヲ加ヘタリト述ヘ七月議會ノ開會以來暹羅、リベリヤ、支那ノ三敵國ヲ加ヘタリト雖之等三國ニ於テ別ニ敵對ノ深キ理由ヲ有シタルニ在ラス單ニ協商側殊ニ米國ノ壓迫ニ餘儀ナクセラレタルモノニシテ政府ハ該三國ニ對シ獨國利益ノ違法ナル侵害ニ對シ其ノ責任ヲ問フコトアルヘキ旨ヲ確知セシメ置ケリト云ヒ轉シテ戰況ニ關シ最高軍事統帥者ノ指導特ニ感謝ニ値スルモノアリテ我同盟國トノ關係ハ敵國側ニ於ケルト異ナリ軍事上ニ於テモ全然一致協同ノ狀況ニ在リ戰局ノ現況ニ關スル余ノ問合ニ對シヒンデンブルグ將軍ヨリ左ノ回電ニ接シタリトテ（一）西方戰場ニ於テ英佛聯合軍カ尙本年中ニ獨軍ヲ擊破セムトスル執拗ナル攻擊モ徒ラニ損傷大ニシテ毫モ其ノ効ヲ奏セサルハ全ク潛水艇ノ效果ニ外ナラス西方戰場ニ於テ敵ハ其ノ優勢ニ依リ地方的小成功ヲ遂ケムモ全體ニ於テハ遙ニ有利ナル我地位ヲ動スコトヲ得ス吾人ハ全幅ノ信賴ヲ以テ西方戰場將來ノ發展ヲ待チテ可ナリ、（二）東方ニ於テハ我軍ハ防禦ニ於テモ攻擊ニ於テモ新ナル勝利ヲ博セリ（三）巴爾幹戰場ニ於テモ獨國軍ハ同盟軍ト肩ヲ並ヘテ能ク防禦ノ任ニ當リ居レリ要スルニ一目瞭然タルカ如ク戰爭第四年ノ初メニ於ケル各戰線ノ狀況ハ其ノ有利ナルコト曾テ類例ヲ見スト結ヒタル右ヒンデンブルグ將軍ヨリノ長文ノ電報ヲ引用シ啻ニ陸戰ノ效果ニ於ケルノミナラス海戰ノ效果モ之ニ相應スルモノアリトテ七月中ニ於ケル獨國潛水艇ニ依ル所謂擊沈船舶噸數八一一、〇〇〇噸ニ達シタリト述ヘ尙進ミテ曰ク

右我軍ノ收メタル效果ト敵國ノ失敗トヲ對照スルニ今日ニ至ル迄敵國側ニ於テ妥協講和ハ固ヨリ何等和意ノ認ムヘキモノナキハ吾人ノ了解ニ苦シム所ナリ最近余ハ佛露祕密條約ノ發表ニ依リ佛國カ如何ニ大袈裟ナル戰爭目的ヲ有シ而シテ英國カ右佛國ノ獨國領土ニ對スル野心ヲ如何ニ援助セルカヲ明ニセリ更ニ最近英國內閣ノ一員ハ獨國軍隊ヲラインン右岸ニ擊退セサル以上講和ハ來ラスト聲明セリ而シテ今敵國側ノ戰爭目的ニ關スル他ノ協約ヲ指摘セムニ其ノ一二ハ已ニ本委員會ニ披露セラレタル所ナルヲ以テ之ニ關シテハ單ニ其ノ日附ヲ揭クルニ止メムモ一九一四年九月七日ニハ協商諸國ハ協同講和ニアラサレハ締結セサルヘキヲ約セリ一九一五年三月四日露國ハ講和締結ニ關シ左ノ如キ要求ヲ示シ之ニ對シ英國ハ三月十二日ノ公文佛國ハ四月十二日ノ公文ヲ以テ夫々之ニ同意ヲ唱ヘタリ

露國ノ獲得スヘキ領域ハ左ノ如シ

コンスタンチノープル及海峽ノ歐洲側ニ在ル海岸エノスミヂヤ線ニ至ル迄ノツラシエン Thracien 南部地方、マルモラ海ノ諸島、イムブロス(Imbros)、テネドス(Thenedos)二島
小亞細亞地方ニ於テハ黑海、ボスポラス及イスミド(Ismid)灣ノ間ニ在ル半島ヲ東方サカ

リア（Sakaria）河ニ至ル迄

右基礎ヲ確認シタル上ニテ一九一五年及一九一六年ノ交尙談判ヲ繼續セシカ右談判中露國ハアルメニア地方トラペズント（Trapezunt）及クルヂスタン（Kurdistan）ヲ得ヘキ約ヲ得タリ

佛國ハシリヤ地方ヨリアドナ（Adona）、メルシナ（Mersina）及其ノ後方地帶北方シワス（Siwas）、カルプート（Karput）ニ至ル迄ノ地方ヲ要求シ得ルニ至リ

英國ハメソポタミヤヲ得ヘク

爾餘ノ土領小亞細亞ハ之ヲ英佛兩國利益範圍ニ分ツヘクパレスチナハ一種ノ國際的ノモノトスル如ク定メラレタリ

以上ノ外本來ノアラビヤ及土耳古人、アラビヤ人ノ居住地方並「イスラム」（Islam）ノ聖地ハ英國ノ保護ノ下ニ特殊ノ國家聯合ヲ作ルコトト定メラレタリ

伊國ノ戰爭ニ加入シ其ノ分前ヲ要求スルニ及ヒ新ニ交涉開始セラレタルカ前顯協定ノ範圍ハ何等ノ減縮ヲ見ルコトナカリキ惟フニ此問題ニ就テハ尙詳細ノ報道ニ接スルヲ得ヘク從テ之ヲ公衆ニ發表スルノ機アルヘシ

右敵國側ノ大袈裟ナル戰爭目的ヲ見ルニ於テ始メテ吾人ハ最近バルフォールカ同國政府ノ戰爭政策（目的）ニ就テ詳細ノ說明ヲ要セスト述ヘタルノ意ヲ了解スルヲ得ヘシ之即チ吾人ノ講和締結ノ希望ヲ繫ケルニ際シ現ニバルフォールカ吾人ニ示シタル立場ニ外ナラス

敵國ノ態度右ノ如クナルニ顧ミ獨國新聞界ニ於テ我方ヨリ新ニ講和ヲ提議スルヲ得サルノ說行ハル、ハ了解スルニ難カラス即チ例ヘハ八月十九日發刊「フォルウェルツ」ニ於テ戰爭繼續ノ避クヘカラサルコト及右繼續ノ責任全然我敵國側ニ存スルコト今日ノ如ク明白ナルハナシ我ヨリ延シタル講和ノ手ハ敵國ニ依リ素氣ナク拒斥セラレタリ此際吾人ノ採ルヘキ途トシテハ唯吾一身ヲ防護スルノ外アルナシト掲載セラレタルハ我國民一般ノ意向ニ適合スルモノト云フヘシ

如上述ヘ來リタルカ如キ狀況ノ下ニ今ヤ法王ノ講和運動ヲ見ルニ至レリ法王提議ノ內容ハ已知ノ事項トシテ之ヲ措キ其提議ノ根本思想ニ至リテハ法王ノ人格地位及其ノ舊敎ノ首長タル使命ニ基クモノニシテ法王ハ其提議ニ於テ先ツ力ト武器トノ代リニ法律ト道義トニ重キヲ置カサルヘカラサルヲ說ケリ此根據ヨリシテ法王ハ仲裁裁判所及軍備制限ニ關スル提議ヲ爲シ進ンテ平和締結後ノ事ニモ論及セリ

右提議內容ノ一々ニ就テハ我同盟國トノ協議ヲ遂クルニ至ル迄余ハ何等ノ意見ヲモ發表スルコトヲ得ス唯余ハ極メテ一般的ニ而モ左ノ二點ニ就キ余ノ意見ヲ開陳セントス（一）余ハ法王ノ決意カ中歐國ノ誘發ニ基クモノトスル說ニ反對セサルヘカラス余ハ交戰諸國ニ對スル法王ノ提議カ新聞紙ニ依リ傳播セラレタルカ如ク加特力敎會首ノ自發的決意ニ基クモノナルヲ言明ス（二）此際個々ノ點ニ對スル余ノ立場ハ之ヲ披瀝スルヲ得スト雖今ヨリシテ左ノ事項ハ之ヲ言明スルヲ憚ラス即チ法王ノ提議カ吾人ノ從來屢々言明シタル立場及十二月十二日以來吾人ノ採リ來レル政策ニ適合スルコト又吾人ハ此戰爭ノ國民的

慘禍ニ對シ平和ノ思想ヲ鼓吹セントスル眞摯ナル計畫ニ對シテハ常ニ同情ヲ以テ迎フルコト及惟フニ正義ト公平トヲ實現セムトスル眞面目ナル努力ト解スヘキ法王ノ運動ハ殊ニ吾人ノ歡迎スル所ナルコト之ナリ依リテ右述フル所ヲ要約スルニ左ノ三點ニ歸ス

一、法王ノ覺書ハ吾人ノ慫慂ニ基クモノニアラスシテ法王ノ自働的發意ニ基クモノナルコト

二、吾人ハ恒久ノ平和ニ依リ國民間ノ戰爭ヲ終結セシメムトスル法王ノ努力ヲ同情ヲ以テ歡迎ス

三、右提議回答ノ爲メ吾人ハ目下我同盟諸國ト交渉中ナルモ其協議ハ未タ決定ノ運ニ至ラス

此際其以上法王提議ノ詳細ニ亙リテ立チ入リタル意見ヲ述フルコトヲ得スト雖余ハ目下委員會ノ特別組織ニ關シテ協議中ナルカ其委員會ニ於テ右提議ノ回答ヲ發スルニ至ル迄尚該提議ニ關シ此上ノ協議ヲ續クルニ吝ナラサルモノナリ余ハ右協同審議ノ結果吾等一同ノ等シク胸底ニ藏セル目的即チ祖國ニ對スル名譽アル講和ニ接近センコトヲ希望スルモノナリト

第五　波蘭問題ニ關スル事項

（一）獨逸ノ對波蘭政策ノ失敗

（外事彙報大正六年第十二號）

（大正六年九月八日附報告）

前獨逸宰相ベートマンハ波蘭ニ所謂獨立ヲ與ヘテ波蘭民心ヲ收攬シ彼等ヲシテ喜ンテ獨墺側ニ與シテ共同ノ敵ニ當ラシメントスル胸算ニ基キ一九一六年十一月五日ノ布告ヲ發シタルモ次第ナルカ波蘭人ハ獨墺ノ與ヘタル獨立ニ對シ感謝ノ念ヲ有セス波蘭軍隊モ亦眞實ニ戰ハントスル意向ヲ示サス大學生ハ同盟休校ヲ爲シ波蘭參事院ハ先頃擧ツテ辭職シ波蘭諸黨派ノ希望スル所ハ獨墺側ヨリ見レハ到底承諾スル能ハサル所ノ大計畫ニシテ要スルニ獨逸ノ對波蘭政策ハ獨逸ヨリ見レハ失敗ニ終レルコト獨逸人ノ自認セル所ナリ九月五日ノ「クロイツ、ツァイトゥング」ハ曰ク吾人ハ波蘭ニ對スル虛榮的政略ヲ拋棄スルヲ要ス波蘭人ノ御機嫌ヲ取リタリトテ何ノ益アリヤ獨逸ハヴヰルソン又ハ法王ノ對波蘭政策ト決シテ競爭スヘキニアラス吾人ヲシテ波蘭獨立ヲ語ルヲ止メシメヨ以テ吾人ヲシテ波蘭領土內ニ於テモ吾人ノ欲スル儘ニ吾人ノ東部國境ヲ設定セシメヨ云々ト九月八日在ベルヌ波蘭人事務局ノ瑞西新聞ニ寄セタル報道ニ曰ク中央兩帝國ハ一九一六年十一月五日ノ布告ニテ定メタル基礎ニ依リテ波蘭王國ヲ建設スルノ計畫ヲ拋棄スルニ決シタル樣子ナリ而シテ新計畫ニ依レハ獨逸ハ其ノ東部國境ヲ更正スル爲メニ露領波蘭ノ一部分（露領波蘭ノ約十分ノ一）ヲ取リ其ノ殘餘ハ墺國ニ合併セシメラルヘシ露領波蘭トガリシヤトハ新タニ波蘭王國ヲ形成スヘクチャーレス一世ハ墺國帝皇洪牙利國王及波蘭國王トナルヘシ今日迄二重ノ元首ハ今後ハ三重ノ元首トナルナリ而シテ此新計畫ヨリ生スヘキ第一ノ結果ハ一切ノ波蘭人ヲ墺國軍隊ニ編入セシムル件ナリトス又現ニ墺國議會ノ議員タルガリシヤ選出議員ハ今後ハ新波

蘭議會ノ方ヘ出席スルコト、ナルコト勿論ナルヲ以テ墺國議會ニ於ケル獨逸人派ハ絕對的多數ヲ常ニ保持スルヲ得ヘシト

抑モ獨墺ニ於テ曩ニ（一月十四日）官選ノ波蘭假參議院ヲ開設スルヤ兩國當局者ハ之ヲ以テ波蘭土國實現ノ準備機關タラシムヘシト誇稱シ居リタルモ當時既ニ世上ニ傳ヘラレタルカ如ク同議院眞實ノ使命ハ獨墺ノ爲ニ波蘭軍編成ノ便宜ヲ計ルニ過キサリシ由ニテ其ノ後露國革命ノ影響トシテ一般波蘭人ノ間ニ獨立ニ對スル希望益〻旺盛ナラントスルニ當リ右誠意ナキ獨墺官憲ト熱狂セル波蘭人トノ間ニ介在セル假參議院ノ地位ハ愈〻困難トナリ遂ニ八月下旬獨墺官憲ニ於テ同院ノ諮詢ヲ經ルコトナク波蘭軍隊ノ大部分ヲ割キテ戰線ニ送ルヤ同二十五日假參議院ハ三名ノ代攝委員ヲ遣シテ連袂總辭職ヲ爲スニ至レリ今九月十七日發刊「キョルニッセ、ツァイツング」ニ依リ右波蘭假參議院辭職ノ經過ヲ窺フニ左ノ如シ

五月一日假參議院ハ宣言シテ曰ク今ヤ假參議院ハ其ノ立場ヲ失フニ至レリ波蘭ニ於ケル狀態ハ何人ノ滿足ヲモ買フコト能ハスト仍テ同院ハ占領國ニ要求シテ曰ク監國ヲ任命シ其ノ劈頭ノ事業トシテ純波蘭人內閣ヲ組織セシメ又議會ヲ召集セシムヘシト曰ク假參議院ニ於テ人民ノ意向ニ基キ任命スヘキ波蘭人ノ大臣ヲシテ速カニ假政府ヲ組織セシメ且此等大臣ヲシテ內閣ヲ構成セシメ同內閣ニ委スルニ監國ノ統治開始ニ至ル迄波蘭ノ統治權ヲ以テスヘシト此ニ於テ六月八日占領國ハ答ヘテ曰ク監國ノ任命ニ關スル波蘭人ノ要求ハ占領國ノ企圖ニ適ヘリト曰ク占領國ハ假參議院ヲ目スルニ聽テ自立スヘキ波蘭國ノ代表者ヲ以テシ而シテ其ノ憲法及行政組織ニ關スル同院ノ準備事業カ速ニ完成センコトヲ期待スルモノナリト曰ク占領國ハ尙或種ノ行政事項ヲ波蘭人ニ委ネントスルノ意圖ヲ有シ又監國ノ任命ニ至ル迄波蘭ニ於ケル最高機關ノ選定ヲ爲サント思考シ居タリト而シテ七月三日假參議院ハ再ヒ前顯ノ要求ニ關スル決議ヲ爲シ八月二十五日ノ總辭職ニ際シテモ右要求ノ意ヲ明カニセリ

是ニ依ツテ之ヲ觀レハ勅許狀發布以前ニ於ケル波蘭政治狀態難澁ノ一斑ヲ察スルニ難カラサルカ獨國諸新聞紙ニ依ルニ今回勅許狀ノ發布ヲ見タルハ占領國ニ於テ右事態ニ一新生面ヲ開カントスル新ナル讓歩ヲ意味スル由ニテ尙右勅許狀ト同時ニ波蘭獨墺兩總督共同ニテ前記假參議院代攝委員ニ宛テタル諭告ニ依ルモ明カニ獨墺兩帝ニ於テ前述假議院七月三日提案ノ趣旨ヲ容レテ波蘭國ノ立憲的假建設ニ對スル根基ヲ與フルモノナリト告ケ殊ニ同諭告ハ前顯參議院カ單ニ諮詢機關タルニ過キサリシニ反シ將ニ復活スヘキ參議院ハ立法上議決權ヲ有スヘク即チ同院ハ波蘭議會ノ先驅タルヘシト述ヘ居リ兩皇帝ヨリ各〻其ノ總督ニ宛テタル詔勅ヲ見ルニ共ニ占領國ハ其ノ要旨ニ於テ波蘭代表者ノ提議ニ同意シ唯戰爭狀態ニ基ク必要ノ權限ヲ留保シタルノミナリト稱シ居レトモ其ノ留保タルヤ實際ノ運用上波蘭國權ヲシテ名實相副ハサルモノタラシムヘシト論スル新聞紙アルヲ見受ク

（二）波蘭國統治組織ニ關スル獨墺兩皇帝ノ勅書並ニ總督ノ制令

（大正六年九月十七日附報告）

波蘭ノ統治權形成ニ關スル獨逸皇帝ノ勅語九月十五日正午ワルシャウニテ發表セラレタルカ其全文左ノ如シ

ワルシャウニ於ケル朕ノ總督陸軍歩兵大將ベゼラーヘ

朕ノ同盟者タル墺洪國皇帝及朕ハ千九百十六年十一月五日ノ勅書ヲ以テ基礎ヲ置キタル波蘭國ノ建設ニ就キ更ニ歩武ヲ進メンコトヲ決意シタリ一國王ヲ立テヽ以テ波蘭舊王位ニ新光彩ヲ放タシメ且又一般直接選擧ニヨル國民代表ヲシテ該國土ノ幸福ニ貢獻セシムルコトハ目下苦艱ノ戰局之ヲ許サヽルハ遺憾トスル所ナルモ吾人ハ今日既ニ大體ニ就キ國權ヲ國民政府ノ手ニ歸セシメ且又國民ノ權利及利益ヲ新ニ擴大セル國會ニ委ネントス占領國ハ該國土ノ重ナル人士ノ發議ニ同意シ唯戒嚴ノ實施ヲ留保スルニ止ムヘキナリ

朕ハ波蘭獨立國ヲ實現スルノ目的ヲ以テ執リタル新措置カ實行ノ結果民福ニ資スルコトヲ實證シ且露國ノ統治ニヨリ多年自由ノ發展ヲ阻害セラレタル國土カ國民ノ自力ニヨリ且同國ト親善ノ關係ニ立テル中央帝國ト自由ノ意思ヲ以テ密接シ以テ將來和平且多幸ナルノ域ニ入ランコトヲ期望ス此ヲ以テ朕ハ玆ニ卿ニ委ヌルニ在ルブリン墺洪國陸軍總督ト共同シ波蘭國々權ニ關スル制令ヲ發布スヘキコトヲ以テス

千九百十七年九月十二日大本營ニ於テ

皇　帝　ウィルヘルム

墺洪國帝皇モ同日右ト同趣旨ノ勅書ヲ公表セリ尙該勅書中ニ記載セル制令ハ九月十五日ワルシャウ及ルブリンニ於テ同時ニ公表セラレタルカ同文左ノ如シ

「波蘭王國々權ニ關スル千九百十七年九月十二日附制令」

第一條　第一項　波蘭王國ニ於ケル最高國權ハ國王又ハ攝政之ヲ掌握スル迄占領國ノ國際法的地位ノ許ス所ニ從ヒ攝政會議ニ委任セラルヽモノトス

第二項　攝政會議ハ占領國主權者ニヨリ選任セラレタル者三名ヲ以テ之ヲ組織ス

第三項　統治行爲ハ責任アル內閣總理大臣ノ副署ヲ要ス

第二條　第一項　立法ハ波蘭王國々會ノ協賛ニヨリ本制令及本制令ニ基キ發布スル法律ニ從ヒ攝政會議之ヲ行フモノトス

第二項　波蘭國權ニ委任セラレサル總テノ事項ニ關スル法案ハ占領國ノ同意ヲ經ルニ非サレハ國會ハ之ヲ議スルコトヲ得ス右ノ事項ニ關シテハ第一項ニヨリテ召集セラレタル波蘭國機關ノ外當分ノ間總督モ亦國會ニ諮詢シタル上法律ノ効力ヲ有スル命令ヲ發スルコトヲ得此外總督ハ重大ナル軍事的利益ヲ擁護スル爲メ法律ノ効力ヲ有スル緊急命令ヲ發スルコトヲ得但其ノ公布及實施ハ波蘭王國ノ機關之ニ當ルモノトス總督ノ命令ハ之ヲ發布シタルト同樣ノ方法ニヨリ之ヲ廢止又ハ變更スヘシ

第三項　國民ノ權利義務ニ關シ波蘭國權ノ發スル法律及命令ハ當該行政地域ヲ掌ル占領國總督ハ公布前之ヲ通告シ其ノ後十四日以內ニ總督ノ抗議ヲ受ケサリシ場合ニ限リ其ノ效力ヲ發生スルモノトス

第三條　國會ハ占領國ノ同意ヲ經テ發布スル特別法律ニヨリテ構成セラルヽモノトス

第四條　裁判及行政ハ波蘭國權ニ委任セラレタル範圍ニ於テハ波蘭裁判所及同官廳其他ニ

就テハ占領國機關之ヲ爲スモノトス

占領國ノ權利又ハ利益ニ關スル事項ニ就テハ波蘭裁判所及同官廳ノ決定又ハ命令ノ適法ナリヤ否ヤヲ調査シ且最上審ニ於ケル判決又ハ決定ニ就テハ代理人ヲ以テ當該權利又ハ利益ヲ主張セシムルコトヲ得

第五條　國際的條約ヲ締結スル權能ヲ有スル波蘭王國ノ外交代表者ハ占領終了後ニアラサレハ任命セラレサルヘシ

第六條　本制令ハ攝政會議ノ任命ト共ニ其ノ效力ヲ生ス

（三）獨墺ノ新波蘭政策ニ對スル在瑞西波蘭人及獨逸新聞ノ評論

（大正六年九月十九日附報告）

獨墺兩國皇帝ハ九月十二日附勅書ヲ下シテ波蘭王國ニ統治組織ヲ與ヘ又同日附獨墺兩總督ノ制令ハ其ノ內意ヲ規定シ以テ波蘭王國建設ニ關スル昨年十一月五日ノ獨墺兩皇帝ノ布告ヲ實行スルニ至リタル次第ナルカ在瑞西波蘭人等カ如何ニ之ヲ考フルカヲ見ルハ興味ナシトセス右ニ關シ九月十九日ノ「トリビューン、ド、ジュネーブ」紙ノ記述スル所左ノ如シ

『波蘭ノ攝政會議ハ組織セラレントス「キヨルニッシエ、フォルクス、ツァイトウング」ノ報スル所ニ依レハルボミルスキー公(Le Prince Lubomirski)ハ多分攝政會議ノ議長トナルヘク他ノ二人ハルドルフ、タルノースキー伯(La Comte Rudolph Tarnowski)及ドルッキ、ルベッキー公(Le Prince Drucki-Lubecki)ナラント云フ

果シテ然ラハ九月十五日ノ（報告者曰ク九月十二日附布達ハ九月十五日ニ發布セラレタルナリ）獨墺ノ布達ハ其ノ實行ノ端緒ヲ啓クモノト云フヘシ吾人ノ見ル所ニテハ今回ノ布達モ一九一六年十一月五日ノ布告ヲ修正再錄シタルニ過キスシテ其ノ實際ノ意義ハ實質的ト云ハンヨリハ寧ロ擬制的ト評スヘキノミ波蘭ノ獨立ハ一年前ニモ確保セラレサリシ如ク今回モ亦確保セラレサルナリ在ジュネーブ市波蘭人事務局ハ新聞ニ一ノ公表書ヲ送リタルカ此點ニ關シテハ特ニ留保ヲ爲ス公表書ハ曰ク獨逸皇帝ノ勅書ニハ自主ノ波蘭ト云ヒ又墺國皇帝ノ勅書ニハ自由ナル波蘭ト云ヒ居ルモ獨立ノ波蘭ナル文字ハ殊更ニ之ヲ使用セス何トナレハ中央兩帝國ハ軍事上及經濟上波蘭ヲ從屬ノ關係ニ置キ從ツテ間接ニ政治上ニ於テモ亦從屬ノ地位ニ置カント考フルヲ以テナリト又同公表書ハ九月十五日ノ布達ヲ發布スルニ當リ次ニ列擧スルカ如キ議會ノ制限ヲ設ケタリト指摘ス

（一）攝政會議ハ獨墺兩皇帝之ヲ任命シ波蘭王國ノ最上權ヲ有スト云ヒ居ルモ其ノ最上權ハ「中央帝國ノ國際法上ノ擔保ノ下ニ」之ヲ行ヒ得ルノミ

（二）攝政會議ハ內閣議長ヲ任命ストアレトモ中央帝國ハ右任命ヲ承認セルノ權ヲ留保ス

（三）內閣議長ハ波蘭官憲ニ委任セラレタル行政事務ヲ擔任スル所ノ內閣各省ヲ組織シ且其他ノ官廳ヲ設定ストアレトモ「占領國官憲ト協議ノ上」之ヲ行ハサルヘカラス

（四）攝政會議ハ國會(Conseil d'Etat 是迄ノ假參議院ヨリモ一層人數ヲ増加シ以テ目

下不成立中ノ參議院 Diete ニ代ルモノトス）ヲ設クヘキ法律ヲ制定ストアレトモ夫ニハ占領兩國ノ承認ヲ要ス

（五）攝政會議及參議院ハ立法權ヲ行フモ波蘭官憲ノ定メタル法令ハ豫メ總督ニ通知スルヲ要ス

（六）司法及行政官憲ノ權限ヲ明白ニ規定セス只右行政司法ニハ國ノ裁判所及行政官署之ニ當リ其ノ權限ハ波蘭官憲ニ委任セラレタル範圍ニ限ルナリ

加之ナラス中央兩帝國ハ波蘭王國ノ外交代表者派遣ノ權及國際條約締結ノ權ヲ彼等ノ掌中ニ把持シ居ルナリ尚又今回ノ布達ノ最大弱點ハ波蘭政府ノ行政スヘキ波蘭國ノ領域ニ就テハ全然沈默シ居ル點ナリトス墺國領波蘭ニ就テハ何等言及スルトコロナシ況ンヤ普國領波蘭ニ於テヲヤ然レトモ波蘭人全體ノ希望ハ分割セラレ居ル波蘭ヲ統一シ之ヲ獨立セシムルニ存ス』云々

飜テ九月十二日ノ布達ニ對スル獨逸新聞ノ論調ヲ見ルニ自由主義ノ新聞ハ大體之ヲ是認シ只攝政及內閣議長ノ人選コソ最モ必要ナリト戒告シ社會主義新聞中ニハ波蘭國ニ憲法ヲ「下付」シタリトテ波蘭人ノ民主的希望ヲ滿足セシメ得ルモノニアラス伯林ノ對波蘭政策ハ遂ニ失敗ニ終ルヘキコト今日ヨリ明白ナリト論シタルモアリ保守黨新聞ハ過去十箇月間ノ失敗ノ經驗ニモ懲リスシテ依然看板ノミ立派ナル政策ヲ實行シ居ルモ其ノ失敗ニ歸スヘキハ明カナリト反對ノ理由ニテ非難シ又或新聞ハ選擧ニ依リテ國會ヲ組織セサルハ遺憾ナリト論セリゲオルグ、ベルナルドハ九月十五日ノ「ヴォッシッシエ、ツァイトウング」紙上ニ論シテ曰ク波蘭人カ果シテ中央帝國ニ忠實ナル態度ヲ執ルヘキヤ否ヤハ不明ナリ且獨墺洪國ノ協商スラ未タ完全ニ成立シ居ラサルニアラスヤ波蘭問題ノ解決ヲ平和締結ノ翌日ニ讓ラサリシハ遺憾ナリト保守黨機關紙「クロイツ、ツァイトウング」ハ曰ク波蘭設立ハ獨逸ノ利益ニ反ス平和條約ハ波蘭人ノ友情ヲ保障シ得ルモノニアラサルヲ以テ普魯西ノ國境ヲ波蘭領地內ニ進ムルハ缺クヘカラサル事ナリト全獨主義ノ「ドイッチェ、ターゲス、ツァイトウング」ハ曰ク波蘭人ハ吾人ノ期待ニ副ハサリシナリ彼等ハ中央帝國ノ軍隊ト共ニ戰フヘキ波蘭軍隊ヲ作ラサリシナリ獨逸人ノミ獨リ鮮血ヲ濺キテ波蘭防禦ノ爲メニ露國ト戰ヒタリ然ルニ波蘭人ハ我占領官憲ニ種々ノ苦情難題ヲ提起シテ吾人ノ與ヘタル恩惠ニ酬イタルナリ九月十二日ノ布達ハ獨逸ニ領土的保障ヲ提供スルモノニアラス人ハ只波蘭ノ利益ニノミ腐心シテ獨逸ノ利益ハ之ヲ閑却シタリ九月十二日ノ布達ハ獨逸ハ墺國ト協議ノ上確定シタルコト固ヨリ當然ノ次第ナレトモ波蘭問題ニ對スル墺洪國ノ立場ト獨逸ノ立場トハ全然相異ナレルモノナルコトヲ忘却スヘカラス兩帝國ノ波蘭ニ於ケル利益ハ根本ヨリ一致セサルナリ獨逸ノ政策カ墺洪國ノ利益ノ爲メニ自制克己ノ態度ニ出テタリトセハ如何ニモ其ノ心事高尙ナレトモ斯カル態度ハ酷烈ナル爭鬪ニ從事シ居ル大帝國ノ意圖及利害ト果シテ能ク相調和シ得ヘキヤ云々ト

（四）新波蘭政策ニ關スル墺國新聞ノ論調

（大正六年九月二十日附報告）

墺國新聞ハ所謂自由波蘭建設ニ關スル九月十五日發布ノ布告ヲ獨逸新聞ヨリモ一層歡迎ス但シ墺洪國ト新波蘭トノ關係尙充分明白ナラサルト波蘭人ノ輿論トニ若干不安ノ念ヲ抱キ居レリ

九月十六日ノ「ライヒスポスト」ハ自由波蘭而カモ一切ノ點ニ於テ獨立トナリタル波蘭ヲ創設セル勅書ヲ盛ニ讃稱スルト同時ニ波蘭ノ諸政黨ヲシテ不滿ヲ抱キ又ハ無益ノ擾動ヲ起サシムルコトナキ樣注意スルヲ必要ト認メ且曰ク波蘭ハ世襲王國タルヘシワルツビーノ共和主義者ハ此事ヲ觀念スルヲ要スト又曰ク波蘭ノ境界ハ今日問題トナラス目下ノ處ニテハウクラインノ何レノ部分ヲ波蘭ニ併合セシメ得ヘキヤモ之ヲ豫言スル能ハス境界ハ平和締結後始メテ劃定シ得ヘキノミ波蘭人カ救濟者ノ側ニ立チテ名譽アル戰爭ノ終結ニ協力スルコト愈々大ナレハ新波蘭ノ確立設定ニ對スル彼等ノ分ケ前モ亦益々大ナルヘシ若シモ波蘭人民及諸政黨カ彼等ノ救濟者ハ彼等ノ信任及好意ヲ期待スルノ權利アルコトヲ理解スルニ於テハ萬事好都合ニ運フヘキモ若シ又彼等カ其點ヲ忘却スルニ於テハ一切ハ滅却スヘシ刻下ノ歷史的大事業ハ又重大ナル義務ヲ負擔セシム此義務ヲ閑却スルノ結果ハ救濟者ニ取リ不幸ナルカ如ク波蘭ニ取リテモ亦不幸ナルヘシ

九月十六日ノ「ノイエ、フライエ、プレッセ」ハ曰ク波蘭問題ノ解決ニハ困難尠シトセス特ニガリシヤ及其ノ近傍ノ土地ハ露國ヨリ脅威セラル、コト、ナルヘキヲ以テ此等ノ困難ハ一層其度ヲ加フルニ至ルヘシ波蘭ハ結局ノ處墺洪國ト密接ナル連鎖ヲ以テ結合セシメサルヘカラス而シテ其連鎖ハ之ヲ同國憲法中ニ規定スルヲ要スヘシ又波蘭ノ爲メニモ墺洪國ノ爲メニモ維納政府ハガリシヤヲ如何ニスルカヲ速カニ決定スルヲ要ス戰爭繼續中ハ波蘭問題ハ極メテ簡單ナリ波蘭ハ占領國ノ加ヘ居ル制限ニ苦情ヲ挾ムヘキニアラス平和ノ日ニ於テ波蘭工業者及商人等ハ露國ノ大市場ヲ失ヘルコトヲ悲ムナランモ此點ニ關シテハ墺國モ亦東方ニ其ノ經濟的盡力ヲ差向ケント欲シ居ルナリ露國カ戰後中歐諸國ニ經濟的活動ノ大區域ヲ提供スヘキコトハ敢テ望ミ得ヘカラサル事ニアラス云々ト

維納諸新聞ニ依レハ波蘭ニ組織セラルヘキ官省ハ司法、文部、農務、勞働務、宗教及美術ノ諸省ニシテ總督ハ警察、內務、財務、商務及陸軍ヲ保持スヘシト云フ

尙又「ジエンキ、ナロドウイ」新聞ハ獨逸官憲ハリチユアニー及クールランドヲ各々特殊ノ國トナシグルドノ及ヴヰルナヲ包含スルリチユアニーノ部分ハ之ヲ波蘭ニ併合セシムル意向ナリト傳フ

（五）波蘭ノ攝政會議ノ組織及其ノ宣言

（大正六年十月二十日附報告）

在ジユネーブ波蘭情報局ポロニアニ宛アワルソーヨリ直接到着シタル通信ハ左ノ事ヲ傳フ

攝政會議三人ノ宣誓式ハ近日中ニ王宮ニテ執行セラルヘシ宣誓ハ波蘭僭正ノ司掌ノ下ニ行ハル、筈ナリ宣誓後攝政會議ハ波蘭國民ニ宣言書ヲ發シテ（一）同會議カ最高權ヲ掌握シタルコト（二）强制徵兵制ノ基礎ノ上ニ波蘭軍隊ヲ組織スルノ必要アルコト及（三）波蘭國ト中央兩帝國トノ關係親密ナルコトヲ布告スルナラン詳細ニ渉レル政綱ハ首相ヨリ發

表セラル、筈ナルモ首相ノ人選未タ定マラス從テ内閣ノ組織モ尙未定ナリ政治犯人ノ特赦ヲ行ヒ及ピルサドスキー將軍ヲ放釋スルナラントノ前觸ハ頗ル重要視セラル

報告者曰クリガ陷落ニ次キリガ灣口ノ諸島モ占領セラレレベル及ペトログラード撤退ノ說モ傳ハリタル今日獨逸側ハ波蘭、クールランド、リボニー等ヲ追々政治的ニ固メツヽアリテ現ニ宰相モクールランドニ出張中ナリ

第六　獨國ノ對敵問題ニ關スル事項

（外事彙報大正六年第十一號）

（一）　獨逸國内加特力派ノ平和運動

（一九一七年七月二十一日「フランクフルター、ツァイツング」所載）

近時加特力敎社會ニ於テモ各國民間ノ相互了解ヲ目的トスル運動增大セルハ注目ニ値ス從來加特力敎ニ於テ此方面ニ活動シタルハ只法王アルノミニシテ各國ノ加特力敎徒ハ大部分（而モ就中政治上最モ勢力アル階級ノモノ）侵略主義ニ墮シタリキ敵國諸邦ニ於テハ此傾向今尙變セサレ共中央諸國ニ於テハ所在ニ加特力敎ノ超國民的性質ノ回想カ復活スルニ至リ獨逸中央黨系ノ諸紙ハ「此事ヲ依然トシテ法王ノ獨占ニ委スヘキヤ吾人ハ加特力敎徒カ戰前ニ有シタリシ種々ノ國際的同盟ヲ無爲ニ終ラシムヘキヤ將タ又之ヲ利用シテ各國民ヲ相互ニ接近セシムヘキ機關タラシム可キヤ」ノ問題ヲ論シ法王ノ精神ヲ體シテ活動シ而シテ其ノ中央機關ヲ在グラッツ白十字社ニ設置スヘキ世界平和同盟ノ設立ヲ慫慂スル宣言書ヲ發表セリ

一、吾人ハ戰場ニ於ケル無益ノ流血ヲ終結セシムル事並ニ各國民共同生活ニ關スル道德的企劃ヲ權力手段ヲ以テ芟除スルノ政策ヲ廢棄セン事ヲ要望ス

二、吾人ハ文明開化道德宗敎ノ名ニ於テ永續的平和ヲ要望ス

三、吾人ハ各國民カ外敵抗爭ニ齷齪スルヲ罷メテ專ラ各國民共同ノ內敵即チ酒精飮用、花柳病其他ノ不道德ニ對シテ全力ヲ集注セン事ヲ要望ス

四、吾人ハ各國民カ無意味ナル海陸軍備ヲ撤去シ全力ヲ擧ケテ積極的保育事業ニ集注センコトヲ要望ス

五、吾人ハ此新組織樹立ノ前提トシテ各國平和團體カ各國々內ノ秩序ヲ維持シ保育的施設ヲ保護スルニ必要ナル程度ニ於テ各國同一ノ割合ヲ以テ軍備ヲ繼續スル事ヲ要求スルノ綱領ヲ定メン事ヲ要望ス

六、吾人ハ各國政府並ニ議會カ相互ノ正當ナル要求ニ就キ光榮アル平和的了解ヲ遂クル爲メニ相率ヰテ活動シ又現今ニ於テハ餘リニ高價ナレトモ將來ノ國民ノ爲メニ正當ト看做サル、モノ、爲メニ絕對的好意ヲ有セン事ヲ要望ス

七、吾人ハ各國政府並ニ議會ニ對シ永續的世界平和乃至世界文化同盟ヲ目的トスルノ運動ヲ助長シ國際法解釋ノ些細ナル外部的方法ノミナラス各個人乃至各國民生活中ニ於ケル個人主義乃至不正義ノ精神ヲ掃蕩シ以テ戰因ヲ除去スル事ニ努力セン事ヲ要望ス

八、吾人ハ人種間ノ爭其他各國民內部ノ人種ノ勢力爭ヲ除去スル事及各人種カ其ノ固有ノ國語其ノ固有ノ文明乃至固有ノ宗敎ヲ國內ニ於テ何等ノ障碍ナク保有シ得ヘキ天賦ノ人權ヲ認ムル事ヲ要望ス

九、吾人ハ各國民生活ニ於ケル權力政策ノ精神ヲ助長シ延イテハ國際生活上ノ權力政策ノ精神乃至世界戰爭ノ精神ヲ促進スル階級間ノ爭鬪ヲ社會的調和、社會的正義乃至基督敎ノ愛隣ノ精神ニヨリテ掃蕩セン事ヲ要望ス

十、侵略主義其ノ他戰爭的精神ノ養成ヲ排斥シテ社會的義務心、眞理愛好心、正直、無私、正義、愛隣、博愛、及社會的責任ノ精神ヲ覺醒スル新敎育制度ヲ樹立スル事ヲ要望ス

十一、吾人ハ各民族ノ繼續的了解乃至平和的共同生活ノ唯一ノ基礎トシテ公生活ニ於テモ「マキヤヴェリ」主義ヲ棄テ、基督敎律ニ依ラム事ヲ要望ス

十二、吾人ハ凡テノ民族、國家及人民カ實行的基督敎ニ復古シ神ノ道德律及神ノ要求シ給フ正義ト愛隣トヲ無條件ニ顧慮スル處ナク承認シ且實行セン事ヲ要望ス

斯クノ如キ運動カ有意義ナルニ至ル可キヤ否ヤハ繫リテ其ノ綱領カ徵候トシテ注意スルニ足ルヤ否ヤニアリ中央黨中全獨主義派ノ機關紙タル「ケルニッシェ、フォルクス、ツァイツング」ハ勿論此運動ニ加ハリ居ラス吾人ハ戰後ニ同紙其他類似新聞カ如何ナル地步ヲ保有スヘキカニ就キ興味ヲ感セスンハ非ス只今日疑ナキハ此運動ノ萌芽カ戰後益々勢力ヲ得ヘキ事ニシテ現今此派ノ者カ將來「ケルニッシェ、フォルクスツァイツング」ヲ攻擊スヘキ材料ヲ蒐集シツヽアル事ヲ推測スルコトヲ得

（二）獨逸ニ於ケル獨露同盟論

（大正六年八月九日附報告）

獨逸帝國議會下院議員マックス、コーヘンハ八月三日「フォッシッシェ、ツァイツング」ニ寄稿シ獨逸外交ノ根本問題ナル題下ニ對英米策トシテ獨露同盟ノ必要ヲ力說シタルカ其ノ論調ハ議會多數派ノ意見ニ接近シ且孤立ノ現狀ヲ脫セント焦慮セル輿論ノ趨向ヲ表明シ居ルモノト認メラルヽヲ以テ其ノ大要ヲ左ニ譯出ス

現戰爭ヲ中心トシ變轉極マリナキ事態ニ眩惑セサル識者ハ獨逸ノ將來ニ最モ重要ナルハ獨露同盟ナルコトヲ承知スルナルヘシ最近ガリシアニ於ケル露軍失敗ノ爲メ露國ハ發達ノ見込ナキ混亂狀態ニ陷ルヘシト速斷スルハ皮相ノ見解ニシテ露國ハ現戰爭ヲ中止セハ容易ニ政局ヲ收拾シ得ヘク又露國カ右方針ヲ執ルニ至ルヘキ見込ハ露軍攻勢ノ失敗及獨逸軍逆襲ノ結果一層增大セリ露國ノ分裂ハ何等獨逸ニ裨益スルコトナク吾人ノ期待スル處ハ露國カ漸次內部ノ結束ヲ堅クシ且吾人ト協同シテ獨露親善ノ地盤タルヘキ急速且一般的妥協平和ノ實現ニ努力スヘキコトナリ

聯合側ハ獨墺軍ノ成功ヲ以テ獨露間ヲ離間スル材料ニ使用スヘキモ獨逸ノ目的カ獨露親善ニ存スル限リ獨墺軍ノ優勢ハ毫末モ露國ノ自由ヲ危險ナラシムル意味ヲ有セス東部戰線ニ於ケル獨逸ノ進擊ハ畢竟露軍ノ攻勢ニ對スル應酬手段ニシテ其攻擊カ偶々軍略上重大ノ效

果ヲ收メタリトスルモ獨逸ノ東方ニ對スル政治上ノ方針トハ何等ノ關係ヲ有セス獨逸ノ對露政策ハ此種軍事上ノ事件トハ相關セスシテ獨逸全局ノ情勢及戰後ニ來ルヘキ時代ノ必要ヲ考量シテ決定セラルヘキモノナリ

獨逸ノ政治上ノ目的ハ結局自國ノ經濟的發達ヲ保障スルコト及戰爭ノ再發ヲ防止スルコトノ二點ニ歸着ス而カモ是等重大ナル目的ハ自國領土ノ擴張ノ如キ不正當ナル手段ニ依リ成就シ得ヘキモノナリヤ又假リニ同手段ニ依リ成就シ得ヘシトスルモ領土擴張ハ中歐同盟國カ全體ノ成功者トシテ平和條件ヲ自由ニ指定シ得ル場合ニ始メテ問題トナルヘキモノニシテ獨逸カ全世界ヲ敵トセル現狀ニ鑒ミ眞面目ナル政治家ハ獨逸ニ斯カル有利ナル時機ノ到達ヲ信セサルナリ畢竟獨逸ノ將來ヲ確保スヘキ政策ハ領土擴張以外ニ存シ現在ノ敵國聯合ヲ破壞シ同時ニ同一聯合カ獨逸ニ對シ再現スルノ虞レナキ國際關係ノ設定ヲ要件トセサル可カラス尙獨逸カ勝利者タル場合ヲ想像スルモ獨逸ハ今後親善關係ヲ設定セントスル邦國ニ對シテハ殊ニ好意的條件ヲ提供セサル可ラス而シテ現聯合國中ヨリ分離シ獨逸カ自國ノ味方タラシメ得ヘキ自然的條件ヲ最モ多分ニ有スルハ露西亞ナリ

吾人ハ露國ノ帝政當時卒先親露主義ヲ唱導シタルカ其後余輩ニ反對セル政派ノ人々モ漸次獨露接近ノ必要ヲ承認シ目下獨露提携ハ國民多數ノ贊同スル處トナレリ唯タ右ニ關シ注意スヘキハ露國ト眞正且永續的親善關係ヲ結ハントスルニハ如何ナル事情ノ下ニモ露國ノ版圖ノ分割ヲ全然棄權シ總テノ緊爭問題ヲ友誼的妥協ニ依リ決スル外道ナキナリ

本年七月十九日獨逸帝國議會ニ於テ大多數ヲ以テ可決セル平和形式ニ關スル決議ハ獨逸國民及帝國政府カ以上余ノ指摘セル政策ヲ實行セントスル眞面目ノ意思ヲ有スルコトヲ表明シタルモノナリ白耳義フランダー海岸ヲ繼續占領スルニアラサレハ獨逸ハ現戰爭ニ失敗セルモノナリト高唱スル見解ニ對シテハ吾人ハ絕對ニ反對ヲ表ス吾人ハフランダー海岸カ獨逸ニ提供スル價値ヲ否認スルモノニアラス又吾人ハ領土擴張ノ言說ヲ聽ク每ニ不吉ナリトシテ耳ヲ蔽フカ如キ偏狹ナル一派ニ所屬セス唯タ茲ニ明瞭ニ決定シ置カサル可ラサルコトハ獨逸將來ノ幸福ノ爲メニハ白耳義領土ノ一部ヲ取得スルヨリモ獨露ノ親善カ一層重大ノ意義ヲ有スルノ一事ナリ

露國ト一旦同盟スル以上獨逸ハ將來他國トノ紛議ヲ冷靜ニ看過スルコトヲ得ヘク反對ニ露國トノ妥協ナキ限リ獨逸ハ假令西部ニ領土ヲ擴張シ白耳義ヲ領有セル場合ト雖枕ヲ高クスル能ハサルヘシ然ルニ一部政治家カ土地併合ナル虛榮ニ沈醉シ殊ニ東部ニ對シテモ領土ヲ擴張スヘシト主張スルカ如キハ將來露獨協同シテ英米ヨリ來ルヘキ危險ニ對抗セントスル獨逸ノ根本方針ニ大障害ヲ與フルモノナリ

獨逸ノ對外政策カ併合論者ニ依リ指導セラルヽモノトセハ獨逸ハ永劫現聯合國ヲ對手トセサル可ラス斯クノ如キハ實ニ吾人子孫ノ運命ヲ玩弄スルニ均シキモノナリ又白耳義併合ノ如キハ一種ノ空想ニシテ英國カ現戰爭ニ全然失敗セサル限リ實現セラルヘカラス而カモ亞米利加ト協同セル英國ニ對シ獨逸カ右ノ如キ全勝ヲ期待シ得ヘキヤ獨逸政治家中一人モ之ヲ主張シ得ル者ナカルヘシ

事態ノ眞相ハ以上ノ如ク交戰國双方ハ近キ將來ニ於テ他一方ヲ征服スヘキ見込ヲ有セス獨

逸政府竝ニ帝國議會ハ玆ニ鑒ミ最近領土擴張其他對手國ヲ强制スルコトナキ妥協平和ノ意向ヲ宣言シタリ西部戰線ニ於ケル獨逸軍ハ言語ニ絕セル勇敢ヲ以テ優勢ナル敵軍ヲ擊退シ倘明年米國兵參加ノ後ニ於テモ西部獨逸戰線ニ動搖ノ生スルコトナキハ吾人ノ確信スル所ナリ然ラハ佛國ハ明年ニ於テモ猶現在ト同樣徒ラニ米國ノ援兵ニ依賴シ第五年冬期戰ヲ忍耐セサル可ラサルヤ吾人ノ見ル所ヲ以テスレハ佛國ハ獨露兩國ト同樣總テ併合計畫ヲ放棄シ獨露兩國ノ希望スル一般的妥協平和ニ同意セサル限リ現戰爭ノ災厄ヨリ脫出シ能ハサルモノナリ

獨佛間ノ利害妥協ハ兩國ニ於テ眞面目ニ考量スル以上之ヲ實現シ得ル幾多ノ事情ヲ有スルモノナリ又獨佛兩國ノ接近スルニ於テハ英國ト雖モ永ク平和促進ノ妨害ヲ繼續スルコト能ハサルヘク軍事上ニ於ケル米國ノ援助カ制限的ノモノタルコト及露國兵力ノ崩解セル事實ハ英國ニ於テモ漸次平和運動發生ノ結果ヲ生スヘシ

講和機運ノ高潮セルトキハ獨逸ノ爲メ最モ重大ナル時機ニシテ獨逸ハ其際獨露提携ヲ堅持シテ動カサル政治家ヲ其ノ局ニ當ラシメサル可ラス倘今日ヨリ講和談判ノ際領土擴張ヲ主張スルカ如キ誤謬ノ生セサル樣輿論ヲ啓發スルコト最モ必要ナリ領土擴張ハ獨逸ニ對スル最モ危險ナル誘惑ニシテ吾人ハ戰後ニ於ケル强國ノ勢力關係ヲ仔細ニ考量シ勉メテ此種惑誘ヲ回避セサル可ラス萬一講和談判ニ於テ獨逸カ露國ノ土地領有ヲ主張スルカ如キコトアラハ獨逸ハ將來ノ友邦ヲ失ヒ吾人カ經濟的ニ必死ノ競爭ヲ爲サントスル英米帝國主義者ノ術中ニ陷ルモノナリ

戰爭後ニ於テハ英米聯合ノ强大ナル勢力ニ對シ均衡ヲ維持スル爲メ歐洲大陸同盟ヲ組織セサル可カラス而シテ右同盟ノ基礎ハ政治上及經濟上相互ニ依賴スヘキ二大國即チ獨逸及露西亞タラサル可ラス倘露獨同盟ノ成立ハ同時ニ現在獨逸ノ同盟國タル墺國其他ノ健全ナル發達ヲ保證スルモノナリ

（三）八月四日獨逸帝國議會ノ第三回大會議記念祝賀會ニ於ケル各代表者ノ演說

（大正六年八月八日附報告）

一九一四年八月四日ハ開戰後初メテ開會セル獨逸帝國議會ノ大會議日ナリシヲ以テ其ノ第三回紀念日ヲ祝スル爲メ本年八月四日帝國議會內ニ祝賀會開催セラレタリ

今回ノ戰爭ハ干戈ノ戰爭ノ外同時ニ祝電交換戰爭、演說及公表戰爭、大會、集會、示威運動、戰爭等最モ盛ニ行ハル獨逸ノ右祝賀會モ亦幾分其ノ意味ヲ帶ヒタルモノナルヘシ出席者ハ帝國議會議員、軍憲代表者、各行政廳代表者、工業界及商業界代表者等ニシテ勞働團體代表者モ亦參加シタリト云フ

帝國議會議長カンフハ第一ニ起立シテ獨逸ノ科學、獨逸ノ技術及獨逸ノ兵力カ過去三年間ニ於テ如何ニ赫々タル偉功ヲ奏シタルカヲ縷述シ我領土ニ侵入セル敵ヲ驅逐シ英國海軍ヲ痛擊シ獨逸ノ財政經濟狀態ハ完全ナリト指摘シ又聯合側ハ征服意圖ヲ包藏スルモ獨逸ノ政策ハ侵略ヲ思ハス一九一四年八月四日ノ吾人ノ宣言形式ハ『吾人ハ侵略ノ爲メニ戰ハス』ト

云フニ在リタルヲ回顧シ一九一七年八月四日ニ於テモ吾人ハ尙此形式ヲ敵ニ向ヒテ繰リ返スモノナリ然レトモ敵ニシテ吾人ノ平和的意向ヲ無視シ以テ平和拒絕ノ責任ヲ往等自ラ甘受スルニ於テハ吾人ハ益々吾等ノ劍ヲ磨キ之ヲ揮ヒテ帝國ノ安全及吾人ノ自由發達ノ保障ヲ得ルマテ奮闘スルヲ辭セスト述ヘタリ

第二席ノ演者ハ參謀長フォン、フライターグ、ローリング、ホーヘンニシテ戰死者ニ對シ吾人ノ感謝ヲ表スヘキ最上ノ方法ハ吾人ノ活力及吾人ノ正氣ヲ飽迄モ維持シ發揮スルニ在リト述ヘ次テ實業界代表者、伯林市長等續々登壇シ勞働團體代表者レジーンハ勞働者モ皆祖國防衛ノ爲メニ飽迄モ働クノ決心ナル旨ヲ述ヘタリ（報告者曰ク或獨逸新聞ハ八月四日ノ英國首相ロイド、ジョージノ演說ニ皮肉ナル評ヲ加ヘテ曰ク氏ノ演說ノ內容ハ兎ニ角戰時ニ於テ唯口舌ヲ弄スル程、骨ノ折レサル仕事ハ無シ云々ト又一般ニ獨逸政治家ハ主義ヲ異ニスルカ故ニ辯舌ニ於テハ到底英佛政治家ニ及ハサレトモ戰爭最中駄辯ハ無用ナリト論シタルモアリ）最後ニ宰相ミハエリスハ述ヘテ曰ク

三年前ノ今日ハ獨逸國民カ吾人ニ强ヒラレタル大爭闘ヲ一致ノ熱情ヲ以テ引受ケタル偉大ナル日ニシテ當日ノ感覺ハ吾人ノ腦裡ニ猶新タナリ一九一四年八月四日ハ如何ナル國民モ嘗テ受ケタルコトナキ大危難ニ遭遇シテ吾等獨逸國民カ愛國的決意、義勇ノ精神及勝利獲得ノ信念ヲ示シタル歷史上ノ一大紀念日ナリトス今日吾人ハ皆吾人ノ欲スル所ノ何物ナルカヲ知レリ吾人ハ吾人ノ祖先カ吾人ニ貽シタル遺產ヲ次代ノ人々ニ完全ニ傳ヘンコトヲ欲ス吾人ハ吾人ノ子孫ヲシテ現戰爭ノ如キ災厄ヲ免レシメンコトヲ欲ス吾人ハ力アリ且思慮アル平和ヲ收メ得テ獨逸國民ノ爲メニ鞏固ナル地盤ニ立チ其ノ才能ヲ健全ニ確實ニ發達シ得ヘキ保障ヲ獲得センコトヲ願フ

予ノ前ニ演說セラレタル諸君ノ述ヘラレタル如ク吾人ノ氣力ハ毫モ衰フル所ナシ吾人ハ一九一四年八月四日ニ於ケルト同シク吾人ノ目的トスル所ヲ達成セスンハ已マサル不拔ノ意思ヲ有ス今日吾人ハ左ノ形式ヲ發輝スルニ努メサルヘカラス曰ク『吾人ノ目的、意思及祖國ノ三者ヲ個人的生活以上ニ置ケヨ』ト吾人ノ犧牲愈々大ナレハ其ノ報酬ハ愈々高カルヘシ吾人ハ皇帝及帝國ニ忠誠ヲ誓フ祖國皇帝及帝國ノ爲メニ「フラー」ヲ三唱セン

散會前祝賀會ハ確實ニシテ光榮アル平和ヲ獲得スルノ希望ヲ表明セル電報ヲ皇帝ニ發送シタリト云フ

（四）八月二十一日ノ帝國議會本委員會ニ於ケル獨逸宰相ノ演說

（大正六年八月二十二日附報告）

獨逸宰相ミヒャアエリスハ八月二十一日獨逸帝國議會中央委員會ニ於テ支那暹羅等ノ戰爭參加、一般軍事狀況、聯合側ノ戰爭目的及羅馬法王ノ講和勸告ニ關シ大要左ノ如ク演說シタリ

「宰相ノ職ニ任命セラレタル以來予ノ外政上ノ任務ハ先ツ我同盟諸國ノ當路政治家ト打合セスルニアリタリ勃牙利及土耳其トハ遺憾ナカラ書信ノ往復ヲ以テ之ヲ爲スノ外ナカ

リシモ墺洪國政治家トハ再三親シク意見ヲ交換シ始ニ維納次ニ大本營ニ於テ又最後ニハチェルニン伯伯林來訪ノ際之ヲ爲セリ吾人ハ充分ナル信賴ヲ以テ事業ヲ繼續センカ爲メ和衷協同セリ同盟ハ確乎トシテ破ル丶コトナシ吾人ハ今後モ引續キ意見ノ交換ヲ爲スヘシト約定セルカ此事實ハ我同盟國間ニ現存スル密接ナル關係ニ適合スルモノナリ

議會閉會後吾人ノ敵ヲ加フルコト三ヲ數ヘタリ暹羅、リベリヤ及支那是ナルカ此等ノ諸國ハ吾人ノ敵タルヘキ些少ノ理由ヲモ有セス此等ハ全然協商國及北米合衆國ノ壓迫ニヨリ行動セルモノニシテリベリヤ及支那ニ於テハ米國ノ影響殊ニ大ナリ而シテ吾人ハ右ノ三國ニ對シ若シ此等カ國際法ニ違反シ獨逸ノ利益ヲ害シタル場合ニハ其責任ヲ問フヘキ旨ヲ確言シ置ケリ

吾人ノ同盟國間ノ關係ニ就テハ敵國間ト異ナリ充分ナル一致ヲ示セリ之最高司令部ニ感謝スヘキ點ナルカ軍隊統率上ニ於ケル一致ハ又之ニ相當スル成功ヲ齎セリ予ハヒンデンブルグ元帥ニ乞フニ現下ノ戰局ニ關スル報告ヲ爲サンコトヲ以テシタルカ同元帥ハ答フルニ左ノ電報ヲ以テセリ

『潜航艇戰ノ効果如何ニ大ナル歟ヲ證明スルハ英佛兩國カ今年內ニ西部戰線ニ於テ吾人ヲ壓服スルノ目的ヲ以テ多大ノ損害ニモ拘ラス激戰ヲ繼續スルノ執拗ニ優ルモノナシ英人ハ莫大ノ人命及材料ヲ賭シ愼重ナル準備ヲナシ短時日中ニ二回迄モ我フランダーノ陣地ニ突入セントシタルト共ニ多大ノ兵力ヲ準備シ突入ニ次クニ突破ヲ以テシフランダー海岸ヲ占領シ潜航艇ノ根據地ヲ全滅セントシタルカ兩度共其大攻擊ハ失敗シ甚大ノ損害ヲ蒙リタリ敵ハ無謀ニ人命ヲ賭セルニ拘ラス我陣地前ノ漏斗狀地ヲ超ユルコト能ハス佛軍モ亦同樣ノ事由ニ依リ一昨日ヴェルダンニ於テ大規模ノ攻勢ヲ採リタリ始メ我砲兵ノ反擊ハ佛國攻勢ノ開始ヲ著シク遷延セシメタルカ步兵亦砲戰中ニ逆襲シ其攻擊力ヲ示シ結局佛軍ハ大損害ヲ蒙リタル後漸クニシテ二三無價値ノ漏斗狀地ヲ得タルニ止マレリ此等ノ成功ハ我勇敢ナル軍隊及優越セル統率者ノ賜ナルカランス、エーヌ及西シャンパーニュニ於ケル副攻勢モ多大ノ兵數ヲ賭シタルニ拘ラス何等ノ成功ナカリキ是ヲ以テ西部戰線ニ於ケル今後ノ戰鬪ハ優勢ナル敵ニ偶〻些少ノ局部的成功ヲ與フルカ如キコトアルヘキモ全體ニ於テハ我有利ナル軍事的形勢ヲ轉回セシムルカ如キ事ナキヲ吾人ハ意ヲ安ンシテ豫見シ得ヘシ東方ニテハ我軍ハ防禦攻擊兩方面ニ於テ新勝利ヲ博シ敵ノ大衆攻擊ハ到ル處ニ失敗シ損害ヲ受ケ我忠誠ナル同盟國ノ廣大ナル地域ハ回復セラレタリ之勝利ノ信念カ數ニ於テ優勢ナル敵ヲモ屈服セシメ得ルコトヲ新ニ證明スルモノナリ巴爾幹及亞細亞ニ於ケル獨逸軍隊ハ勇敢ナル勃牙利人土耳古人ト提携奮鬪セリ

全戰線ヲ通覽スルニ戰爭第四年初頭ニ於ケル我軍ノ狀勢ハ嘗テ見サリシ程有利ナリ』

海上ニ於ケル成功モ亦陸上ノ成功ニ劣ラス最近公表セラレタル所ニヨレハ七月中我軍事行動ノ爲メニ沈沒シタル船舶八十一萬一千噸ニ達ス

我側ニ於ケル斯カル成功及敵ノ失敗ニ就キ觀察スルニ於テハ從來敵國側ニテ一度モ講和的意向殊ニ斷念的講和ノ意向ノ認メラレサリシハ一見不了解ナリ

予ハ最近佛露祕密條約ニ關スル報道ヲ爲シ以テ佛蘭西カ如何ニ廣大ナル戰爭目的ヲ包藏

シ英國亦此獨逸領土ニ對スル佛國ノ願望ヲ支持シ居ルカヲ明ニシ得タルカ最近ニ至リテ漸ク英國内閣ノ一員ハ獨逸軍カライン河右岸迄擊退セラル、ニ非サレハ講和アルヘカラサルコトヲ言明スルニ至レリ

予ハ更ニ又吾人ノ敵カ戰爭目的ニ就キ締結シタル條約ヲ檢覈シ來ラントス右ニ關スル二三事項ハ既ニ本委員會ニ報告スルノ機會アリタルカ玆ニ予ハ年次ヲ逐フテ說述スヘシ千九百十四年九月七日敵國聯合ハ共同講和ニ限リ之ヲ爲スヘキコトヲ決意シ千九百十五年三月四日露亞西ハ講和締結ニ關シ『露西亞ハ歐羅巴沿岸ト共ニコンスタンチノープル、エノス、ミヂヤ線ニ至ルトラチエン南部地方、インブロス及テネドス島、小亞細亞方面ニ於テハ黑海ボスポールス及イスミッド灣ヨリ東スカリヤ河迄ノ半島ヲ領有スルコト』ノ要求ヲ提出シ英國ハ三月十三日佛國ハ四月十二日ノ公文ヲ以テ各之ニ同意シタリ右基礎協約外千九百十五年及千九百十六年ニアルメニヤノ二州トラペツント及トルケスタン之ニ附加セラレタリ

佛蘭西ハシリヤ、(アダナ及カルンナヲ含ム)及シヴァス、カープート迄ノ北方ヒンターランドヲ主張シ英國ハメソポタミヤヲ領有セントス小亞細亞ニ於ケル土耳古領ノ殘部ハ英佛ノ勢力範圍トシテ之ヲ分割シパレスチナハ之ヲ國際化セントシ尙土耳古人及亞剌比亞人ノ居住スル區域ハ本來ノ亞剌比亞及回々敎ノ聖地ト共ニ英國宗主權ノ下ニ特殊ノ國家聯合タラシメントス伊太利カ戰爭ニ參加シ其ノ分前ヲ要求シタルニ當リ新交涉開始セラレタルモ此等ヲ斷念シタルカ如キコトナシ予ハ他日更ニ詳細ニ涉リ知得スルコトアル

ヘク其際更ニ報道シ得ルコトナルヘキヲ信ス斯カル廣大ナル目的ヲ有スルコトナレハ敵國側ニトリテハ最近バルフォーアカ同國政府ノ戰爭政策ニ關スル詳細ナル宣言ヲ爲スコトハ適當ノ措置ニ非スト云ヘルハ當然ノコトナリ

敵ノ斯カル態度ニ鑑ミ獨逸諸新聞紙上獨逸カ平和ノ新提議ヲナスカ如キハ不可能ナリトノ見解ヲ發表セルハ理由アルコトナリ例ヘハフォアヴェルツカ「戰爭ノ遷延避クヘカラサルコト及遷延ニ關スル罪惡カ全然敵國側ニ歸スヘキコトハ戰爭中今日程明カニナリタルコトナシ斯カル時機ニ際シテハ飽ク迄モ防禦スルノ外ナシ」ト云ヘルカ如キハ時局ニ適當ナル言ニシテ予ハ同紙ノ說述カ獨逸一般輿論ニ相副フコトヲ知悉ス

予ノ說述シタル斯カル狀勢ニ際シ法王ノ講和提議公文發表セラレタリ右公文ノ内容ハ諸君ノ承知セラル、所ナルヘシ而シテ該公文ノ根本思想ハ法王ノ全人格ヨリ生スル地位及加特力敎ノ首長タル任務ヨリ生スルモノニシテ法王ハ權力武力ニ代フルニ嚴正ナル法律及道德律ヲ以テスヘキコトヲ高調シ此基礎ヨリシテ仲裁裁判及軍備解除ニ關スル其提議ヲ演繹シ更ニ又平和ニ入リタル時機ニ適當ナリトスル所ノモノニ論及セリ公文ノ實質的内容ニ關シテハ我同盟諸國トノ意見一致セサル限リ予ハ絕對的ニ何等ノ意嚮ヲモ開示スルコト能ハス是ヲ以テ予ハ單ニ大體ニ涉リ且又二方面ニ就キ述フル所アラントス

第一予ハ法王ノ決意カ中央帝國ニヨリテ惹起セラレタルモノナリトノ見解ニ反對セサル可ラス法王ノ交戰諸國ニ發シタル公文ハ新聞紙上周知セラレタルカ如ク加特力敎會ノ首

長ノ決心ニ依ルコトヲ確認ス又予ハ詳細ニ渉リテノ意嚮開示ヲ留保セサルヘカラスト雖今日モ尙右公文カ我方ニテ屢々宣明シタル態度及千九百十六年十二月十二日以來ノ獨逸ノ政策ニ適合セルコト及吾人ハ戰爭ニ依リ多大ノ困苦ヲ成セル各國間ニ平和ノ思想ヲ注入スヘキ誠意ノ企テハ如何ナルモノニテモ之ヲ歡迎スヘキカ殊ニ法王ノ行動ハ予ノ理解スル所ニ依レハ正義及公平ニ對スル眞面目ノ努力ニ充タサレタルモノナルヲ以テ特ニ之ヲ歡迎スルコトヲ言明シ得ルナリ

予ノ思惟スル所ハ畢竟一、公文ハ我方ヨリ誘起シタルニアラスシテ法王ノ任意的發意ニ出ツルコト二、吾人ハ法王ノ永久的平和ヲ以テ各國間ノ戰爭ヲ終結セシメントスルノ盡力ヲ同情ヲ以テ歡迎スルコト三、回答ニ關シ我同盟諸國ト打合セ中ナルモ右交渉猶完了セサルコト之ナリ之ヲ以テ予ハ法王ノ公文中實質的諸點ニ就テハ詳述スル能ハスト雖予ハ回答ヲ發スルハ以前本委員會ト更ニ精細ニ亙リ談合セントス斯ク共同以テ事業ニ膺ルコトハ祖國ノ爲メ光榮アル平和ヲ得ント欲スル吾人全體カ衷心抱藏スル目的ニ近ツカシムルモノナリトノ予ノ希望ヲ茲ニ表白ス」

（五）八月二十二日ノ中央委員會ニ於ケル獨逸外相及宰相ノ演說竝各黨ノ態度及獨逸新聞ノ論調

（大正六年八月二十三日附報告）

獨逸外相キューールマンハ八月二十二日獨逸帝國議會中央委員會ニ於テ大要左ノ如キ就任演說ヲ爲セリ

「予ハ今日始メテ獨逸國民代表者ト公式ニ接觸スル光榮ヲ有スル次第ナルカ諸君ニ述フルニ先ツ簡短ナル一般的序言ヲ以テスルハ予ノ義務ニシテ且必要ト感スル所ナリ獨逸外交政策ノ指導ハ新獨逸帝國建設ノ際ヨリ非常ノ難事ナリシカ武力絕大ナル敵ヨリ包圍セラレタル獨逸帝國ハ其建設ノ際既ニ危險ナル連合ニ脅サレタリ蓋シ舊來ノ列强ニトリテハ歐羅巴ノ中央ニ强大ニシテ各部ヘノ發展力ヲ具備セル一團結ノ出現ハ好マシカラス却テ從來ノ如ク中央歐羅巴ヲ政治上ノ野心及結合力ナキ混沌ノ狀態即彼等ノ意ニ適合スル狀態ニ置クコトヲ願望セルノ觀アリシハ歷史上了解ニ難カラサル所ナリ而シテ現下獨逸帝國カ世界ノ最大諸强國ト生命ヲ賭シテ爭フノ時機ニアリテハ外交指導ノ任務ノ困難ハ倍加セルカ此內外多難ナル時ニ際シ外交指導ノ任務ヲ負フハ即非常ナル責ニ任スル所以ニシテ予ハ此責任ノ甚大ナルコトヲ充分ニ認識ス

予ハ茲ニ目下獨逸政策ノ前ニ如何ナル任務ノ橫ハルカヲ簡單ニ說述ス可シ其ノ最モ重要ナル任務ハ平時ニ於ケルト同樣今日ニ於テモ我同盟諸國トノ關係ヲ長養スルニ在リ即歷史及其他到底斷ツヘカラサルノ羈絆ヲ以テ結ハレタル墺洪國トノ關係練達ニシテ向上心大ナル勃牙利人トノ關係竝ニ獨逸帝國ノ第一建設者タル亞歷山大帝カ既ニ密接ナル政治的關係ヲ結ハンコトヲ企テタル土耳古トノ關係ヲ各々長養スルニアリ

次ニ上述セル所ト重要及困難ニ於テ劣ル所ナキ任務ハ中立國トノ關係ヲ長養スルニアリ此點ニ就テハ吾人ハ出來得ル限リ中立諸國ノ權利及生存上ノ必要ヲ顧慮セントス但シ公

法ノ大部ヲ蹂躪セル敵ノ詭計及我戰爭上ノ必要カ許ス範圍内ニ限ラルヘキハ勿論ナリ重ナル中立諸國ノ分離ヲ防遏スルコトハ甚タ眞面目ニシテ且緊切ナル任務ナルカ「政治ニテハ權力物言フト雖正義モ亦物言フ」トノ原則ニ從フ場合ノミ能ク之カ防遏ニ成功シ得ヘキナリ吾人ノ政策ヲ權力及正義ノ二基礎上ニ置クニ於テノミ永久的ナルモノヲ創設シ得ヘク唯權力上ニ基礎ヲ置ク政策ノ失敗スヘキヤ豫斷シ得ヘシ

最後ニ吾人ハ尙交戰諸國トノ關係ヲ有ス正式ノ外交關係カ斷絶セラレタルハ勿論ノコトナルモ輿論ノ流レハ塹壕砲火ノ巷タル國境ヲ越エテ猶響ケリ我新聞紙ハ敵國内ニ迄至リ敵ノ新聞紙モ亦吾人之ヲ研究ス當路者ノ言ハ懇談ニ屬スルモノモ猶或種ノ形式或種ノ反響ヲ以テ敵國ニ傳ハレリ敵國ノ心理狀態及輿論界ニ於ケル思潮ノ變轉ノ研究ハ事々物々困難ニシテ確持相下ラサル現時ニ於テハ和解ヲ求メ又ハ濕言ヲ以テスレハ敵ニ或種ノ影響ヲ與ヘ得ヘシト誤信スルカ如キコトナカラシムル爲メ且又障碍除去セラレ妥協的氣分ノ生シ來リタル際惡辣ノ言ヲ以テ之ヲ摧クカ如キコトナカラシメンカ爲メニ何レモ必要ナルモノナリ

外國トノ關係以外尙帝國ノ内部的要素トノ關係ヲ觀察セサル可ラス右ニ關シ予ハ玆ニ獨逸帝國ト獨逸國會トノ關係ニ就テノミ說述セントス人類關係ハ凡テ相互信任ノ基礎上ニ立ツモノナリ予ハ政府當局者カ充分ナル信任ヲ有スルコト並ニ玆ニ現在スル者ハ一人ノ例外ナク凡テ强大ニシテ繁榮且多幸ナル一獨逸帝國ヲ希望スルモノナルコトヲ確信ス予ハ又外交政策ノ指導及準備ニ關スル予ノ擔當任務ニ就キ諸君ニ或程度ノ信用前貸ヲ乞ハサル可ラス諸君ハ吾人ノ專門的智識及善意ニ就キ或程度迄信用セサルヘカラス尙予ハ議會ノ總會ニ於ケル質問ニ就キ詳細ナル回答ヲ與ヘ易カラシムル爲メ出來得ル限リ豫メ通告セラレンコトヲ乞フモノナリ

予ハ熟慮ニ熟慮ヲ重ネタル結果恐ラク吾人ハ今日大戰爭ノ最後ノ年ニ入ルト云ヒ得ヘキカ斯ル時ニ際シ吾人ハ優秀拔群ナル我軍隊、偉大ナル其ノ統率者及新進ナルモ壯麗ナル我艦隊ニ信賴スルト共ニ尙獨逸國民ノ善美ナル精神ニ信賴シ有終ノ美ヲ濟ス迄毅然忍耐セントス尙又予ハ予ノ微力ノ及フ限リ現時ノ困乏ヲ脫シ光榮アリ且獨逸ノ將來ヲ確保スヘキ講和ヲ來スコトニ盡力セントス」

右ハ就任ノ挨拶旁々大體ノ方針ヲ述ヘタルノミニテ別ニ具體的問題ニ觸レタルモノニ非ス從テ獨國新聞紙ノ論調モ別段立入リタル評ヲナシ居ルモノヲ見受ケサルモ大體ニ於テ氣受ケ良キモノヽ如ク墺國新聞紙中ニモ讚辭ヲ呈シ殊ニ戰爭ノ最終年ニ入レリトノ言ヲ見テ喜フモノアルヲ認ム又蘭國新聞紙中ニハ右演說中勢力以外正義ノ物ヲ言フコトヲ認メ中立國ノ權利ヲ顧慮スヘキヲ說キタルヲ見テキュールマンニシテ早ク外相ノ地位ニ就カハ中立國トノ關係大ニ面目ヲ異ニシタルヘシト論シ獨國議會ニ於テ數年來政府大臣席ヨリ聞キタルコトナキ程ノ演說ナリト激賞シ居ルモノアリ

尙同大臣ハ八月二十三日議會ノ質問ニ答ヘテ敵國カ獨逸人ノ財產及經濟的生活ニ加ヘタル損害ハ精細ニ之ヲ調査シアリ右ハ適當ノ時機ニ於テ敵國政府ニ提出スヘシト述ヘタリ外相ノ演說ハ宰相カ議會ノ講和決議ヲ重視セサルカ如キ印象ヲ與ヘタルヲ以テ宰相ハ其ニ關シ

テ次ノ如ク聲明セリ

前辯者ノ一人ハ七月十九日ノ議會ニ於ケル予ノ演說中講和決議ニ關シ「予ノ解釋ニ依レハ」(Wie ich sie auffasse)トノ語句ヲ使用シタリト批難セリサレト予ハ各黨領袖等ト協議ノ際ニハ斯カル附言ヲナセシ覺エナシ而シテ予カ議會ニテ述ヘタル意味ハ予カ協議會ニテ表明シ且議會ニテ講和目的ニ關シ明言シタル予ノ該決議ニ對スル態度ト實質上何等矛盾スルモノニ非サルヲ予ハ玆ニ明言シ置カントス講和會議ニ際シ議會ノ決議ノ範圍內ニ於テ講和目的ヲ貫徹セントスルニ當リ各個ノ問題ニ就キ勿論多少ノ意見ヲ挿ムヲ得ルハ既ニ協議ノ際ニ多數派內ニ於テモ此事アルヘキヲ是認シタルモノト予ハ信ス

然ルニ此答辯ハ辭句拙ナカリシト演說ノ態度惡カリシ爲メ多數派ハ宰相カ講和決議ヲ最早七月十九日ニ示シタルカ如キ鮮明ナル態度ヲ以テ認容スルヲ欲セサルニ非サルカトノ疑ヲ增スニ至リタレハ此宰相ノ答辯後直チニ會議ヲ中止シ別ニ多數派ノミノ會合ヲ開キ宰相ノ不鮮明ナル答辯ニ對シ多數派ノ執ルヘキ態度ヲ協議シ又宰相自身トモ協議スル所アリシニ宰相モ前回ノ答辯ハ誤解セラレ易ク多數派ノ講和決議ニ對スル自己ノ態度カ變化セシ如キ印象ヲ與フヘキ虞アルヲ認メ講和決議ニ關シ多數派ト意見ノ衝突ヲ來サハ延キテ內政上困難ナル結果ヲ惹起スヘキ事ヲ慮リ午後委員會再開ト共ニ再度左ノ如キ聲明ヲナシ講和決議ニ對スル態度ヲ鮮明ナラシメント試ミタリ

本日午前ニナシタル予ノ聲明ハ客月十九日ノ演說ニ述ヘタル所ト撞着スルモノニ非ス予ハ七月十九日ノ演說ノ內容ヲ今日モ猶維持スルモノナリ予ノ意見カ從來ト異ナラサルコトハ議會ト密接ナル聯絡ヲ計ルタメ協議會ヲ催シ以テ法王廳ニ對スル回答ヲ議セシコトヲ本日午前發表シタル事實ニ徵スルモ明カナラスヤ而シテ此法王ノ講和提議ニ對スル回答ハ七月十九日ノ議會決議ニ基キ專ラ妥協的ノ講和(Frieden des Ausgleichs und der Verständigung)ヲ促進スルモノタラサル可ラス

右宰相ノ辯明了リテ社會民主黨議員エーベルト氏ハ多數派ヲ代表シテ左記二項ヲ聲明セリ千九百十七年七月十九日ノ帝國議會ノ宣言ニ參加セシ各黨代表者ハ左ノ如ク決議ス

一、參加各黨代表者ト宰相トカ講和決議ニ關スル過般ノ協議會ニ於テ爲シタル相互ノ聲明ニ徵シ其當時宰相ハ議會ノ決議ヲ認容セサリシモノト認ムルヲ得ス

二、宰相カ多數派各代表者間ニ該決議ニ關シ意見ノ實質的相違アリシカ如ク述ヘタルハ不當ナリ參加各代表者ハ全員擧ツテ一致ノ見解ヲ有シタリ

此二項ノ內第一項ハ婉曲ニ宰相ニ對スル不信認ヲ表示シタルモノナリサレト本項ハ翌二十三日ノ委員會ニ於テ同シク前記エーベルト氏ニ依リ既ニ宰相ノ第二回ノ聲明アリシ以上不必要ナリトテ多數派ノ名ヲ以テ取消サレタリ第二項ノ意見ノ實質的ノ不一致トハ果シテ實際ニ存在スルヤ否ヤハ別問題トシテ少數派特ニ保守黨、汎獨逸黨等ノ機關紙ノ乘スル處トナリ之ヲ論題トシテ盛ニ敵本主義ノ議ヲ試ミ以テ多數黨ヲ離間セント試ミタリ

之ヲ要スルニ二十二日ノ委員會ハ外交問題ノ討議カ日程ナリシニ午前中ニシュヴェリーン伯ノ質問ヨリ宰相ノ態度ニ關シ意外ノ紛爭ヲ惹起シ一時ハ多數派トノ間ニ衝突ヲ來スコトナキヤト思ハシメタルモ宰相ノ第二回聲明アリシ爲メ先ツ無事ニ解決シ次テエーベルト氏

ノ聲明ヲ以テ本件ハ一段落ヲ見ルニ至レリ

事情斯クノ如ク本件ハモト一ノ挿話ニ過キサルモ少數派ノ機關紙ハ如何ニモ事ヲ重大ニ報シ多數派ノ新聞紙ニモ亦宰相ノ態度ヲ遺憾トスル旨ヲ論スルモノアリ故ニ本件ニ關スル各新聞ノ論調ヲ一覽スルハ獨逸各政黨ノ態度及其ノ宰相ミハエリスニ對スル關係ノ一班ヲ覘フニ便ナレハ左ニ之ヲ摘記ス

「ベルリーネル、ターゲブラット」紙(自由黨)ハ宰相ニ威望ナキカ故ナリトシ論シテ曰ク

『サレト罪ハ汎獨逸黨及重工業派 (Schwerindustrieller Kreis) ニ在リ彼等ハ豫テヨリ宰相ノ態度ヲ自派ニ都合好キ如クニ吹聽シ昨夜モ既ニ「ローカル、アンツァイゲル」紙ヲシテ「宰相ト多數派トノ乖離」ト題スル誇大的報道ヲナサシメタリ汎獨逸黨及保守黨ハミハエリス内閣成立以來宰相ト多數派トヲ離間スルニ努メ居リテシュヴェリーン伯カ昨日夫ノ如キ演説ヲ試ミ以テ紛訌ヲ惹起セシメタルモ亦全ク此策略ニ出テシモノナリ要スルニ彼等汎獨逸的策士カ紛爭ヲ好ムモノト云フヘク多數派ト宰相トヲ離間シ以テ彼等ノ策略ヲ成就セントスルモノナリ』ト又曰ク

『昨日ノ事件及全體ノ狀勢ニ徵スルモ兎ニ角多數派カ絶對的ニ一致シ居ルハ明カナリサレト遺憾トスヘキハ宰相カ言ヲ左右ニシ講和ニ關スル行動カ常ニ矛盾撞着ヲ免レサルコトナリ彼ハ外國ニ於テハ汎獨逸黨ヲ賞揚シ併合主義及軍國主義ノ人タルカヲ思ハシメタル其行動ト云ヒ其言論ト云ヒ曖昧ニシテ一モ信憑スルニ足ラス彼ハ現在ニ於テハ兎モ角モ「妥協的講和」ヲ認メ居ルモノヽ如シ若シ其意見ニシテ變化スルコトナクンハ幸ナリ』ト更ニ結論シテ曰ク

『彼ノ性質ノ穩和且眞摯ナルハ何人モ疑ハサル處ナリ之彼カ自ラ進ミテ此難局ニ當リシ一事ニ見ルモ明カナリサレトミハエリス氏ハ要スルニ威望ヲ缺ケリ猶彼ノ宰相トナリシ由來及閣員ヲ任命スルニ際シ之ヲ議會ニ諮ラサリシコトハミハエリス内閣ノ缺點ニシテ之カ爲メニ内閣成立ノ第一日ヨリ形勢面白カラサルモノアリシナリ議會カ眞ノ議院政治ヲ決議スルヤ否ヤハ姑ク別問題トスルモ元來議會ノ贊同ヲ有セサル宰相及政府ハ實際ニ當リテ有効ナル活動ヲナシ得サルハ事實ナリ蓋シ宰相及閣員ニシテ國民ノ代表機關ヲ輕視スル此高踏的態度ヲ改メサル限リ危機ト紛爭トハ絶ユルコトナカルヘク月餘ナラスシテ復再ヒ紛爭ヲ生スルニ至ル可シ彼等ハ七千萬ノ國民ノ代表ヲ無視シ秘密主義ニ依リテ專制的ニ國民ノ運命ヲ決セントスルモノナリミハエリス氏ハ如何ニ假面ヲ裝フトモ專制的官僚主義ノ權化ニ外ナラス故ニ帝國ノ安全ヲ期スルニハ此内閣ヲ倒サヽルヘカラス議會ノ任務モ亦此ニ在リ』ト

「フォアヴェルツ」紙(社會民事黨)ハ汎獨逸派ヲ難シテ曰ク

『彼等ハ内紛ヲ鎭メント努メサルノミナラス却テ國内ニ對シテ宣戰セントスルモノナリ彼等ハミハエリス氏ノ不熟練ナルト其地位ノ困難ナルニ乘シ氏ヲ策略ノ犧牲タラシメントス宰相ハ之ヲ洞察スルノ敏ナキカミハエリス氏就任後間モナク保守黨新聞ハ彼ヲ評シテ殊更ニビスマルクニ比セリ宰相ハ其ノ理由ヲ知レリヤビスマルクハ戰爭ヲ起セリ又内紛モ鎭定セリサレト一難

ヲ治メテ又一難ヲ起セリト云フカ保守黨新聞ノ氏ヲ殊更ビスマルクニ比シタルハ皮肉ナリ保守黨新聞ハ「宰相ハ口頭ニテハ議會ノ多數派ニ好意ヲ表シ居ルモ內心ニテハ彼等ニ反對シ居レリ議會ノ講和決議モ普國選擧權ニ關スル詔書モ遠カラス之ヲ無視スルニ至ル可シ」ト云ヘリ若シ萬一此大戰爭最中ニ國民ト議會トノ衝突ヲ來スカ如キ悲シムヘキ現象ノ起ルコトアラハ其ハ彼等保守黨一派ノ罪責ナリ』ト

又曰ク

『昨日午後ニ於ケル宰相ノ措置ニ徴スルニ議會トノ衝突ヲ避クル意思明瞭ナリ保守黨新聞ノ所謂「宰相及多數派ノ乖離」ト云フ辭句ハ二樣ニ解釋セラル宰相ト議會トノ乖離カ又多數派內ノ乖離カ然レト宰相ノ第二回ノ聲明ニ依リ宰相ト議會トノ間ニ何等ノ確執ナキハ明カナリ而シテ多數派內各黨モ乖離ノ事實ナキノミナラス全然一致ノ見解ヲ有シ結合極メテ鞏固ナリ然ルニモ拘ラス保守黨新聞紙カ斯カル辭句ヲ使用シテ誇大ノ報道ヲ爲スハ果シテ何ノ意ソ彼等ハ唯徒ラニ內紛ヲ好ミ衝突ヲ惹起セシメントスル內亂者ナリトノ譏ヲ甘受スルヨリ外ナカルヘシ吾人多數派ハ國民大多數ノ信任ヲ受ケ一致協同ノ態度ヲ以テ帝國ノ政策ヲ行フモノナリ」ト

「フォッシッシェ、ツァイツング」紙ハ前宰相ベートマン、ホルツエッヒ氏桂冠ノ際ニハ全力ヲ盡シテ氏ヲ攻撃シ新內閣成立ニ當リミハエリス氏ヲ賞揚シタル新聞ナルカ今回ノ事件ニ關シテ曰ク

『昨日ノ委員會ニ於ケル出來事ハ洵ニ遺憾ナリ目下 我カ國ハ最モ態度 鮮明ナル政府ヲ要スル時ナルニ斯クノ如キ事件ヲ見ルニ至レルハ遺憾ナリ宰相自身モ入閣ノ際ノ演說ニ於テ最モ重キヲ此點ニ措キテ述ヘタルニ今ヤ彼ハ指導者トシテノ第一ノ資格ヲ缺クヲ示セリ吾人ハ新聞通信ニ現レタル宰相ノ言ニ就キテ此說ヲ爲スモノナルカ元來此通信ハ政府ノ許可ヲ得テ發表シタル通信ナレハ宰相ノ言ハ頗ル緩和セラレ居ルモノト見ルヲ得ヘシ若シ宰相カ果シテ該通信ニ現レシ其儘ノ聲明ヲナシタルモノトセハ斯クノ如キ激シキ論爭ヲ惹起スヘキ理由ナシ宰相ノ言ハ必スヤ一層其ノ態度ヲ疑ハシムル如キモノアリタルナルヘシ』ト述ヘ更ニ宰相ノ政治的缺陷ハ最早如何ナル聲明ヲナスモ之ヲ蔽フニ由ナシ政策ニ關スル責任ハ多數派自ラ負フノ覺悟ナカル可ラスト結論セリ

民主々義ノ「モールゲン、ポスト」及「ベルリーネル、フォルクス、ツァイツング」兩紙ハ『宰相カ昨日委員會ニテ與ヘタル印象ハ拭ヒ去ルニ頗ル困難ナリ宰相ハアラユル手段ヲ以テ其疑ヲ晴ラスコトナクンハアルヘカラス』ト云ヘリ

「フランクフルテル、ツァイツング」紙ハ其ノ社說ニ於テ昨日ノ經過ヲ略記シ次テ批評シテ曰ク

『宰相カ「予ノ解釋ニ依レハ」ト云ヒシハ心裡留保ノ意ヲ述ヘシモノトスルモ昨日第一回ノ聲明ハ兎ニ角宰相ノ態度ヲ疑ハシムルニ充分ナリ更ニ第二回ノ聲明ニ依リ辯解スル處アリタリト雖彼カ與ヘタル第一印象ヲ拭ヒ去リ得ヘクモアラス多數派ノ聲明中第一項ヘ明カニ宰相ニ對スル不信任ト見ルヲ得ヘシ宰相ノ斯クノ如キ態度ハ外國ニ對シ特ニ惡影響ヲ及ホスヘシ幸ニシテ多數派トノ確執ヲ見スシテ終リシト雖宰相カ時局ニ處スル技倆ヲ有セサル

ハ明カナリ昨日ノ委員會ニ於ケル事件ハ吾人ノ重ネ重ネ遺憾トスル所ナレトモ若シ是ニ依リ却テ多數派ノ一致鞏固ナルヲ世ニ示スヲ得ハ禍ヲ轉シテ幸トナスモノト云フヘキカ』云々ト

因ニ七月十九日帝國議會ニ於ケル宰相ミハエリスノ演說中戰爭目的ニ關スル大要左ノ如シ

『戰爭ノ目的ニ關シテハ戰爭ヲ決定シタルハ獨逸ニ非ス獨逸ハ暴力ニ依ル征服ヲ行フ爲メニ戰爭セス獨逸ハ名譽アル平和ヲ得レハ足レリ侵略ヲ行フ爲メニハ一日タリトモ戰爭ヲ繼續セサルヘシ但シ吾人ハ現ニ勝利ヲ占メツヽアル人々ノ資格ニテ平和ヲ爲サンコトヲ欲ス吾人ハ現人及來ルヘキ時代ノ獨逸國民ノ爲メニ吾人ノ偉大ナル實力ヲ示シ且未聞ノ大犧牲ヲ拂ヒタル光彩アル記念ヲ保存セサルヘカラス吾人ハ時期到來セハ此精神ヲ以テ平和談判ニ當ラントス吾人ハ曩ニ誠實ニ平和ヲ提議シタルモ其效無シ以テ再ヒ之ヲ提議スル能ハス獨逸國境ハ永久ニ之ヲ確保シ國民間ノ永久調和ノ基礎タルヲ要ス吾人ハ敵國ノ軍事同盟カ更ニ經濟同盟トナルヲ阻マサルヘカラス此目的タルヤ議會多數派ノ決議ノ範圍内ニ於テ之ヲ貫徹スルヲ得ヘシ若シモ敵カ平和談判ヲ欲スルナラハ敵ハ欲スル所ヲ吾人ニ提議セサルヘカラス吾人ハ平和的精神ヲ以テ之ヲ迎フヘク夫迄ハ吾人ハ靜カニ忍耐持久スヘシ』

又七月十九日獨逸帝國議會ノ講和決議左ノ如シ

戰爭開始後第四週年將ニ到ラントスルニ當リ獨逸國民ハ千九百十四年八月四日ノ獨逸皇帝ノ勅諭ヲ其當時ト同シク信奉スルモノナリ吾人ハ征服ノ野心ニ驅ラルルモノニ非ス獨逸カ武器ヲ執リテ蹶起セルハ其ノ自由ト獨立トヲ防衛シ且其ノ領土ヲ保全セントスルニ職由セリ帝國議會ハ一般的平和、國家相互間ノ理解並ニ其ノ永續的融和ノ爲メニ努力スルモノナリ强力ニ依ル領土併合並ニ政治上經濟上財政上ノ暴戾ナル手段ハ斯カル平和ト兩立スルコト能ハス帝國議會ハ經濟上ノ封鎖ヲ目的トシ戰後ニ亘リテ國家間ノ敵意ヲ挑發セントスルカ如キ一切ノ企圖ヲ排斥スルモノニテシ海上ノ自由ハ完全ニ確保セラレサルヘカラス唯經濟上ノ平和アリテ後國家間ノ眞ノ和衷協同ハ始メテ之ヲ期待シ得ヘシ帝國議會ハ國際的裁判機關ノ設定セラレンコトヲ最モ熱誠ニ慫慂スルモノナリ然レトモ若シ敵國政府ニシテ斯カル平和條件ヲ受諾セス獨逸及其ノ同盟國ヲ征服及討滅ヲ以テ威嚇センカ獨逸國民ハ茲ニ擧國團結シテ一人ノ如ク振ヒ起チ自國及其ノ同盟國ノ存立及發展ノ正當ナル權利カ確保セラルヽ迄ハ戰爭ノ繼續ヲ辭セサルヘク而シテ一致結合セル獨逸國民ヲ征服センコトハ竟ニ不可能ナルヘシ

第七　獨逸ノ政變ニ關スル事項補遺

（一）獨國宰相ノ更迭前後ニ於ケル同國政界ノ動搖

（外事彙報大正六年第十號）

（大正六年七月三十日附報告）

一、動搖前ノ獨國政界

七月ノ議會ニ對スル政府側ノ希望――憲法豫算兩委員會ニ現レタル各黨派ノ態度――五日

ノ議會ノ初日ニハ單ニ戰費案ノ提出ヲ見タルノミ――六日ノ議會ト帝國選擧區改正ニ關スル憲法委員會提議ノ議會通過――憲法委員會ハ更ニ普國ニ普通選擧ヲ要求セムトス――豫算委員會ニ於ケル政府對諸黨派ノ激論、中央黨エルツベルゲルノ政府攻擊――內政改革及講和問題ニ對スル中央乃至左黨合縱ノ形勢――保守黨ノ宰相排斥運動

二、政界ノ動搖ト普國選擧法改正ニ關スル詔勅

政界ノ危機現ル――皇帝ノ歸京ヒンデンブルグ、ルーデンドルフノ入京――豫算委員會ノ激論熄マス――宰相ノ緘默的態度各黨ヲ悅ハシメス――九日ノ御前會議――十一日皇太子ノ入京ト再度ノ御前會議――普國平等選擧施行ニ關スル十一日ノ詔勅

三、政界ノ動搖トベートマン、ホルウエッヒノ辭職

十一日附詔勅ハ未タ全ク自由派（左諸黨乃至中央黨ノ大部分）ヲ滿足セシメス――議院政治ニ關スル自由派ノ要求議院政治ニ對スルバイエルン其ノ他ノ反對――議院政治問題ニ關スル所謂宰相ノ折衷案ニ對スル自由派ノ不滿足――講和問題ニ關スル宰相ト各黨派トノ意見ノ相違――宰相ノ地位孤立トナル――ヒンデンブルグ、ルーデンドルフ再ヒ入京ス――宰相ノ更迭

四、新宰相ノ就任ト其ノ議會演說

新宰相ノ就任ト其ノ閱歷及人物――新宰相ト各黨派トノ協議――ヒ、ル兩將軍ノ退京――十九日新宰相ノ議會演說――戰爭責任問題――潛水艇戰爭――米國ノ參戰――講和問題――食料品問題――內政改革問題

五、多數黨ノ講和決議及戰費案ノ議會通過ト國民自由黨及保守黨ノ講和決議反對宣言

十九日ノ議會ノ續キ――多數黨（中央、社會及進步國民三黨）講和決議提出――決議ノ由來及宰相ノ演說ニ對スル多數黨代表者ノ演說――保守黨ノ講和觀――國民自由黨ノ講和觀――戰費案ノ第一、第二讀會通過――多數黨講和決議議會通過ノ模樣――二十日ノ議會ニ於ケル戰費案ノ議了

六、政界動搖ノ內情

講和及內政改革問題ニ關スル所謂中央ノ政綱――エルツベルゲルト多數黨合縱トノ關係――前議會（三月）以來中央、國民、進步三黨態度ノ變遷――右變遷ノ內情――政界動搖前獨國民不安ノ狀況

一、動搖前ノ獨國政界

今回ノ帝國議會ニ於テ政府ノ希望スル所ハ單ニ戰費ノ協贊ニ在リ從テ之カ爲ニハ僅カニ兩三回ノ會合ヲ以テ事足ルヘシトハ豫テ獨國新聞界ニ噂セラレタル所ナルカ七月三日共ニ集會セル豫算委員會及憲法委員會ニ現レタル各黨ノ態度ハ之ニ甘ンセサリシ由ニテ同四日帝國議會ノ會期豫報ニ依ルニ五日議會開會ノ初日ニ於テハ單ニ戰費案ノ提出ヲ見ルニ止マリ其ノ討議ハ第二讀會以後ニ於テ內外政策ニ關スル討論ト共ニ行ハルヘク此機ニ臨ミ帝國宰相モ一場ノ演說ヲ試ムヘシ但シ何時右大討議ヲ見ルヘキヤハ目下進行中ナル豫算委員會ノ協議如何ニ依ル尤モ六日ノ議會ニ於テハ憲法委員會提議ノ一部議事日程ニ上ルヲ見ルヘク

斯クテ今回ノ會期ハ來ル十一日頃其ノ終ヲ告クヘシト報スルニ至レリ乃チ帝國議會ハ七月五日ヲ以テ開會セラレ新戰費百五十億麻克ノ支出ニ關スル法案ハ討議ニ入ラスシテ當日ノ議會ハ閉會セラレ翌六日ノ議會ニ於テ先是憲法委員會ニ於テ決定セル過剩人口大選擧區ノ新區分及此等改正選擧區ニ對スル比例選擧ノ施行ニ關スル提議（人口二十萬以上トナリタル選擧區凡ソ七十ニ關スル由ニテ改正ノ結果代議士二十四、五名ヲ增スヘシト云フ）ハ保守黨カ度ヲ過キタルノ改革ナリトノ理由ニテ反對シタルノ外大多數ヲ以テ議會ヲ通過シ內相ヘルフェリッヒハ帝國政府ノ名ニ於テ次期帝國議會ノ選擧以前ニ當該選擧區ノ新區分ヲ實現シ得ヘキ樣時機ヲ逸セス右ニ關スル法案ヲ議會ニ提出スヘキヲ約シタレトモ左黨各派ニ屬スル新聞紙ハ之ヲ以テ都市ト郡部トノ人口增殖關係ノ不權衡ニ鑑ミ企圖セラルヘキ帝國選擧區大改革ニ比スレハ未タ及ハサルコト遠シトテ滿足ノ論調ヲ示サス且又當時憲法委員會ニ於テハ左黨及中央黨ノ間ニ各聯邦ニ於ケル市民ノ平等權（主トシテ普國ニ於ケル普通選擧ノ施行ヲ意味ス）ニ關スル決議ヲ成立セシメムトスルノ運動行ハレ不日右委員會大多數ノ決議ヲ現出セムトスルノ形勢アリ

加之一方ニ豫算委員會ノ形勢ヲ見ルニ當初ヨリ殆ント祕密會議ナリシモ同會カ開戰以來兎角重要政治問題ノ討議場タル關係ヨリ其ノ議事ノ外間ニ漏洩セル所ハ日一日議題ノ重要ニシテ討論ノ激烈ナルヲ想像セシメサルモノナク六日帝國宰相ハ出席セス副宰相ヘルフェリッヒ代攝其ノ他ノ國務諸尙書ト共ニ豫算委員會ニ列セシカ後ニ新聞紙ニ漏洩セラレタルカ如ク中央黨議員エルツベルゲル（Erzberger）ハ戰局ノ經過ヲ批評シ潛水艇戰爭ニ關スル當局ノ誤算ヲ指摘シ社會黨平生ノ主張ト略類似セル妥協的講和ニ到達シ內政改革殊ニ普國選擧法改正ノ急務ヲ說キ右諸問題ニ對スル當局者ノ態度ヲ攻擊スルコト頗ル犀利而モ極メテ肯綮ニ當リ且當時ノ情況ハ攻擊者ノ背後ニ中央黨大多數ノ團結アルヲ察スルニ難カラサリシ由ニテ大ニ政府側ヲ當惑セシメ帝國宰相ハ卽夜各黨派ノ領袖ヲ自邸ニ招キテ其ノ意見ヲ聽取セシカ進步國民黨首領フォン、パイヤー（Von Payer）ハ自黨ノ名ニ於テ復活祭詔勅（四月七日ノ詔勅）ノ實現殊ニ普國ニ平等選擧ヲ施行スルノ急務ヲ說キ社會黨六領袖ハ獨國政府カ今モ尙一九一四年八月四日ノ宣言ノ立場ヲ去ラス防禦的戰爭ニ從事スルコト從テ戰前狀態維持ヲ基礎トシテ常ニ講和ニ入ルニ吝ナラサルコトヲ宰相ニ於テ宣言スヘキコト其ノ他速ニ議員政治ヲ布キ各派ノ領袖ヲ拔キテ普國大臣又ハ帝國國務尙書ニ任命スルコト及直ニ帝國議會ニ對スルト同樣ノ選擧法（普通選擧）ヲ普國ニモ施行セムコトヲ求メタリト云フ而モ新聞紙ハ社會黨ノ右諸條件ニ對スル要求カ極メテ强硬ナルモノアリシカ如ク傳ヘテ社會黨ノ宰相ニ對スル最後ノ通牒トナシ同黨戰費協贊ノ前提條件ナルヤニ報シ居リシカ同時ニ進步國民黨（黨員四六名）中央黨（同九一名）及社會黨（同八九名）ノ間國民自由黨（同四四名）ヲ靡キツヽ所謂妥協的講和ニ關スル共同宣言及內政改革問題ニ關スル共同動作ヲ圖ラムトスルノ交涉ハ數月來頗ル進捗シツヽアルヤニ傳ヘラレ政府ハ右各黨合縱ノ形勢ニ對シ其ノ內外政策上重大ナル處決ヲ爲サヽルヘカラサルニ至リ而シテ又保守黨（黨員四五名）乃至全獨主義者カ此機ニ乘シテ宰相排斥ノ宿業ヲ遂ケムトスルアリ朝野騷然トシテ獨國政界ハ茲ニ動搖ノ端ヲ開クニ至レリ

二、政界ノ動搖ト普國選擧法改正ニ關スル詔勅

前顯豫算委員會ノ模樣外間ニ漏洩スルヤ七日伯林新聞界ハ一齊ニ政界ノ危機帝國並普國政府ノ改造ヲ報シ維納訪問中ナリシ獨國皇帝ハ還御歸宮ノ遑モナクシテ直ニ宰相邸ニ赴キ次テベルヴュ、(Bellevue)ノ宮城ニ於テヒンデンブルグ、ルーデンドルフ及陸相フォン、スタイントモ會談セリ尤モ右兩將軍ハ同日夕刻ヲ以テ伯林ヲ辭シタリト雖一方憲法委員會ハ豫算委員會ノ重大ナルニ顧ミ休會同樣トナリ議會ハ同日ヲ以テ戰費ノ協贊ト共ニ內外政策ノ大討議ニ入ルヘカリシモ更ニ十二日ニ延期セラレタリ

七日豫算委員會ニハ宰相出席シ陸、海、內相及諸黨領袖モ出席ノ上內外政策ノ討議ヲ續行セシカ就中海相フォン、カペルレハ中央黨エルツベルゲルノ六日ノ攻撃ニ對シ內相ヘルフエリッヒヨリ與ヘラレタル浩瀚ナル統計材料ニ據リ一場ノ駁論ヲ試ミタル由ナレトモエルツベルゲルハ更ニ滿足セス再ヒ其ノ攻撃演說ヲ開始シテ議場ノ大激昂ヲ釀シシャイデマンハ其ノ大演說ニ於テ無併合講和及速ニ內政改革ヲ行フノ必要ヲ說キ保守黨員ウェスタルプ伯ハエルツベルゲルヲ攻撃シテ激越ノ餘同議員ト自黨トノ交涉ハ之ヲ限リニ斷絕セル旨ヲ宣言シタリト云フ最後ニ帝國宰相モ亦其ノ半時間足ラスノ演說中內外政策ニ對スル所見ヲ開陳シタルモ概ネ從來ノ主張ヲ反履シテ明確ナル講和方針ヲ示スヲ避ケ爲ニ各黨派共ニ滿足セサリシ由ナリ八日ニ入リテ中央黨ハ其ノ黨議ノ結果數名ヲ除クノ外公然エルツベルゲルヲ支持スヘキヲ決議スルニ至レリ右狀況ノ下ニ同月皇帝ハ再ヒ宰相ヲ召シ同夜佛國內閣會議ノ開カル、ヲ見タルカ議セラレタルハ主トシテ同國選擧法改正問題之ニ伴フ閣員ノ進退問題ナリシト云フ

九日午前開會ノ豫算委員會ニ於テハ中央黨フェレンバッハ(Fehrenbach)カ內政改革ノ急ヲ說クコト政友エルツベルゲルニ優ルモノアリシト國民黨表者ストレーゼマンカ激烈ナル宰相攻撃演說ヲ爲シテ同黨多數ノ意向ヲ發表シ保守黨一派ノ宰相排斥運動ニ氣勢ヲ添ヘタルトノ外別ニ激論ヲ見サリシ由ナルモ同日午後宰相邸ニ於テ御前會議開カレ皇帝ハ宰相初メ佛國諸大臣及帝國諸尙書ヲ會シ內政問題ニ關スル各員ノ所信ヲ述ヘシメタルカ宰相ノ普國選擧法改正ニ關スル進言ハ最モ皇帝ヲ動カシ傳フル所ニ依レハ皇帝ノ改革決意ハ略ホ同日ヲ以テ定マリタルモノ、加ク只事皇儲ニ關係アルヲ以テ其ノ承諾ヲ得ル迄最後ノ決定ヲ留保シタリト云フ十日ノ豫算委員會ニ於テ社會黨議員エバートハ御前會議ノ經過ニ關スル質問ヲ發セシモ宰相未タ其ノ期ニアラストシテ答ヘス茲ニ同議員ハ事情明白トナル迄無益ノ討議ヲ中止スヘシトノ動議ヲ提出シ動議可決セラレテ豫算委員會ハ諸議員激昂ノ裡ニ當分休會トナレリ

斯カル中海相並內、外、海相等ノ更迭問題ハ後任者名ノ出沒ト共ニ益々新聞紙ヲ賑ハスノ傾向ヲ生シ殊ニ宰相ニ對シ保守派ノ新聞紙ハ政界ノ動搖ヲ以テ宰相ノ意見薄弱ナル爲黨派ノ操縱國民ノ指導ヲ誤リタルノ結果トシ其ノ引責桂冠ヲ迫リ又左黨新聞紙ニモ宰相ノ內外政策ニ對スル意思ノ强固ナラサルヲ難シ若クハ問題ノ要點ハ宰相ニ於テ遺憾ナク議會多數ノ希望ヲ容ル、ヤ否ヤニ在リテ其ノ去就ニ就キ頗ル冷淡ナル態度ヲ示ス者ヲ生シタルカ十一日ニ入リ皇帝ハ墺國大使及バイエルン首相ヘルトリングヲ引見シ又皇太子ノ入京ヲ待

ヲテ再ヒ御前會議ヲ開キタルカ其結果愈々選擧法改正ニ關スル最後ノ決定ヲ與ヘタリトノコトニテ同日卽チ七月十一日深夜「ウォルフ」電報社ハ普國內閣議長ベートマン、ホルウエッヒニ對スル左ノ趣旨ノ詔勅ヲ傳ヘタリ「四月七日ノ詔勅ヲ奉體セル內閣ノ進言ニ基キ今ヤ皇室ハ右詔勅ノ追加トシテ普國下院選擧法改正ノ爲後日同國國會ニ提出セラルヘキ法案ハ平等選擧ヲ基礎トシテ作成スヘク又右法案ノ提出ヲ急キテ次期選擧ノ準據法トナリ得ヘキ樣取計ラフヘキコトヲ命ス依リテ內閣議長ハ之カ爲必要ノ措置ニ出ツヘシ

三、政界ノ動搖トベートマン、ホルウエッヒノ辭職

普國下院ノ選擧ヲ改正シテ直接祕密投票トスヘキコトヲ命シタル四月七日ノ詔勅以來進ンテ之ヲ平等選擧（一人一票）トスヘキカ將又複數選擧（財產、所得、若クハ納稅高等ニ依リ一人ニ數票ヲ有セシム）トスヘキカハ保守派ヨリ見レハ謂ハヽ最後ノ籠城、自由派（左諸黨乃至中央黨ノ大多數）ヨリ見レハ未タ拔カサル城壁トシテ互ニ論爭ノ的トナリタルカ遂ニ平等選擧ヲ基礎トスヘシトノ詔勅ヲ見ルニ至リタルハ自由派新聞紙ヲ悅ハシメ其ノ多クハ詔勅ニ於ケルベートマン、ホルウエッヒノ副署ヲ指シテ宰相ノ地位ハ之ニ依リテ鞏固ヲ加ヘタリトノ論調ヲサヘ辭セサリシト雖選擧法改正實行期ノ依然トシテ明確ナラサルト內政改革問題ノ他ノ一半タル議院政治ニ關スル企圖未タ一指モ染メラレサルニ顧ミ自由派ヲシテ容易ニ滿足ノ域ニ至ラシムルコト能ハサリシモノヽ如ク「ベルリーナー、ターゲブラット」ノ如キ普國選擧法改正問題及皇帝ノ信任問題ノ關スル限リベートマン、ホルウエッヒハ毫モ辭職スヘキ謂ナシ今ヤ佛國內閣ニ於ケル平等選擧反對者ハ辭職ノ必要ヲ見ルヘキモ宰相トシテハ只帝國全體ニ亙ル改革問題及其帝國議會ニ對スル立場如何ニ依リテノミ辭職ノ必要ヲ見ルニ至ルヘシ選擧法ニ關スル詔勅ノミヲ以テ其議會ニ對スル地位ハ永久ニ改善セラレタリト云フヘカラスト論スルニ至レリ

然ルニ右所謂議院政治問題ニ關シテハバイエルン、ザクセン等ニ於テ爲ニ各聯邦ノ固有性ノ沒却セラレムコトヲ恐レ之ニ異議ヲ爲シタル由ニテ殊ニバイエルン政府ノ機關新聞ハ十二日ノ社說ニ於テ獨逸帝國ニテ議會ニ對スル責任內閣ヲ作ルハ聯邦議會ヲ無用化シ獨國ノ聯邦タル基礎ヲ搖撼スルモノナリ斯カル企圖ハ豫メ之ヲ峻拒セサルヘカラスト論スルニ至レリ斯カル情況ノ下ニ傳フル所ニ依レハ宰相折衷案トシテ聯邦議會帝國議會及帝國政府ヨリ各五名都合十五名ノ委員ヲ以テ帝國參政院（Reichsrat）ナルモノヲ組織シ常ニ政府ト接觸ヲ保タシメ帝國大小ノ政策ニ對スル民意ヲ吐露スルノ機關ト爲サムト欲セシ由ナレトモ社會黨其ノ他自由派ヲ代表スル新聞紙ハ之ヲ以テ內各黨ノ希望ニ副ハス外他國ノ信用ヲ買フ所以ニアラス豫算委員會ノ存スル以上無用ノ長物ナリ平等選擧ニ關スル豫告ヲ爲シタル宰相モ帝國ニ斯カル半官半民的ノ空中樓閣ヲ築カス眞ニ議院政治實現ノ保障ヲ爲スニ於テノミ留任スルコトヲ得ヘシト做シ其ノ去就ニ就キ益々冷淡トナリ又十二日中央黨機關紙「ゲルマニア」ノ如キハ中央黨幹部ハ黨內ノ一部及他民黨ノ意見ニ顧ミ帝國宰相ハ講和談判ノ協力者トシテハ不適任ナリトノ意見ヲ有ス殊ニ同宰相ノ下ニ宣戰ノ布告アリタルニ於テヲヤト論スルニ至リシカ同日皇太子カ各派領袖ヲ招キテ宰相ノ進退ニ關スル意見ヲ聽取スルヤ進步黨首領フォン、パイヤーヲ除キテハ殆ント全部宰相ノ態度ヲ攻擊シタリト云フ

然ルニ宰相ト議會多數トノ間ヲ阻隔シタル他ノ重大原因ハ刻下ノ重要問題タル講和方針ニ關スル意見ノ相違ナリシ由ニテ此問題ニ就キ宰相ハ連日各派ノ首領ト協議ヲ重ネ來リシモ遂ニ七月十二日夜ニ至リ宰相ハ多數黨ノ要求ニ贊成スル能ハサル旨ヲ答ヘ翌十三日再會ノ豫算委員會ニ於テ宰相ハ出席セサリシモ副宰相ヘルフェリッヒハ右ノ事情ニ關スル社會黨員エバートノ陳述ヲ確認シ爲ニ豫算委員會ハ斯カル狀況ノ下ニ講和宣言ノ決議ヲ爲スモ無用ナリトテ再ヒ閉會シ一度十二日ニ延期セラレ居タル議會ノ大討議モ更ニ十九日以前ニハ之ヲ行ハサルコトニ定メラレ同時ニ宰相反對ノ聲ハ益々露骨トナリ中央黨及國民黨ノ如キハ公然皇帝及宰相自身ニ對シ時局ノ紛糾ヲ救フカ爲又講和ノ氣運ヲ促進スルカ爲宰相退隱ノ可ナルヲ言明シタル由ニテ中央黨機關紙「ゲルマニア」ノ如キ最早宰相ノ辭職ハ猶豫スヘキニアラスト唱フルニ至レリ即チ普國平等選擧ニ關スル詔勅ニ依リ一度鞏固ナラントセシ宰相ノ地位ハ講和問題及議院政治問題ノ爲ニ鞏固ナル能ハス却テ保守黨乃至全獨主義者ノ躍起トナリテ離間中傷ヲ逞シウスルニ至レルアリ宰相ノ四面楚歌ヲ奏スルヲ開キ其ノ退隱ハ最早時日ノ問題トナルニ至レリ

果然十三日ニ入リ政界ノ動搖ハ極點ニ達シヒンデンブルグ、ルーデンドルフノ兩將軍ハ再ヒ皇帝ノ電召ニ應シテ入京シ來リ先ツ皇太子ト會見シ尋テ逐次各黨領袖ヲ引見シテ戰局殊ニ講和決議ニ關スル意見ノ交換ヲ行ヒタルカ中央、社會、進歩三黨ハ已ニ決定セル講和共同宣言ニ就キ字句ノ改訂ヲ施スノ外殆ント改削ノ必要ヲ認メサリシ由ニテ十三日夜右三黨ノ共同宣言（後述參照）ハ確定發表セラルヽニ至レリ即チ七月初メ以來內外政策ニ關シ成ルヘク議會ノ多數ヲ翕合センカ爲中央乃至左黨各派間協議ヲ重ヌルコト幾回ナルヲ知ラス九日國民自由黨ハ遂ニ講和問題ニ關スル共同宣言ニ加入スルコト能ハサル旨ヲ言明シタル由ナレトモ尙中央、社會、進歩三黨ノ結束ニ成ル議會ノ大多數ハ破レス此ニ於テ皇帝モ遂ニ宰相ベートマン、ホルウエッヒノ辭職ヲ聽許シタルモノヽ如ク新聞紙ニ依ルニ新宰相ミハエリスノ任命モ已ニ同日中ニ決定シタリトノコトニテ同日皇帝ハ兩將閣臣及バイエルン大使ヲ引見シタルカ殊ニ去ル十一日以來帝都ニ在リテ不尠世人ノ視聽ヲ惹キ居タル皇太子カ十三日夜西方戰場ニ去リタルハ何トナク事件ノ落着ヲ告クルモノヽ如ク十四日獨國最初ノ平民宰相ドクトル、ゲー、ミハエリスハ（Dr. Georg Michaelis）正式ニ宰相ノ印綬ヲ授ケラレベートマン、ホルウエッヒDr.（Theobald v.Bethmann Hollweg）ハホーヘンツォルレルン王家ノ大綬章（Der Stern der Grosskomture des Königlichen Hausordens von Hohenzollern）ヲ添ヘタル優渥ナル詔勅ヲ賜ハリ滿八箇年ノ劇職ヲ去ツテホーヘンフィノウ（Hohenfinow）ノ私領ニ退キ去ル七日以來漸次宰相ノ進退問題ト化シ來レル政界ノ動搖モ茲ニ其ノ中心ヲ失ヒ忽ニシテ其ノ終リヲ告クルニ至レリ

四、新宰相ノ就任ト其ノ議會演說

ベートマン、ホルウエッヒノ辭職說ト共ニ新聞紙上ニ出沒シタル後任者名中フォン、ヘルトリング、フォン、ダルウィッツ、グラーフ、ロョーデルン、フュルスト、ビュローノ次ニ大藏次官ドクトル、ミハエリスノ呼聲ヲ聞カサリシニアラサルモ官位高カラス門地優レサル彼ノ就任ハ大方ノ期待セサリシ所ナルカ如ク一二新聞紙ノ彼カ御前會議ニ伺候セシ事實ヲ

探聞シテ之ヲ有力ナル候補者ニ推シタルモノナキニアラサリシモ一般ニハ寧ロ其ノ任命ヲ意外トシタルモノヽ如シ

彼ハ一八五七年シンツヤニ生レ本年六十歳ブレスラウニ其ノ學ヲ終フルヤ一八七九年司法官トシテ其ノ官吏生涯ヲ始メ一八八五年官ヲ罷メテ東京ニ教鞭ヲ執ルコト四年歸國後再ヒ司法官トナリシモ一八九二年行政官ニ轉シ累進シテ一九〇九年大藏次官ニ進ミ開戰以來普國食料委員（Preussischer Staats Kommissär für das Ernährungswesen）トシテ令名アリ

又彼ハ炯眼ニシテ意思堅固精力絶倫ニシテ事務ニ倦ムコトナク滔々ノ辯明晰ノ頭腦難問ニ對シテ之ヲ解決スルコト快刀亂麻ヲ絶ツノ慨アリト稱セラルレトモ要スルニ其ノ前生涯ハ穎脫セル一個ノ能吏ト云フノ外ナク政治家トシテノ彼ノ將來ハ「未タ記サレサル白紙」ニ異ナラストテ左黨新聞紙中或ハ其ノ任命ノ依然トシテ天降リナリトテ嘆息シ反動主義ノ傀儡ナルヘキカト疑フモノモアリシモ一般ニハ彼ヲ迎フルニ好意的留保ヲ以テシ之ニ反シ右黨新聞紙ハ初メテ硬骨宰相ヲ得タリトテ頻リニ之ニ喝采シ乍ラ尙半面ノ愁眉ヲ開カサルモノヽ如カリキ

然ルニ新宰相ハ其ノ正式ノ任命ヲ受クルヤ否ヤ内相ヘルフェリッヒ邸ニ於テヒンデンブルグ、ルーデンドルフ兩將軍會同ノ上中央、社會、進歩三黨起チテ多數黨聯合ノ領袖ト會見シ又翌十五日兩將軍會同ノ上再ヒ内相邸ニテ國民、保守、獨逸會三黨領袖トモ會見シ十六十七兩日又多數黨諸領袖ト會談セシカ此等會見ノ結果新宰相ト各黨派殊ニ多數黨トノ意思疎通シタル由ニテ多數黨ハ十七日最後ノ三黨會議ニ於テ更ニ其ノ講和共同宣言ヲ確認シ去ル十三日以來入京シテ殆ント獨國政界ノ相談役ヲ勤メタルノ觀アルヒ、ル將軍ハ當日ヲ以テ伯林ヲ辭去セリ

愈々十九日ノ帝國議會ニ於テ去ル五日以來遷延セラレタル戰費案第一讀會ノ續キ並三黨ノ妥協講和宣言ニ關スル決議ハ議事日程ニ上リシカ新宰相ハ此等問題ノ討議ニ入ルニ先チ左ノ演說ヲ以テ内外政策ニ關スル其ノ立場ヲ明ニセリ即チ

宰相ハ先ツ就任ノ挨拶トシテ自己ノ責任ノ重大ナルニ顧ミ議會ノ協力ヲ切望シタル後前任者ニ對スル非難攻擊ノ露骨激烈ナリシヲ遺憾トシベートマン、ホルウエッヒノ功績ハ後來戰記ノ現ルヽヲ待チテ始メテ充分之ヲ評價スルコトヲ得ヘシトテ彼ヲ賞揚シ轉テ

戰爭責任問題ニ關シ

露國ノ動員日ニ進捗スルヲ見乍ラ悠々國際會議ニ應シタラムニハ獨國ノ政治的自殺ナリシナルヘシ英國政治家ハ其ノ靑書ノ示スカ如ク露國動員ノ獨國トノ戰爭ヲ釀スヘキハ之ヲ認メタレトモ露國ノ措置ニ對シ只一言警告ノ辭ヲ發スルコトナカリキ却テ余ノ先任者ハ一九一四年七月二十九日附在墺大使宛訓令ニ於テ吾人ハ欣ヒテ我同盟ノ義務ヲ履行スヘキモ同時ニ墺洪國ニ於テ我忠言ヲ尊重セス爲ニ獨國ヲ驅リテ世界戰爭ノ渦中ニ投セシムルカ如キハ之ヲ排斥セサルヘカラスト述ヘタリ平和ニ眷々タルベートマンハ露軍ノ行進獨國ニ迫ル迄モ平和ノ維持ニ努力セリ而モ遂ニ劍ヲ執ツテ起ツノ外ナカリシナリト述ヘ進ンテ

潜水艇戰爭ニ關シ

戰爭ヲ强ヒラレタル獨國ハ武器ノ使用殊ニ潜水艇戰爭ニ於テモ敵國ノ强フル所トナレリ吾

人ハ潜水艇戰爭ヲ以テ違法非道トスルノ非難ヲ排ス英國ハ其ノ國際法違反ノ海上閉鎖ニ依リ獨國ト中立諸國間ノ正當ナル通商ヲ阻止シ又我ニ向ツテ飢餓戰爭ヲ宣言セリ米國カ中立諸國ノ先頭ニ立チ此違法行爲ヲ抑止スヘシトノ一縷ノ望ハ實現セス而シテ此上ノ不幸ヲ避ケムトスル我誠意アル講和提議ハ容レラレス於此乎獨國ハ其ノ緊急防衞タル報復手段トシテ此最後ノ手段ニ訴ヘタルカ今ヤ戰爭ノ短縮ヲ來サムカ爲極端ニ之ヲ使用スルノ止ムナキニ至レリ

潜水艇戰爭ノ效果ハ豫想ニ反セス否期待ニ超過ス祕密會議ノ朦朧タル誤傳ハ一時公衆ノ失望ヲ釀シタルカ如キモ之潜水艇ノ力ニ依リ戰爭ハ一定ノ時期ニ終結スヘシトノ期待ヲ與ヘタル早急ナル豫言者ノ罪ニシテ彼等ハ邦家ノ爲何等ノ貢献ヲモ爲サヽリシナリ予ハ潜水艇カ敵國ノ船腹ヲ滅却シテ其ノ當然ノ使命ヲ全ウセムコトヲ確信ス潜水艇戰爭カ敵國ノ處決ニ如何ノ影響ヲ及ホスヘキヤ吾人ハ靜カニ之ヲ觀望シテ可ナリ時勢ハ我ト共ニアリ吾人ハ我潜水艇將卒ノ溌溂タル活動ニ對シ充分ノ信憑ヲ有シテ可ナリ

ト述ヘ之ヨリ宰相ハ陸海軍將卒ノ功勞ニ感謝シ同盟諸國ノ忠實ト勇敢トニ對シ獨國モ亦已定ノ條約取極ヲ恪守シ飽迄同盟ノ誠ヲ盡スヘシト云ヒ大陸ニ於ケル東西戰場ノ好況ヲ說キ次テ約半時間前ヒンデンブルグ元師ヨリ一捷報ニ接シタリトテガリシヤ方面ニ於テ露國ノ攻擊ニ餘儀ナクセラレタル獨墺同盟軍ハバイエルンノレオポルド親王ノ下ニ確實ニ露國戰線ヲ突破シタリトノ意味ノ電報ヲ朗讀シプリュシロフ最近ノ勝報ハ之ニ依リテ相殺セラレタリト述ヘ

米國ノ參戰ニ關シ

協商國政治家ノ米國ノ參戰ニ對スル吹聽ハ大袈裟ナレトモ之ヲ聞ク吾人ノ心中毫モ驚カス米國カ歐洲大陸ヘ大兵ヲ送リ之ヲ給養スルニ幾何ノ船腹ヲ要スヘキヤハ已ニ之ヲ計畫シ盡セリ英佛ハ自國兵ノ給養ニサヘ其ノ戰時經濟ヲ犧牲トスルノ必要ヲ見タルニアラスヤ我陸海軍殊ニ潜水艇ハ此新戰局ニ對シテモ勝利者タルヘキコト疑ヲ容レス要スルニ吾人ハ我同盟軍ト共ニ戰局ノ如何ナル發展ニ對シテモ從容トシテ之ヲ迎フルコトヲ得ヘシ而モ「戰爭ノ繼續尚幾何ナリヤ」トハ各人ノ胸底ニ浮フ焦眉ノ問題ナリ此問題コソ今ヤ吾人一同ノ利害ノ中心ニ觸ルヽモノニシテ又本日ノ討議ノ大眼目ヲ爲スモノナリトテ愈々

講和ノ問題ニ入リ

獨國ハ戰ヲ欲シタルニアラス征服ヲ企圖シタルニアラス又其ノ權力ノ膨脹ヲ希ハサリキカルカ故ニ若シ名譽アル講和ヲ得ヘシトセハ單ニ强制的征服ノ爲ニ一日タリトモ戰爭ヲ繼續セサルヘシ(多數黨大喝采)吾人ハ先ツ講和ノ確實ニ調ハムコトヲ欲スルモノナリ現在及將來ノ人類ハ此艱難ナル戰爭年間ヲ以テ我國民ノ勝利、無限ノ遂行力及欣然トシテ犧牲トナルノ精神ヲ顯揚シタル時代ナリトシテ今後長年月ノ間之ヲ紀念スヘシ七千萬ニ足ラサル國民ハ忠實ナル其ノ同盟國ト肩ヲ並ヘテ已ニ幾倍スル多數國民ニ對シ武器ヲ執リテ之ヲ國境ノ外ニ防キ自己ノ到底破ラルヽモノニアラサルコトヲ證明セリ於是乎次ノ目的ヲ生ストテ其ヨリ

講和ノ條件ニ進ミ

第一祖國ノ領域ハ不可侵ナルヘク帝國領域ヲ獲ムトノ希望ヲ有スル敵トハ交渉ニ入ルコトヲ得ス講和ヲ爲ストセハ吾人ハ先ツ獨逸帝國ノ國境ハ永久ニ安固ナルヲ保證セサルヘカラス(右黨大喝采)吾人ハ又妥協ニ依リ交讓ニ依リ獨逸帝國ノ大陸及海外ニ於ケル生存條件ヲ確保セサルヘカラス講和ハ又各國民間永久融和ノ基礎トナラサルヘカラス又講和ハ諸君(多數黨ヲ指ス)ノ決議中ニ示サル、カ如ク經濟的閉塞ニ依ル各國民將來ノ敵對關係ヲ防カサルヘカラス又講和ハ我敵國ノ武裝同盟カ昻シテ吾人ニ對スル經濟的攻擊同盟トナラサル樣之ヲ保證セサルヘカラス余ノ解スル所ニ依レハ此等ノ目的ハ諸君(同上)ノ決議ノ範圍ニ於テ之ヲ實現スルコトヲ得ヘシ(多數黨大喝采)ト論シ進ンテ宰相ハ

講和ニ對スル態度ヲ示シ

吾人ハ再ヒ講和ヲ提議スルコトヲ得ス(右黨喝采)眞摯ニ延ハサレタル議和ノ手ハ虛僞トシテ一度退ケラレタリ然レトモ若シ敵國ニシテ進ンテ其ノ征服ノ希望目的ヲ去リ講和談判ニ入ラムコトヲ欲セムカ吾人ハ眞面目ニ且常ニ講和ニ異議ナキノ態度ヲ以テ先方ノ吾人ニ云ハムト欲スル所ニ傾聽スヘシ此點ハ全國民、獨國軍隊及此演說ニ同意ヲ表シタル軍隊統帥者ト共ニ政府ノ確信シテ疑ハサル所ナリ只其ノ時間ニ至ル迄ハ吾人ハ堅忍持久スルコトヲ要スト述ヘ轉シテ

食料品問題ニ入リ

旱魃ノ爲五穀發育ヲ阻碍セラレ食料品問題ノ困難ハ案ニ違ハス七月ニ入リ慘憺タル窮狀ニ陷リタルハ事實ナリ併シ間モナク改善ノ時期來ルヘキハ余ノ確信スル所ナリ來ルヘキ收穫ハ未タ之ヲ確知セサレトモ一九一五年ニ於ケルカ如ク中作ヲ得ルニ至ルヘシ其ノ他羅馬尼等ノ占領地ヨリ利用シ得ヘキ所ヲ加フレハ飼料問題モ救治スルコトヲ得ヘク獨國カ一九一六年ノ如キ不作ヲ以テシテモ尙爲ニ屈服セサルヘカラサルノ飢餓ニ陷ルコトナキハ過去三年ノ戰爭年間ノ示ス所ナリ配給組織ヲ嚴密ニシ割當ヲ減縮スルトキハ貯藏高ヲ以テ辨スルコトヲ得ヘシ之英國ニ比スレハ遙ニ有利ノ地位ニ在ルモノナリト述ヘ又進ンテ宰相ハ都市住民ト地方住民トノ間兎角釋然タラサルヲ嘆シ都市住民ハ農家ノ生產難ヲ斟酌シ地方住民ハ都市住民ノ生活難ニ同情セサルヘカラス幸ニモ都會ヨリ十數萬ノ兒童田舍ニ轉地シタルハ雙方融和ノ掛橋トナルヘキモ吾人ハ全力ヲ盡シテ此不和ヲ一掃セサルヘカラスト述ヘ之ヨリ宰相ハ就任後僅カニ五日ナル余ニ對シ內政上ノ幾多ノ懸案ニ關スル意見ヲ本日玆ニ言ヒ盡シテ餘蘊ナキヲ期待スルハ聊カ過望ナリトノ前提ノ下ニ

內政改革問題ニ關シ

余カ普通選擧法ニ關スル七月十一日ノ詔勅ノ意ヲ奉體セルハ勿論ナリ(多數黨喝采)余ハ又政府ト大政黨トノ關係ヲ益々密接ナラシムルヲ以テ有益且必要トス從テ余ハ帝國ノ聯邦的性質及憲法上ノ基礎ヲ傷ケサル限リ議會ト政府トノ協力ヲシテ益々活潑且有效ナラシムルカ爲ニ全力ヲ惜マサルヘシ又議會多數黨ノ信任ヲ負ヒ且適當ノ手腕ヲ有スル人士カ政府當局者ノ班ニ列シテ議會ト政府トノ信任關係ヲ增進スルコトモ余ノ願ハントスル所ナリ(多數黨喝采)但シ以上ハ固ヨリ一方ニ於テ政治上政府ノ憲法ニ基キ享有セル權能ハ苟モ之ヲ毀損セラル、コトナキヲ前提トス余ハ余ノ掌中ヨリ統御ノ權能ヲ奪ハレムコトヲ肯セサル

モノナリ(右黨大喝采)ト述ヘ終リニ宰相ハ其ノ獨國ノ將來ニ對スル理想ヲ語リテ曰ク

吾人ノ航路ハ浪高ク風荒ル但シ前途ノ光明ハ眼前ニ在リ吾人ノ實現セムト欲スル所ハ敵國ト主張スルカ如ク其ノ武力ヲ以テ世界ヲ恐怖セシメムトスル獨國ニアラスシテ德高ク敬虔ニシテ自由ニ平和ヲ愛シ而モ强固ナル麗シキ新獨逸國ナリ此獨國ノ爲ニ吾人ハ戰ヒ且苦シム有ユル敵ト戰ヒ血河屍山ヲ爲スハ其ノ辭セサル所ナリト

五、多數黨ノ講和決議及戰費案ノ議會通過ト國民自由黨及保守黨ノ講和決議反對宣言

前述ノ如ク新宰相ハ左右兩黨ヨリ其ノ黨勢ニ應シテ巧ニ喝采ヲ博シタルカ如キ觀アル後ヲ受ケテ中央黨議員フェーレンバッハハ自黨社會黨及進歩黨ノ名ニ於テ左ノ如キ決議ヲ議會ニ提出セリ

帝國議會ハ左ノ宣言ヲ爲ス

戰爭ノ第四年目ニ入ラムトスルニ當リテモ一九一四年八月四日ニ於ケルカ如ク獨國民ハ「吾人ハ征服ノ慾ニ驅ラル、モノニアラス」トノ勅語ヲ以テ心トスルモノナリ獨國ハ其ノ自由獨立及領土ヲ保全セムカ爲ニ武器ヲ執レリ帝國議會ハ妥協ニ依リ而モ各國民間永久ノ融和ヲ來スカ如キ講和ヲ實現セムト欲ス斯カル講和ト强制的領土獲得及政治上經濟上若クハ財政上ノ强制トハ相兩立セス

帝國議會ハ戰後各國民間經濟上ノ閉塞及敵對關係ヲ來スカ如キ計畫ハ凡テ之ヲ排斥ス海洋ノ自由ハ確保セラレサルヘカラス只經濟的平和ノミハ各國民ノ友好的共同生活ノ基礎トナルヘシ

帝國議會ハ諸國際的法律組織(Internationale Rechtsorganisationen)ノ構成ヲ要望ス然レトモ敵國政府ニシテ右ノ如キ講和ニ贊成セス又獨國及其ノ同盟ヲ征服セムト威嚇スル間ハ獨國民ハ擧國一致堅忍持久シ其ノ生存及發展ノ權利カ同盟諸國ノソレト共ニ確保セラル、迄奮鬪スヘシ

擧國一致ノ獨國民ハ之ヲ打敗ルコトヲ得ス之帝國議會カ祖國ノ爲勇敢ナル防戰ニ當レル人々ト所見ヲ一ニスル所ナリ全國民永久ノ感謝ハ彼等ノ上ニ在リ

次テフェーレンバッハ(中央)シャイデマン(社會)フォン、パイヤー(進歩)ハ逐次自黨ヲ代表スル演説ヲ爲シ中ニ右決議ノ由來ヲ述ヘ且宰相ノ演説ニ對スル批評ヲ試ミタルカフェーレンバッハハ右決議カ本來政府ノ權能ニ屬スヘキ講和提議ヲ爲スモノニアラスシテ單ニ獨國民ノ和意ヲ表明セムトスルモノナルヲ辯シタル後過去三年ノ間拂ハレタル血ト財寶トノ犧牲ニ顧ミ戰爭第四年目ニ入ラントスルニ當リ尙此上ノ犧牲ヲ奈何トハ各國民ノ間一樣ニ起ルヘキ大問題ナリ而シテ獨國軍事上ノ地位ハ何等他ノ野望ニ委スヘキノ由理ナシ於是乎妥協的講和宣言ヲ爲スモノナリト云ヒシャイデマンハ此戰爭ヤ敵モ味方モ武力ニ依リ終結セシメ得ヘキモノニアラス願ハクハ他國民ニ於テ此決議ニ依リ何等征服ノ野心ナキ獨國民擧國一致ノ眞意ヲ聞カンヿヲト布衍シフォン、パイヤーハ政府ニ依ル講和提議カ嘲笑ノ裡ニ斥ケラル、所ヲ果サントスル此眞面目ナル議會ノ行動ニ對シ誰カ疑ヲ以テ迎フルモノア

ランヤト述ヘ又宰相ノ演說ニ關シ講和方針ニ就テハ三者共ニ宰相ト同意見ナルヲ認メ殊ニフォン、パイヤーノ如キハ宰相ノ背後ニハ更ニ軍事統帥者ノ之ト所見ヲ同シウスル者アルヲ聞キタリトテ不少滿足ノ意ヲ表シタレトモ內政改革問題ニ就テハ概シテ宰相ノ態度ニ嫌厭タルヲ示シ普國選擧法問題ニ關シシャイデマンハ獨國民ハ實行ヲ欲スルカ故ニ徒ニ普國下院ノ任期ヲ延長スルコトヲ爲サス政府ハ來ル秋期ノ議會ニ於テ改正案ヲ提出スヘシト切論シ所謂議院政治問題ニ關シフェーレンバッハハ中央黨ニ於テハ皇帝及各邦ノ權能ヲ尊重センコトヲ欲スルモノナレトモ黨派ト政府トノ親善關係カ政府ト無責任ナル人々トノ密接關係ヨリモ違憲ナリトノ所以ヲ知ラスト言ヒフォン、パイヤーハ英國ノ模倣ニ非スシテ獨國固有ノ國情ニ適スル議院政治ノ實現ハ最早猶豫スヘキニアラス黨派ノ信任アル人々ヲ入閣セシムルモ其一助タルヘシ最近數週間ニ於テ獨國民主思想ハ長足ノ進歩ヲ爲セリ此大進歩ハ獨國多數人ノ想像以上ニ獨國民ト他國民トノ了解ヲ容易ナシムルニ至ルヘシト述ヘタリ次ニ獨立社會黨アルブレヒト(Albrecht)ハ犯サレタル不正行爲ニ關スル各國民ノ自由決定權ヲ基礎トシ講和ヲ締結センカ爲ニ直ニ其ノ談判ヲ開始スルコト包圍狀態ヲ速カニ撤去スルコト並ニ社會共和國ノ建設ヲ要求スル同黨獨得ノ決議ヲ提出シ保守黨ウェスタルプ伯(Graf Westarp)國民自由黨シェーナイヒ、カロラト公(Prinz zu Schöïnaich-Carolath)ハ相次テ各自黨ノ主張ヲ述ヘタルカ兩者共ニ內政問題ニハ觸レス多數黨ノ講和決議反對勞自黨ノ講和觀ヲ宣言スルニ止メタリ

保守黨ウェスタルプ伯ハ此國歩艱難ナル時ニ際シ宰相カ國務ヲ燮理シテ十分ノ效果ヲ擧ケ且國內ノ結束ヲ鞏固ナラシメンコトヲ切望シタル後次ノ如ク述ヘタリ

『尙敵國ハ獨國討伐ノ意ヲ飜スニ至ラス當方ニ於テ戰勝ノ效果ヲ抛棄セントスルノ意圖ヲ示シ講和ニ吝ナラサルノ態度ヲ示スヤ常ニ解シテ以テ獨國戰敗ノ證據トナス外國新聞紙ニ依ルニ目下議事ニ附セラレントスル多數黨決議モ亦已ニ敵國側ノ戰爭熱ヲ煽リ戰爭ヲ永引カシムルノ用ニ供セラル、モノ、如シ此ノ故ニ吾人ハ斯カル決議ノ提出ヲ欲セス斯カル決議ハ獨國ノ將來ヲ祝福セス陸海軍將卒ノ勞苦ニ報エス全國民ノ信念ヲ固クセス演說若クハ決議ニ依リ又ハ敵ノ道念ニ訴ヘントスルモ未タ曾テ一歩モ講和ニ近接スルヲ見ス決定ヲ與フルハ唯我陸海軍人ノ奮鬪ニ在リ我軍隊ハ尙此上ノ戰勝ヲ繼續スヘシ潛航艇戰爭ハ月々敵國ノ張本タル英國ヲシテ遂ニ對抗シ得サルニ至ラシムヘシ軍事統帥者ノ判斷ニ則リ吾人ハ戰勝ヲ信シテ疑ハサルモノナリ其期ニ至ル迄ハ獨國民ハ有ユル經濟上ノ困難ニ關セス之ヲ堪ヘ忍フヘシ

若シ夫レ講和談判ニ至リテハ敵國ニシテ一切ノ强制的領土擴張及償金ニ對スル要求ヲ捨テ我ト談合センコトヲ欲セムカ獨國側ノ條件トシテハ先ツ獨國及其ノ同盟國ノ存在將來及發展ノ自由ハ確實ニ保障セラレサルヘカラス我國境ハ永久ニ改善セラレサルヘカラス東プロシヤハ再ヒ露國ノ侵入ニ委セラルヘカラス其ノ他吾人ノ從來常ニ主張シ來レル講和條件ハ今モ尙變ルコトナシ敵ノ好意ニノミ倚賴スル妥協ニ依リ以上ノ目的ヲ達スル能ハス講和ノ體樣ヲ決定スルモノハ一ニ談判當時ノ戰況ニ在リ最高爲政者ノ任務ハ講和談判ニ際シ軍事統帥部ト密接ノ關係ヲ保チ戰況ヲ判斷シテ戰場ノ優勢ト將來ノ攻擊力トヲ充分利用スルニ

在リ宰相ニシテ此任務ヲ盡サムカ軍隊及國民ノ同意ヲ得ルコト疑ナシ多數黨決議ハ右ノ見解ニ副ハサルヲ以テ我黨ハ之ニ反對ス』

國民自由黨シェーナイヒ、カロラト公ハ簡單ニ自黨ノ立場ヲ次ノ如ク述ヘタリ

『吾人ハ多數黨ノ決議反對ニ一決セリ現在ノ時局ニ於テ議會ノ講和決議ヲ爲サムトスルカ如キハ吾人ハ之ヲ妥當トスルコト能ハス蓋シ敵國ハ之ヲ曲解シ之ヲ斥ケ恰モ一九一六年十二月十二日講和提議ノ經驗ヲ繰返スノミナレハナリ若シ夫レ事實問題ニ關スル我黨ノ所見ヲ述ヘムカ三年ノ困難ナル戰爭ヲ經タル今日獨國民ハ其ノ同盟國ト共ニ殆ント全世界ヲ敵トシ敢然之ト相對ス其ノ持久ガ敗ル、コトナキノ確信ハ益々強キヲ加ヘタリ我軍隊ハ依然トシテ敵國内ニ在リ其ノ占領區域ハ獨國自身ヨリモ廣ク潜水艇ノ效果ハ豫期ニ優リ其ノ數ハ常ニ增加ス敵ハ船腹問題ノ爲遂ニハ對抗シ得サルニ至ルヘシ要スルニ吾人ハ前途ニ對シ充分ノ確信ヲ有スルモノナレトモ今尚一九一四年八月四日ノ「吾人ハ征服慾ニ驅ラル、モノニアラス」トノ勅語ヲ以テ心トス故ニ右根據ノ下ニ敵國ニシテ異議ナカラムカ吾人ハ獨國民竝其ノ同盟國ノ生存及充分ナル發展ノ自由ヲ保證シ及利害關係ノ妥協ニ依リ各國民永久ノ融和ヲ得シムルカ如キ講和ヲ締結スルニ同意ス敵國ニシテ征服ノ慾望ニ驅ラレ戰爭ノ繼續ヲ欲セムカ其ノ責任ハ彼等ノ頭上ニ在リ』

次ニ獨逸會(黨員二十六名)ヲ代表セルワルムート(Warmuth)ハ和局ヲ決スルモノハ單ニ武力ニ在リ敵國新聞ノ論調ニ顧ミ多數黨ノ決議ハ有害無益ナリ同黨ノ多數ハ之ニ反對スト云ヒ獨立社會黨(同上十九名)ハーゼ(Haase)ハ前顯自黨ノ決議ヲ布衍シ且多數黨決議ノ效果ナキハ曩ノ講和提議ニ異ナラス效果アルハ只露國勞働者及兵士委員會ノ要求ニ投スルニ在ルノミトテ多數黨ノ決議ニ反對シ波瀾黨(同上十八名)ザイダ(Seyda)ハ多數黨ノ決議ノ平和傾向ハ之ヲ諒トスレトモ未タ自黨ノ宿論ヲ濟サストテ同黨ノ棄權ヲ宣言シ丁抹黨ハ贊成シ同時ニ戰費案第一讀會ヲ終リ其後何等ノ討論ナク戰費案ノ第二讀會ハ獨立社會黨ノ反對ノミヲ以テ議會ヲ通過シ其ヨリ講和決議ノ議決ニ入リシカ獨立社會黨ノ講和決議ハ他ニ一黨ノ之ヲ支持スルモノナクシテ否決セラレ多數黨ノ講和決議ハ之ヲ指名點呼ニ問ヒタル結果棄權者一七名反對者一一六名對贊成者二一四名ノ多數ヲ以テ議會ヲ通過セリ以上七月十九日ノ議會ニ關スル記事ハ凡テ同二十日發行獨國官報ニ依リタルモノナルカ今二十一日發刊「フランクフルター、ツァイツング」伯林通信ニ依ルニ精査ノ結果右指名點呼ノ實際ハ左ノ如クナリシト云フ

十九日ノ議會出席議員總數　三五七名

內有效ニ指名點呼ニ應シタル者　三五五名

棄權者　一七名

內、波瀾黨一四名、國民自由、進歩國民、獨逸會三黨ヨリ各一名

反對者　一二六名

內、獨逸會一四名、中央黨五名、其ノ他ハ保守、國民自由及獨立社會黨

贊成者　二一二名

內、獨逸會一一名、諸小數黨所屬員八名、其ノ他ハ中央社會、進歩國民黨

尙當日中央黨ノ動議ニ基キ戰費案ノ第三讀會ヲ終ヘムトセシモ獨立社會黨レーデブール

(Ledebour) 外十五名以上ノ反對アリテ果サス翌二十日ノ議會ニ於テ第二讀會同様獨立社會黨ノミノ反對ヲ以テ右戰費案ハ第三讀會ヲ通過シ茲ニ議會ハ來ル九月二十六日迄閉會セラル、ニ至レリ

六、政界動搖ノ內情

檢閲ヲ經タル獨國新聞紙ヲ資料トシテ政界動搖ノ內情ニ徹底セムトスルハ固ヨリ不可能ナルヘシ只二週間餘リノ動搖ノ顚末ニ關係シ若クハ之ヲ傍證スルノ資料ナキニアラサルカ如シ例ヘハ七月九日發刊中央黨機關新聞「ゲルマニヤ」紙上「帝國議會ニ依ル獨國民ノ講和宣言」ト題シ議院內部ヨリ寄セラレタリト云フ一論文ニ依ルニ左ノ如キモノアリ

『豫算委員會ニ於テエルツベルゲルハ議會ヲシテ戰爭目的ニ關スル宣言ヲ行ハシメムカ爲ニ努ムルトコロアリキ右宣言ハ一九一四八月四日「獨國民ハ征服ノ慾望ニ驅ラレテ戰爭ヲ開始シタルニアラスシテ自由獨立及領土保全ノ爲ニ武器ヲ執ルニ至レリ」ト宣言セル趣旨ヲ更ニ鮮明ナラシメムトセルモノニシテ尙其ノ中ニハ戰後各國民間經濟上ノ閉塞及敵對態度ヲ目的トスル一切ノ計畫ヲ斥ケタル上ニテ獨國民ハ擧國一致百折不撓戰ヲ繼續スヘシトノ意味ヲ宣言セリ

エルツベルゲルハ其ノ行動ニ出ツルニ先チ其ノ政友及幹部ニモ通告セリ中央黨自身ハ已ニ七八兩日ノ黨議ニ於テ殆ント全員エルツベルゲルヲ支ヘ尙後日議會ニ提出セラルヘキ宣言ニ對シテモ同意スヘキヲ決セリ而シテ今回ノ擧ニ依リ達セムトスル目的ニ至リテハ要スルニ左ノ如キモノアリ

一、協商諸國ハ十二月十二日ノ講和提議ヲ嘲笑ノ裡ニ斥ケタルノミナラス有ユル手段ヲ以テ其ノ和局促進ニ對スル效果ヲ沒却セムトセリ而シテ我戰爭目的ニ關スル從來ノ宣言カ獨國政府ノ宣言タルニ止マリシハ協商諸國ヲシテ之ヲ以テ「普國武斷派」若クハ「皇帝專制主義」ノ虛構ト爲スニ恰好ノ口實ヲ與ヘタリ獨國ノ內情ニ通セサル外國ニ於テ之ヲ信スルコト吾人ノ意想外ニ甚タシキモノアルハ怪シムニ足ラス再ヒ敵ニ右ノ口實ヲ與ヘサラムカ爲ニ獨國民ハ普通選擧ヲ基礎トスル帝國議會ニ依リ其ノ戰爭目的ニ關シ一點疑ナキノ宣言ヲ發セサルヘカラス之ヲ以テ敵國ハ獨國カ擧國一致其ノ獨立自由ノ爲ニ最後迄奮鬪スルノ決心アルヲ熟知スルニ至ルヘキヤ疑ヲ容レス

二、右考案ヲシテ十分ノ效果アラシメムカ爲ニハ政府モ亦之ト立場ヲ同シウスルヲ要ス帝國宰相ハ豫算委員會ニ於テ戰爭目的ニ關スル其ノ從來ノ主張ヲ指摘シ右考案ノ精神ヲ諒トシタレトモ之ヲ以テ十分ト云ヒ難ク右宣言ヲシテ十分ノ信用ヲ博セシムルニハ獨國民ハ其ノ議會ヲ通シテ右宣言ニ對シ政府ト共同責任ニ任セサルヘカラサルヘシ之ニ依リテ英國ハ其ノ與國ヲ說クヘク獨國政府ハ結局其ノ欲スル所ヲ行フヘシ議會ハ毫モ之カ責任ヲ負フコトナシトノ口實ヲ失フニ至ルヘク聯合內閣ヲ作リ各黨派ノ領袖ヲ入閣セシムルノ企圖モ茲ニ出ツ之ニ依リテ皇帝政府及國民間ノ一致結束ハ外ニ對シテ分明ナルノミナラス之ヲ實現シ之ヲ有效ナラシムルコトヲ得ヘシ右制度ハ決シテ機械的ニ英國ノ範ニ倣ヒタル議院政治ニ至ルノ過程ニアラスシテ獨國ノ聯邦タル性質ヲ尊重シタル上ニテ其ノ特質沿革ニ適合スルモノナルヘシ

三、復活祭詔勅ハ之ヲ實現セルヘカラス戰爭ノ終局近キニアルヲ豫想シ難キヲ以テ直ニ普國內政改革ノ實行ニ着手スルハ緊急ノ必要事ナルヘシ之ニ依リテ復活祭詔勅ハ結局空證文ナルヘシトスル敵國ノ口實ヲ去リ殊ニ其ノ露國ニ對スルノ效果ハ大ナルモノアルヘシ目下ノ狀況ニ於テハ普國ノ選擧法トシテ適當ナルハ只平等祕密直接選擧ノ外アルナシ之カ爲ニハ普國內閣ニ意見ノ統一ヲ計ルコト必要ナルヘク從テ閣員ノ更迭モ自然ノ勢ナルヘシ

以上ノ諸措置ニ出ツルモ其ノ內外ニ對スル效果ハ當分ノ間極メテ薄弱ナルモノアルヘシ英國ハ之ヲ以テ獨國カ力弱リテ間モナク屈服スルノ徵證トセムト努ムヘシ而シテ之吾人ノ堪ヘ忍ハサルヘカラサル所ナリ然レトモ英國ハ右獨國民ノ妥協講和ヲ欲スルニ於テ一點疑ナキノ證據ヲ否定シ世界一般ニ講和熱ヲ增加スル結果ヲ防止スルヲ得サルヘシ若シ夫レ獨國內部ニ對シテハ右ノ和意ノ表明ニ依リ獨國民ノ一致結束ヲ固クシ百折不撓ノ持久心ヲ强ムルコト疑ヲ容レス』

右寄稿カ「ベルリーナー、ターゲブラット」ノ云フカ如ク果シテ中央黨ノ「プログラム」ヲ半公式ニ發表シタルモノナリヤ否ヤハ姑ク措キ其ノ前顯新聞紙ノ所謂社會黨ノ最後通牒ニ近似スルノ感アルノミナラス七月七日以來一度動搖シテ普國平等選擧施行ニ關スル詔勅トナリ二度動搖シテベートマン、ホルウエッヒノ桂冠ヲ餘儀ナカラシメ遂ニ十九日ノ議會ニ於テ妥協的講和ニ關スル中央、社會、進步三黨決議ノ議會通過ヲ見而シテ新宰相ノ內外政策ニ對スル立場ヲ聞クニ至リタル政界動搖ノ經過ハ頗ル右「プログラム」ニ照應スルノ觀ナクムハアラス而シテ七月十三日ノターゲブラットニ依リエルツベルゲルノ決意ヲ促シタル直接原因ニ就キ前社會黨議員ゼーヴェリング（Severing）ノ語ル所ヲ聞クニ左ノ如シ

數週間前伯林ニ於テ獨國社會黨帝國委員會開カレストックホルム派遣委員ノ報告アリタルトキ余ノ發起ニ依リ黨派委員會集合シ政府ヲシテ露國勞働者及兵士委員會ノ所謂無併合無賠償講和條件ニ副ヒ東方ニモ西方ニモ領土擴張ヲ欲セサル旨ノ宣言ヲ爲サシムル爲ニハ如何ニスヘキヤヲ議シタルカ集會ノ委員ハ自黨員ニ勸ムルニ政府ニ於テ右條件ニ同意セサル間ハ新戰費ノ協贊ヲ與ヘサルヘキヲ以テスルニ一決セリ而シテ黨員ハ委員ノ意向ニ同意シ政府ニ知ラシムルニ若シ此際政府ニ於テ公然妥協講和若クハ無併合講和ノ立場ニ立ツニアラサレハ社會黨ハ最早政府ヲ支持スルコトヲ得サル旨ヲ以テシタリ之ヲ聞キタルエルツベルゲルハ今ヤ併合論者ニ對抗シ帝國議會ノ一致宣言ヲ發スルノ機到レリト做シタルモノニシテ其ノ豫算委員會ニ於テ述ヘタル所ハ社會黨從來ノ主張ニ一步ヲ出テスト述ヘ居リ尙進步國民黨ハ同黨カエルツベルゲルノ擧ニ雷同シタリトノ謗ニ對シ同黨機關紙「リベラール、コルレスポンデツ」ヲシテ右非難ノ荒唐無稽ナルヲ述ヘシメ己ニエルツベルゲルノ演說以前同黨ハ其ノ黨議ニ於テ各黨派ノ共同動作ヲ實現セムト欲スルノ決議ヲ爲シ七月五日已ニ祕密交涉委員ヲ擧ケ同時ニ他諸黨派トノ接觸ヲ保ツニ至レリ』

依是觀之三黨ノ共同動作ハエルツベルゲルヲ須タサルモ遂ニハ出現スヘキ情勢ニ在リタルコト及右三黨ニ於テ如何ニ講和促進ノ急務ヲ見タルカヲ察スルニ難カラサルカ先是三月中旬獨國ニ於テ戰爭目的ニ關スル議論沸騰シ保守社會兩黨ノ質問トナルヤ中央國民進步ノ三黨ハ相提携シ中央黨首領スパーンヲシテ宰相ベートマン、ホルウエッヒノ緘默的態度ヲ支

持セシメ宰相カ併合非併合兩極端ノ講和方針ニ左袒セサルヲ言明シタル以上之以上ノ言明ヲ求ムルノ要ナシ要ハ一切ノ論爭ヲ捨テ、國内ノ一致ヲ保ツニ在リト云ハシメタルニ今ヤ三黨一樣ニ此態度ヲ捨テ中央進步兩黨ハ社會黨ト共同シ無併合妥協的講和ノ決議ヲ爲スニ至リ國民黨ノ如キハ眞先ニベートマン、ホルウエッヒヲ支ヘサル旨ヲ宣言シ多數黨ノ決議ニ反對シ乍ラ之ト相去ルコト遠カラサル講和論ヲ唱ヘ又内政改革問題ニ關シテモ四月七日復活祭詔勅ノ發布ヲ以テ滿足セス保守黨ヲ除ケハ各黨殆ント一致シテ普國選擧法改正ノ速決ヲ希望シ尙選擧法改正問題ト議院政治問題トヲ併セテ益々和局促進問題ト結ヒ付ケムトスルノ傾向ヲ生シ來レリ右諸黨殊ニ中央黨ノ態度ノ變遷ハ如何ナル事情ニ基クモノナルカ

顧レハ客年十二月十二日講和提議以來獨國ニ取リテハ戰爭上將タ外交上何等張瞻明日ノ快事ナク潛航艇戰爭ハ當初盛ニ唱道セラレタルカ如ク一定ノ時期ニ戰爭ヲ終結セス却テ米國參戰ノ結果ハ愈〻協商諸國ノ志氣ヲ皷舞セントシ露國ノ單獨講和ハ成立セス萬一ヲ僥倖セシストックホルム講和促進運動モ其ノ效ヲ奏セス國内ノ窮乏ハ新宰相モ之ヲ認メタルカ如ク益々甚タシク而モ此秋ニ當リ更ニ百五十億ノ戰費ヲ起シテ戰爭ノ第四年目ニ入ラントス政府ハ外戰ノ功乃至外交ノ功ニ依リ内人心ヲ新ニスルニ由ナク戰爭目的問題（講和問題）及内政改革問題ヲシテ其ノ當然ノ進路ヲ採ラシムルノ外ナク國内ノ結束漸ク緩弛セントシテエルツベルゲル一派ノ蹶起ヲ促シ多數黨ノ提手ヲ早メ此大勢ヲ挽回シ外和局ヲ促進シ内國内ノ結束ヲ新ニスルニハ最早單ニ擧國一致トノミ云ハス帝國議會ニ依リ妥協的講和、防禦的戰爭ノ意ヲ宣言シ之ト内政改革問題トヲ適當ニ結ヒ付クルノ外ナシトセルニハアラサルカ七月九日發刊「ベルリーナー、ターゲブラット」社説ハ其ノ一節ニ於テ述ヘテ曰ク『エルツベルゲルカ豫算委員會ニ於テ前後二回ノ大演說中述ヘタル所ハ社會黨議員ノスケ（Noske）カ其ノ以前已ニ述ヘタル所ト大同小異ニシテ只事ノ眞相ヲ明白ニシタルニ過キス唯多數ノ人々ハ久シキ以前ヨリ右ノ事實ヲ認メナカラ彼カ如ク大膽ニ之ヲ喝破スルヲ得サリシナリエルツベルゲルハ明敏ニシテ精勵博識ニシテ諸事ニ干與シ戰爭中特志外交家トシテ種々畫策シ又種々ノ見聞ヲ爲シ南船北馬大小諸宮廷ニ出入シ伊太利ニ瑞西ニスカンヂナビヤニ其ノ他ノ諸國ニ滯在シタリ今彼ヲ起タシムルニ至リタル根本事由及彼ノ背後ニ隱レタル人々ヲ尋子ンカ必スヤ興味深キモノアルヘシト雖之何等必要モナキ詮索ナリ然レトモ只牧師其ノ他隱レタル相談相手ニ依リ豐カナル情報ヲ手ニセル中央黨カ社會黨ニ次テハ最モ國内ノ輿論ニ通曉セルハ爭フヘカラサルノ事實ナリ』ト而シテ七月六日及同九日發刊「フランクフルター、ツァイツング」ニ依リ政界ノ動搖前ノ獨國内不安ノ狀況ヲ窺フニ六日發刊同紙社說ノ一節ニ曰ク『前議會（三月ノ議會ヲ指ス）以來露國ニ於ケル狀勢ハ一變セリ從ツテ其ノ革命ニ寄セタル獨國多數人ノ期待モ亦一變セリ當時宰相ハ獨國ノ希望スル所ハ偏ニ露國トノ自由ナル善隣生活ニ在リト述ヘタリ之獨國ニ於テ萬人ノ異論ナカリシ所トスルモ當時革命ニ依ル新事態ヲ一般講和促進ノ爲ニ利用セス徒ラニ露國トノ單獨講和ニ利用セムトスル向モアリタルニ對シ吾人ハ斷然之ヲ非議シタリ右所謂消息通ノ眞消息ヲ誤解シタル政策ノ失敗ハ當初ヨリ豫期セラレタル所ナリ而シテ政府ニ於テ此誤レル政策ニ驅ラレタル以上之

亦非難攻撃ノ責ヲ分タサルヘカラスストックホルムニ於ケル交戰國社會黨間ノ會議ハ之ヲ無視スヘカラサルト同時ニ將來恐ラク捲土重來ノ機アラム而モ今日ニ至ル迄ノ効果ハ殆ント云フニ足ラス然ルニ西方諸國ノ露國ニ於ケル勢力ハ依然トシテ盛ンナリ之固ヨリ當然ニシテ獨國ニ於テ極メテ穩カナル内政改革モ常ニ反動者派ノ排斥スル所トナルニ當リ新ニ自由民主トナリタル露國ニ對シ其ノ思想上英佛ハ獨國ヨリモ露國ト緣故淺キヲ告クルモ誰カ眞ニ之ヲ信スルモノアラムヤ』ト又同九日發刊同紙社説ノ一節ニ曰ク

『此方面（保守黨乃至全獨主義ヲ指ス）ヨリ國民ノ間ニ無制限潛水艇戰カ近キ時期――其ノ時期ハ後屢々變更セラレトモ順次過キ去レリ――ニ於テ英國ヲ壓迫シテ無條件ニ屈服ノ餘儀ナキニ至ラシムヘシトノ意見ヲ盛ンニ傳播シタルハ今トナリテハ差シタル祕密ニモアラス而シテ吾人ハ之カ爲ニ生スル恐ルヘキ誤解ニ對シ屢々警戒ヲ加ヘタルカ政府當局者ハ此誤解ノ到來ヲ防ク爲ニ全力ヲ盡シタリヤ否ヤ此點ニ關スル判斷ハ豫算委員會ノ祕密會議ニ於テ潛水艇戰爭及之ニ伴生セル米國トノ斷交ニ關シ決定ニ參與シタル諸議員ニ委セサルヘカラス但シ一般國民ニ至リテハ當時宰相及國務諸尙書就中ヘルフェリッヒ等ノ演説ニ徵シ此等諸官ハ議會ニ對シ事ノ眞相及其ノ及ホスヘキ結果ニ就キ充分ノ説明ヲ與ヘサリシトノ印象ヲ禁スルコト能ハス然ラサレハエルツベルゲルノ演説カ恰モ不意ノ大暴露ヲ敢テシタルモノヽ如ク斯ク偉大ナル効果ヲ齎スヲ得ムヤ』ト

（二）　獨逸新宰相ノ官歷及政治主義

（大正六年七月十六日附報告）

獨逸諸新聞ハ「ベルリナー、ターゲブラット」其他一二ヲ除キ何レモ新宰相ニ同情ヲ寄セ氏ノ手腕、精力、氏ノ强固ナル意思ヲ賞揚スルニ一致シ特ニ「テーグリッヘ、ルンドシャウ」ノ如キハ最モ盛ニ新宰相ヲ謳歌シ居レリ然レトモ氏カ果シテ如何ナル主義政見ヲ有スルカハ尙未知數ニ屬シ白紙ト同樣ナルモノヽ如シ尤モ氏カベートマンヲ倒シタル帝國議會ノ多數聯合派（中央、社會、進歩ノ三黨、アルサス、ローレン派及獨逸派ト稱スル一派ノ聯合）ノ政策ト大綱ニ於テ相適應シタル方針ヲ執ルノ外ナカルヘキコトハ一應之ヲ豫想スルヲ得ヘシ

七月十六日瑞西發行「ル、デモクラート」新聞ノ新宰相ニ關スル記事ヲ左ニ抄譯ス

『前普魯西大藏次官、現任同國糧食大臣タルミハエリス氏ハベートマンノ後任ニ擧ケラレタリ獨逸帝國新首相ドクトル、ゲオルグ、ミハエリスニ關シ的確ナル觀ヲ作ルコトハ困難ナリ彼ハ比較的顯レサル普魯西大藏次官ヲ永年間勤メタリ千八百五十七年ノ出世ニシテ其ノ經歷ノ大部分ハ普國ノ行政及司法事務ニ費シタルモ嘗テ四年間東京ニ於ケル官設獨逸法學校ノ講師タリシコトアリ（報告者曰ク氏ハ一九〇九年普國大藏次官ニ任命セラレ其ノ前一八九二年以來種々ノ職ニ在リタル由ニテ政黨ノ經歷ヲ有セス）世評ニ依レハドクトル、ミハエリスハ通常ノ官僚ト類ヲ異ニス彼ハ帝國戰時穀類局ニ長トシテ大ニ組織的能力ヲ發揮シタリ彼ノ穀類局ニ於ケル成績赫々タリシヲ以テ本年二月普國ニ糧食大臣ヲ新設シタル際彼ハ之ニ任命セラレタリ是一ニハ農業者ニ全然加擔シ居ル所ノ

普國農務大臣フォン、ショルレーマーニ對抗セシメンカ爲メナリキ果然彼ハ本年三月七日普國議會ニ於テ農務大臣ト激論ヲ始メタリ

本年四月麵麭ノ割當額ヲ減シタル爲メ大同盟罷工ノ起ルヤミハエリスハ勞働者ノ代表者等ト親シク會見シ能ク彼等ヲ鎭撫シタリフォン、グレーナー將軍ノ壯大ナル宣言モ威赫的諭告モ何等ノ效果ナカリシニ獨リミハエリスノ慰撫的勢力ハ其ノ效ヲ奏シタリ彼ハ勞働者ニ向ヒ改善ノ約束ヲ正式ニ與ヘテ彼等ヲ再ヒ軍需品製造所ニ戻ラシメタリ

ドクトル、ミハエリスハ極端主義者ニアラス現時ノ獨逸ニ於テハ是既ニ若干ノ價値ヲ有ス然レトモ獨逸國民ノ政治上ノ自由ヲ發達セシムルノ必要ヲ氏ハ能ク諒解シ居ルヤ否ヤハ別問題ニ屬ス全獨主義ノ「テーグリッヘ、ルンドシャウ」紙カ同氏ヲ頗ル賞讃シ居ル所ヨリ見ルモ此點ニハ疑惑ヲ抱カシム尤モ或者ハミハエリスノ宰相任命ハ全獨主義者及武斷派ニ對スル一大打擊ナリト主張シ居レリ何レ此點ハ遠カラサル內ニ判明スルニ至ルヘシ

獨逸ニテハミハエリスハ進步的民主黨ニ屬スル自由主義ノ人ナリト頻リニ吹聽シ居レトモ亦同時ニ氏ハ普國行政事務ニ當リテ光輝アル官歷ヲ作リ迅速ナル昇進ヲ爲シタリト述ヘ居ルニアラスヤ迅速ニ昇進シタル普魯西ノ官吏ナリト云フ以上ハ保守黨ニシテ假裝シ又ハ假裝セサル全獨主義者タルコト殆ント疑ナカルヘシ猶太人ノ機關タル「ベルリナー、ターゲブラット」カミハエリスヲ歡迎セサルハ彼ハ獨逸ヲ民主化スヘキ何等ノ保障ヲモ提供シ得サルヲ以テナルヘシ獨逸ノ民主的改革ハホーヘンツォルレルン家支配ノ下ニハ實現シ得ヘカラス現今ノ獨逸ノ一切ノ民主的運動ナルモノハ其ノ實世界ヲ欺キ以テ獨逸的平和ヲ迂回的ニ獲得セントスル假面運動ニアラサルカヲ疑懼セシム云々』

（三二）七月十九日ノ議會ニ於ケル獨逸新宰相ノ施政方針演說及各派代表者ノ演說大要

（大正六年七月二十日附報告）

七月十九日伯林發「ウォルフ」電報ニ依レハ獨逸新宰相ミハエリスハ同日開會ノ帝國議會ニ於テ左ノ如ク施政方針ヲ演說シタリ

『皇帝ハ予ニ宰相ノ職ヲ授ケラレタリ依リテ予ハ茲ニ始メテ貴院ニ臨ムノ光榮ヲ有ス最モ重大ナル刻下ノ時期ニ當リ甚大ノ責任ハ予ノ雙肩ニ懸リ來レリ神ニ對シ且獨逸ノ力ニ信賴シ予ハ就任ヲ敢テシタルカ予ハ進ンテ獻身的努力ヲ爲サントス予ハ又從來諸君カ發揮セラレタル愛國的精神ヲ以テ協同助力セラレンコトヲ切望ス予ノ先任者タル功勞ノ士ニ對シ批難スルヨリモ寧ロ敵意憎惡ヲ以テ迎ヘラレタルモ予ハ此敵意及憎惡ヲ內ニ藏シテ發表セサリシ方一層尊敬ニ値セシナラント思考ス戰爭ニ關スル資料公表セラル、ニ至ラハベートマン、ホルウェツヒ氏カ其在職中獨逸ニ對シ如何ナル功業ヲ爲シタルカハ明瞭トナルヘシ予ニシテ獨逸ノ名分ハ正シキモノナリトノ確信ヲ有セサルニ於テハ予ハ此職ニ就カサリシナルヘシ

戰爭ノ開始ニ關シテハ吾人ハ吾人カ餘儀ナク戰爭ニ加ハルニ至リタル三年前ノ諸事件ヲ日々追想セサルヘカラス露國ノ戰備及祕密ノ動員ハ獨逸ニ對スル大危險ニシテ動員益々擴大

セラルヘキニ當リ會議ニ參加スルカ如キハ政治的自殺ト云フヘカリシナリ英國政治家ハ露國ノ動員カ獨逸トノ戰爭ヲ惹起スルニ至ルヘカリシ事態ヲ青書ニ依リ熟知セルニ係ラス露國ノ軍事的措置ニ關シ何等ノ警告ヲモ與ヘサリシカ一方予ノ先任者ハ千九百十四年七月十二日附ヲ以テ在維納獨逸大使ニ訓令ヲ下シテ曰ク『吾人ハ喜テ我同盟義務ヲ盡スヘキモ墺洪國カ吾人ノ忠言ヲ無視シ爲メニ獨逸カ世界戰爭ニ引キ込マル、カ如キハ之ヲ拒絶セサルヘカラス』ト世界戰爭ヲ煽動セントスル人ハ斯カル書信ヲ發セス唯平和ノ爲メニ力闘シ最後迄平和ノ爲メニ努力シタル人ノミ斯カル言ヲ爲スモノナリ露國軍隊ノ進軍ハ獨逸ヲシテ劍ヲ執リテ立ツノ餘儀ナキニ至ラシメタリ吾人ハ何等選擇ノ餘地ナカリシナリ尚我戰闘方法殊ニ潜水艇戰モ戰爭ノ開始ト同樣事情止ムヲ得サルニ出テタルモノナリ

吾人ハ潜水艇戰カ國際法ニ違反シ人道ニ抵觸ストノ批難ヲ排斥ス吾人ヲシテ此武器ヲ執ルノ止ムナキニ到ラシメタルハ英國ナリ國際法ニ違反セル海上封鎖ヲ以テ英國ハ獨逸ト中立諸國トノ貿易ヲ阻止シ且飢餓戰爭ヲ言宣セリ吾人ハ米國カ中立國ノ先鋒トシテ英國ノ不法ヲ制止スルナルヘシト希望シタルモ之亦水泡ニ歸シ極端ニ陷ルヲ防止スル最後ノ試ミトシテ爲シタル誠意ニ基ク平和提議モ失敗ニ歸セリ此ニ於テ獨逸ハ正當防衞ニ基ク報復手段トシテ最後ノ手段ニ訴ヘ且又戰爭ヲ短縮スル爲メ無制限ニ之ヲ行フノ止ムナキニ至リシモノナルカ右ノ事態ヨリシテ獨逸ハ之ヲ爲スノ權能ヲ有スルコト、ナリシナリ

潜水艇戰ハ吾人ノ期待以上ニ其ノ目的ヲ果セリ祕密會議ヨリ洩レ傳ハリタル虚僞ノ報道ハ幾分失望ノ感ヲ與フルコト、ナリタルカ如キモ之多分或豫言者カ潜水艇戰ノ結果戰爭ハ或期間内ニ結了スヘシトノ期待ヲ早マリテ言明シタルコト、關係ヲ有スヘキカ此等豫言者ハ何等國家ニ貢獻スル所ナカリシナリ予ハ茲ニ潜水艇戰カ敵國船腹殲滅ノ目的ヲ遂ケ得タルコトヲ確言ス潜水艇戰ハ英國ノ經濟及軍事的行動ヲ害スルコト月毎ニ其ノ勢ヲ加ヘ講和要求遠カラスシテ實現スヘキ迄ニ至ラシメタリ吾人ハ充分ナル信頼ヲ以テ勇敢ナル潜水艇乘組員ノ今後ノ事業ヲ迎ヘ得ヘシ

予ハ全國民ニ予ノ言ヲ傳達シ得ヘキ此機會ヲ利用シ海上陸上空中及水中ニ於ケル全戰線ノ軍隊ニ對シ郷國ヨリノ謝意ヲ表ス吾人ノ軍隊カ偉大ナル統率者ノ下ニ爲シタル三箇年ノ行動ハ世界歷史上未曾有ノコトニシテ吾人ノ感謝ハ不滅ナリ吾人ハ又勇敢ナル同盟者ニ感謝ス團結シテ激戰ニ從ヒ勝利ヲ博シタル戰友關係ハ遂ニ解裂スルコトナカルヘク獨逸ハ同盟的信義ヲ以テ條約協定ヲ確守スヘシ

最高統卒部ノ軍事的形勢ニ關スル報道ハ甚タ良好ナリ西部ニ於テハ英佛ノ夏期大攻勢失敗セルカ獨逸ノ逆襲ハ其ノ不撓ノ氣力及益〻可ナルノ能力ヲ示スモノナリ東部ニ於テハ露國内爭ノ爲メニ敵ノ數百萬ノ軍隊ハ攻擊ヲ實行スルコト能ハスシテ比較的鎭靜ナリシカ露國ノ同盟諸國ハ虚報ヲ傳ヘ又ハ煽動シテ露國軍隊ヲ激昂セシメ漸ク今日ノ攻勢ヲ執ルニ至ラシメタルカ其ノ目的ハレンベルク及我潜水艇戰ヲ妨害スルノ目的ヲ以テドロホビッシュ石油坑ヲ占領セントスルニアリプルシロフハ莫大ノ損失ヲモ顧ミス無謀ニ其ノ目的ヲ達セントシタルモ其ノ得タル所ハ甚タ僅少ナリ三十分前予ハ元帥ヨリノ報道ヲ得タルカ其ノ内容下ノ如シ『獨逸帝國宰相宛露國ノ攻勢ニ挑マレ我軍ハ本日一大攻勢ヲ開始セリ元帥バイエ

ルン、大公レオポルド自身統率シ墺洪軍ノ援助ノ下ニズロソフ附近ニ於テ露軍陣地ニ突入セリ』茲ニプルシロフノ成功ハ再ヒ帳消シトナレリ暴力ヲ以テ強制セラレタル希臘ハ吾人ニ對シ戰爭ヲナスコト、ナリタルモ勇敢ナル勃牙利人ト共同支持スル吾人ノ戰線ハ動クコトナシ伊太利ハ第十回目ノ「イソンゾ」戰ヲ經タルモ猶彼ノ不信ヲ敢テシタル目的即トリエストノ占領ニ成功セス

高加索、イラック、パレスチナニ於テハ季節ノ關係上戰鬪休止ノ狀態ニアルモ再ヒ戰鬪開始セラルル場合ニハ土耳其軍カ新ニ戰備ヲ整ヘ且充分ナル自信ヲ有スルノ事實ヲ發見スルナルヘシ

聯合側ハ米國ノ參戰ニ對シ期待スル所頗ル大ナレトモ吾人ハ俄カニ首肯スル能ハス一軍團ヲ歐洲大陸ニ送ランカ爲メニ如何ニ多大ノ船腹ヲ要シ更ニ其ノ軍隊ヲ給養シテ軍事經濟ニ何等支障ナカラシムル爲メニハ如何ニ多大ノ噸數ヲ要スルヤヲ考察セサルヘカラス吾人ノ博シタル從來ノ成功ヨリ推測スルニ吾人ハ猶我海軍殊ニ潜水艇ノ力ニヨリ此形勢ヲモ支配シ得ヘキコトハ吾人ノ確信シテ疑ハサル所ナリ此ヲ以テ吾人及吾人ノ同盟者ハ今後猶意ヲ安ンシテ軍事ノ發展ヲ迎フルヲ得ヘシ

然リト雖各人ノ心中ニハ戰爭ハ尙何時迄繼續スヘキカトノ急要問題存スヘシ予ハ茲ニ吾人一同ノ利益ニ關スル中心點ニシテ今日討議ノ中樞タル問題ニ逢着ス獨逸ハ決シテ戰爭ヲ求メタルコトナシ獨逸ハ暴力ヲ以テ自己ノ勢力ヲ擴張セント努メタルコトナシ此ヲ以テ光榮アル平和ヲ有シ得ルニ於テハ更ニ暴力的侵略ヲ行ハンカ爲メニ一日タリトモ戰爭ヲ長引カシムルコトナカルヘシ吾人ノ欲スル所ハ第一ニ勝利ヲ博セルモノノ資格ニ於テ講和ヲ爲サントスルニアリ現在及將來ノ者ハ現戰爭ノ時期ヲ以テ獨逸國民及獨逸軍隊カ前古未曾有ノ事業ヲ成シ且雀躍犧牲ニ應シタル時代トシテ光彩アル記憶ニ之ヲ存セサルヘカラス七千萬ニ充タサル一民族カ忠誠ナル同盟諸國ト提携シ數倍ノ民衆ヲ擁セル敵國ト對峙シ自國々境外ニ毅然トシテ戰ヒツツアルノ事實ハ吾人ノ敗レサルコトヲ明示ス此點ヨリ吾人ノ戰爭目的發生ス即チ第一吾人ノ祖國ハ不可侵タルヘシ帝國ノ領土ヲ要求スル敵國ト談判スルカ如キハ不可能ナリ吾人カ講和ヲ締結スル場合ニハ吾人ハ先ツ帝國ノ國境ヲ永世確保セサルヘカラス吾人ハ妥協及和解ノ方法ニヨリ獨逸帝國ノ大陸及海外ニ於ケル生存條件ヲ保證セサルヘカラス且又諸君ノ決議案ニ記スカ如ク敵國ヲシテ吾人ニ對スル經濟同盟ヲ生セシメサル爲メ經濟的封鎖ニ依ル各國間ノ報復ヲ防遏セサル可ラス而シテ又予ノ理解スル所ニヨレハ此等ノ目的ハ諸君ノ決議案ノ範圍内ニ於テ之ヲ成就スルヲ得ヘシ

吾人ハ更ニ平和ノ提議ヲ爲ス能ハス何トナレハ曩ニ吾人カ誠實ニ提議シタル平和ハ空シク拒絶セラレタルヲ以テナリ然リト雖政府ハ全國民全軍隊及此宣言ニ同意シタル軍隊統率者ト共ニ若シ敵カ其ノ侵略欲及征服ノ目的ヲ拋棄シ談判ニ入ラントスルニ於テハ吾人ハ誠實且平和的覺悟ヲ以テ彼等ノ云ハントスル所ヲ聞クヘキコトヲ知ル其時迄ハ吾人ハ靜カニ忍耐持久スヘシ

食糧ニ關シテハ吾人ノ經驗セル最大困難ノ時期ニ在リ元來七月ハ最悪時期ナルカ早魃ノ爲

メ農作物ノ發育不良ナリシ等種々ノ困難アリタリ然レトモ予ハ其困難ハ近々緩和セラレ國民ハ今ヨリ一層潤澤ニ支給セラルルコトトナルヘキヲ玆ニ言明スルニ憚ラス收穫ニ關シテハ未タ確言シ難キモ麪麭穀類ノ收穫ハ豫想以上ニ良好ナルハ確實ナリ莖幹矮小ナルモ成實ハ佳良ニシテ先ツ千九百十五年ニ於ケルト同樣中作ナリト豫想シ得帝國内ノ大部分ニテ適時ノ降雨アリテ馬鈴薯ノ發育ヲ助ケタリ吾人ハ馬鈴薯ノ收穫良好ナルコトヲ期待シ得ルト共ニ若シ羅馬尼及其他ノ占領地ヨリノ餘剩收穫ヲ節儉シテ使用スルニ於テハ食料ニ缺乏スルカ如キコトナカルヘキナリ開戰後三箇年間ニ於テ千九百十六年ノ如キ不作ニ際スルモ猶獨逸カ飢餓ニ陷ルコトナキ實證ヲ得タリ徵收ヲ嚴ニシ割當テヲ小ニスルニ於テハ食糧ハ充分ナリ此點ハ英國ニ比シ獨逸ノ測ルヘカラサル長所ナリトス

多クノ地方ニ於テ戰時經濟ノ爲メ都市ト地方トノ人口狀態ニ變動ヲ來セル惡現象アリ此點ハ飽ク迄モ改善セサルヘカラス即吾人ハ從來農業者ニ對シテノ割當テ頗殊ニ皆無トモ云フヘカリシ肉ノ配當量ヲ新計畫ヲ以テ充分ナラシムル樣注意セサル可ラス之昨年中ニ爲サレタル過失ニシテ又吾人ハ其ノ結果トシテ必然的從テ人道上寬恕スヘキ犯罪ノ發生シタルコトヲ認ム都市住民ハ戰時ニ於ケル農業ヲ苦境ニ陷レタル大困難ヲ考察セサルヘカラサルト共ニ一方農民ハ大都市ニ於ケル工業ノ困難カ過去及現在ニ於テ如何ニ大ナル乎ヲ充分ニ理解セサルヘカラス若シ以上ノ理解ヲ有スルニ於テハ兩者ハ接近シ來リ一方ノ可能從テ其ノ義務タル所ノモノヲ他方ノ爲メニ爲スコトトナルヘク喜フヘキ現象トシテ數フヘキハ數十萬ノ都市兒童カ田舍ニ移住スルコトトナルカ是多分兩者ヲ接近セシムル橋梁トナルヘシ然レトモ吾人ハ凡ユル方法ヲ以テ右ノ對立カ緩和セラレ調和セラレ且又除去セラルルニコト努メサルヘカラス内政問題ニ就テハ予ハ就任後僅カニ五日ニ止マルヲ以テ今日充分ナル說明ヲ爲スハ不可能ナリ但シ七月十一日ノ勅語存スル以上予カ勅語ノ立脚地ニ立ツモノナルコトハ勿論ナリトス予ハ大ナル諸黨派ト政府トノ接觸ヲ一層密接ニスルコトハ有益且必要ノコトナリト思考ス是ヲ以テ予ハ帝國憲法ノ基礎タル聯邦的性質ヲ毀損スルコトナクシテ出來得ル限リ此協力ヲ有效且有益ナラシメンカ爲メ全力ヲ盡サンコトヲ期ス予ハ個人的資格ヲ有スルト共ニ大ナル諸黨派ノ信任ヲ有スル人々ヲ當局者中ニ任命シ以テ議會ト政府トノ間ノ信任關係ヲ增進センコトハ望マシキモノナリト思考ス勿論如此事ハ一方内政指導者ノ有スル憲法上ノ權利カ何等制限セラルルコトナシト認メラルル場合ニ於テノミ可能ナリ予ハ予ノ主宰權ヲ吾手ヨリ奪ハルルコトヲ欲セス

吾人ノ熱望スル所ハ偉大ナル新獨逸國ニシテ敵國ノ信スルカ如ク武力ヲ以テ世界ヲ脅カサントスル獨逸ニ非ス道德化セラレ神ヲ恐レ自由且偉大ニシテ吾人皆之ヲ愛シ之カ爲メニ戰ヒ且之カ爲メニ死スルノ新獨逸國ナリトス吾人ハ一切ノ敵ヲ排除シテ如上ノ獨逸ヲ樹立センコトヲ欲ス』

同日宰相ノ演說ノ後各派代表者ノ試ミタル演說ノ大綱ハ次ノ如シ

（一）中央黨ノフェーレンバッハハ多數派ノ戰爭ノ目的ニ關スル決議案ヲ提出シテ同決議案ハ決シテ獨逸ノ弱味ヲ敵ニ示スモノニアラスト述ヘ内政ニ關シテハ速ニ普魯西選擧法ヲ實行センコトヲ要求シ議會政治ノ件ニ關シテハ中央黨ハ各聯邦及帝國ノ權利ヲ絕對的ニ

維持スヘシト述ヘタリ

（二）社會黨ノシヤイデマンハ潜水艇ノ益少クシテ害多キヲ述ヘタルモ防禦戰ニ於テハ獨逸ハ不敗ナリト誇リ英國議會カ今日ノ多數派ノ決議案ト同樣ノ決議案ヲ採用セハ平和ハ明日締結セラルヘシト述ヘ選擧法改正、新聞檢閱廢止、政治犯人釋放ヲ主張シ此意味ニテ軍費ニ協賛スト結ヘリ

（三）進步黨ノフォン、パイヤーハ戰爭ノ目的ニ關スル今日ノ決議案ハ平和ノ提議ニアラスト斷シ軍高等司令部モ政府モ國會モ戰爭ノ終局ノ目的ハ同一ナリト認メ內政ニ就テハ政治ヲ議會政治化スルコトハ極メテ必要ノ事ナリト主張セリ（報告者曰ク聯合三派中ニハ此主張猶衰ヘス依リテ新宰相ミハエリスハ議會ノ閉會ヲ待チテ辭表ヲ提出シ各大臣ノ後任ヲ定メントスル意向ナル由ニテ其ノ爲メ外相チンメルマンノ後任ノ如キモ猶未タ決定セサルナリト傳フ

（四）保守黨ノウエスタルプハ獨逸國民ハ決シテ弱音ヲ吐クヘカラス我軍隊ノ勝利ニ不動ノ信任ヲ措キ以テ敵ニ平和ヲ指命スルヲ待ツヘシトテ保守黨專賣ノ大强硬論ヲ依然主張シタリ

（五）國民自由黨ノシェエーンナイヒ、カロラートハ決議案ニ反對ヲ表シ吾人ハ吾人ノ將來ニ對シテ最モ完全ナル確信ヲ有スト述ヘタリ

（六）獨逸派ト稱スル小團體ノワルムートハ決議案ハ有毒ニシテ人ヲ誤ルモノナリト攻擊シ少數社會黨ノハーゼハ各國民ハ自ラ自己ヲ處理スルノ權利ニ基キ速カニ平和ヲ締結シ社會主義的共和國ヲ創設スヘシト主張シ波蘭議員セイダハ決議案ハ波蘭ノ要求ニ就キ何事モ言ハサルヲ以テ採決ニ加ハラスト斷リ丁抹人議員ハンセンハ平和締結後ハ丁抹人ノ希望實行セラルルモノト信スルヲ以テ決議案ニ贊成スト述ヘタリ

試ニ各派ノ主張ト新宰相ノ演說セル方針トヲ對照比較スルニ新宰相ハ双方ノ申分ヲ幾分宛採用シテ存外巧ミニ折衷シ調合シタリ是ヲ以テ或ル言句ハ左黨中央黨又ハ進步黨ノ喝采ヲ博シ他ノ言句ニ對シテハ保守黨拍手ヲ以テ之ヲ迎ヘタリ然レトモミハエリスノ心底ハ獨逸ノ勝利ハ最早不可能ナリト見タルベートマンノ心底ト異ナリテ獨逸ハ決シテ敗戰スルモノニアラストノ信念ヲ有スルモノト評シ得ヘシ

（四）七月十九日ノ議會ニ於ケル獨逸進步黨議員フォン、パイヤーノ演說要點補充

（大正六年七月二十二日附報告）

パイヤーハ曰ク「獨逸ヲ議會化セヨ」トノ言ハ如何ナル意味ナルカヲ予ハ說明セントス此問題ハ憲法上ヨリ觀察スルニ頗ル微妙ノ案件ニ屬スルモ最近數日來ノ實驗ニ徵スルニ一種ノ議會政治組織ヲ創設スルノ必要ハ何人モ感シ得タル所ナルヘシ其實行方法ニ二樣アルヘシ其ノ一ハ宰相カ多年間ノ經驗ヲ重ネ來リタル或議員ヲ國家重要ノ地位ニ召致スルコトニシテ其二ハベートマン氏カ既ニ計畫セルカ如ク一箇ノ和戰會議ヲ設ケ宰相之ヲ主宰シ議會ノ代表者大聯邦代表者及帝國政府ノ代表者ヲ以テ委員トスルコト是ナリ一旦斯カル機關ヲ設

置スルニ於テハ政府ハ同會議ト相接觸シテ諒解スル所アルヲ得ヘク同會議モ亦政治上ノ好影響ヲ及ホスヲ得ヘシ云々ト

（五）七月十九日獨逸帝國議會ノ爲シタル平和決議文ノ解釋

（大正六年八月十八日附報告）

帝國議會議員ゲオルゲ、ゴタイン（George-Gothein）ハ七月十九日獨逸議會多數派ノ爲シタル平和決議文（又ハ戰爭目的決議文）ニ解釋ヲ下シタリゴタインハ進歩黨ノ有力ナル議員ナルヲ以テ彼ノ解釋ハ帝國議會ノ決議文立案者ノ意思ヲ示スモノト認ムルニ足ルヘシ彼ノ説明ノ大要ハ左ノ如シ

『聯合側ハ今日ノ如キ戰爭ノ再發ヲ防止センコトヲ欲ス獨逸モ其點ニ於テ決シテ聯合側ニ劣ラサル熱心ナル希望ヲ有ス是ヲ以テ平和ハ兩交戰團ノ雙方ニ光榮アルモノタルヲ要シ且獨逸ハ東ニ於テモ西ニ於テモ一切ノ併合ヲ斷念スルヲ要ス

然レトモ波蘭リチュアニー及クールランドハ何レモ之ヲ露國ニ返付スルヲ得ス此三國ハ皆獨立國トナラサルヘカラス白耳義ニ關シテハ成程宰相ミハエリハ七月十九日ノ演説中一言モ之ニ言及セサリシモ同氏ハ一切ノ征服及暴壓ヲ抛棄スル旨ヲ述ヘタリ故ニ戰後白耳義カ其ノ獨立ヲ回復スヘキコト疑ナシ但シ獨逸ハ白耳義カ再ヒ歐洲大陸ニ於ケル英國ノ橋頭堡トナラサルコトヲ要求スヘシ

アルサス、ローレーンニ關シテハ右二州ハ獨逸帝國ノ他ノ聯邦ト同等ノ權利ヲ享有スル聯邦タラシムヘシト云フノ外ニハ問題ハアラサルナリ戰前佛國民ハ右解決方法ニ滿足シタリ戰後モ亦之ニ滿定スルナランヤ

永續的平和ヲ求メントナラハ互ニ經濟聯合ヲ形成シ世界ニ勢力範圍ヲ區劃シ其他之ニ類似スル政策ハ一切抛擲セサルヘカラス是今回ノ戰爭前幾多ノ衝突ノ機會ヲ釀成シタル原因ナレハナリ

吾人ハ又全世界ニ國際組織ヲ設クルコトニ着手スヘキナリ强制仲裁々判ハ一切ノ紛爭ニ適用セラルヘク又歐洲各國民ハ軍備解除ノ原則ニ關シ妥協スルヲ要ス

獨逸ヲ民主化スル問題ニ關シテハ聯合側カ之ヲ以テ永久平和保障ノ一ニ數フルハ理由ナキニアラサレトモ第一ニ聯合側ハ軍國主義カ獨逸ノ特産專賣ニアラサルコトヲ忘却スヘカラス佛、伊及英國モ亦皆軍國主義ニ侵染シ居ルナリ

次ニ獨逸ヲ民主化スルコトハ國内及議會内ニ多數ヲ占メタル上ニアラサレハ實行シ得ヘカラス而シテ此條件ヲ完ウスルハ他ノ何レノ國ヨリモ獨逸ニ於テ最モ困難ナルコト疑ナシ然レトモ徐々ニ其方向ニ進行シツツアルナリ政府ハ議會多數派ノ承諾ヲ得サレハ行政スル能ハサルコトハ獨逸ニ於テ今日既ニ確定セル所ニシテ是即チ心髓ナリ普魯西選擧法改正モ實行セラルヘク他ノ改正モ漸次着手セラルヘシ獨逸ノ民主化ハ今ヤ進行中ニシテ何物モ能ク之ヲ阻止スルヲ得サルヘシ何レニスルモ外國ノ干涉ハ決シテ内政ノ進歩ヲ促スモノニアラスシテ全然反對ノ結果ヲ生スヘシ帝國議會決議文ノ包含スル思想ハ前述ノ如シ議會カ之ヲ

表明シタルハ第四回冬季戰ノ慘禍ヲ避ケ速カニ恒久平和ノ基礎ヲ定メント欲シタルカ爲メナリ是ヲ以テ今後尙戰爭繼續ストモ獨逸ハ其責ニ任スルコトヲ拒絕ス』

（六）　獨國議會ニ於ケル軍事費可決

（大正六年七月二十五日附報告）

獨逸帝國議會ニ本月上旬追加豫算案トシテ提出セラレタル百五十億麻克ノ新ナル「クレデット」卽軍事費支辨ノ件ハ議會內諸黨派カ之ヲ機トシテ講和問題ニ關スル政府ノ態度ヲ明ニセンコトヲ求メ延テ宰相ノ地位ヲ動カスニ至リ其ノ更迭トナリタル等獨國政界ノ一大動搖アリタル爲漸ク本日二十日ニ到リ可決セラレタリ（最モ例ノ如ク其際社會少數黨卽獨立社會黨ハ之ニ反對セリト云フ）右ノ「クレデット」ハ開戰以來第九回目ニシテ之ニテ同國政府ハ總計九百四十億麻克ノ「クレデット」ヲ議會ヨリ得タル次第ナリ內公債募集濟合計六回ニテ總額約六百三億三千五百萬麻克ニシテ今秋亦新公債ノ募集ヲナスヘシト傳フ尙本月五日右追加豫算案ヲ議會ニ紹介スルニ當リ大藏大臣ハ左ノ如キ計數ヲ掲ケテ簡單ナル演說ヲナセリ

他ノ諸國ト同樣獨逸モ月々ノ戰費著シキ增加ヲ見ルニ至リ卽本年二月乃至五月ニ於テ月々平均三十億麻克ノ支出アリタリ卽每日一億麻克ニ當ル之ヲ英國ノ戰費ト比スルニ從來ノ比ハ英ノ三ニ對スル獨ノ二ニ當ル最近英ノ當局者ハ一日ノ支出ヲ七百八十萬磅卽一億五千萬麻克以上ト見積レリ右ノ如キ獨國戰費ノ增加ハ第一ニ兵器及軍需品ノ費用增加ニ因ルト雖モ同時ニ人民ノ福利ヲ目的トスル費用モ尠ナカラス加之公債ノ利子支拂ヒ其ノ一部ハ本年初ノ諸月ニ於テ非常支出ノ方法ニ依ラサルヲ得サルニ到レリ（新增稅中未タ徵收ノ時期ニ達セサルモノモノアルニヨリ）最近ノ公債募集ノ結果ハ其後ノ計算ニヨレハ百三十一億二千二百麻克其應募者七百萬人ニ達スルノ好況ヲ示セリ右ノ內貸付金庫ノ助ケヲ借レルハ僅ニ三「パーセント」ニ過キス又六月二十一日迄ニ拂込濟九十六「パーセント」ニ達シタルノ事實ハ國民ノ財力ト其節儉トヲ示スモノト云ハサルヘカラス倂シ猶此上ニモ各方面ノ節約ヲ切望セサルヲ得ス次ニ吾人ノ希望ハ各人カ金貨及金裝飾品等ヲ貯藏セスシテ之ヲ帝國銀行ニ持參スルコト之ナリ開戰當時十二億五千三百萬麻克ナリシ帝國銀行金所有高ハ爾來金ヲ外國ニ送ルノ必要アリタルニ拘ラス本年六月十五日ニ於テ二十五億三千三百萬麻克ニ上リタルカ最近六月二十三日ニ公表セラレタル報告ハ所有金高ニ於テ七千六百萬麻克ノ減額ヲ示セリ右ハ春期外國ヘノ注文品ノ增加其他ノ理由ニ出ツト雖此後猶同樣ノ必要アルヘキニヨリ國民ニ金ノ持出ヲ希望勸告セサルヲ得サル次第ナリ金貨及金裝飾品ハ各々尙民間ニ其ノ數億ノ貯藏アルヘキヲ信スルモ過當ニアラサルヘシ云々

（七）　獨逸議會閉會其ノ他

（大正六年七月二十二日附報告）

開戰後ノ獨逸議會中波瀾重疊最モ趣味多シト評セラレタル最近數日間ノ獨逸議會會期モ七

月十九日新宰相ノ演說多數派ノ戰爭目的決議可決ノ事アリ翌二十日ニハ二三質問アリ軍費豫算百五十億麻克ヲ三讀會ニテ可決シ議長ノ閉會ノ辭アリテ多少ノ反對アリシニ拘ハラス九月二十六日迄閉會シタリ

右質問中國民自由黨ストレーセマンノ質問ハ英國カ和蘭ノ領海ヲ侵害シタル件ニシテ之ニ對シ外務省法務局長クリーゲ答辯ヲ與ヘタルカ其ノ要領ニ曰ク七月十六日英國海軍ハ和蘭領海航行中ノ武裝ナキ獨逸汽船七隻ヲ攻擊シ四隻ヲ拿捕シ二隻ハ岸ニ乘リ上ケ一隻ハ波蘭ノ沿岸防禦艦掩護ノ下ニ投錨シ船員中死傷アリタリ和蘭政府ハ事情判明次第强硬ニ英國ニ談判スル筈ナルカ充分ナル謝罪完全ナル滿足及將來斯カル違反ヲ再ヒセサルヘキ保證ヲ英國政府ヨリ得ヘキコトヲ疑ハス而シテ此未聞ノ亂暴ナル行爲ニ依リ英國カ吾人ニ與ヘタル損害ニ對シテハ捕拿汽船及載貨ノ返還汽船破損ノ賠償死傷船員及其遺族ニ對スル償金ヲ求メ得ルモノト信ス又和蘭政府ハ既ニ帝國政府ニ遺憾ノ意ヲ表シ來リタリ云々ト二十日倫敦發電報ハ英國海軍ハ和蘭領海內ニテ獨逸汽船ヲ攻擊シタルヲ傳ヘタリ故ニ英獨雙方ニテ主張シ互ニ讓ラサルニ於テハ本件ハ和蘭ノ中立ニ關シ存外重大ナル影響ヲ生スルヤモ測リ難シト思考ス

議長ノ閉會ノ辭ニ曰ク今回ノ議會ニ於テ種々ノ意見起リタルカ何レモ皆愛國心ノ發動タリ吾人ハ今後益々吾劍ヲ磨シ以テ吾人ノ緊切ナル利益ヲ確保スルニ足ルヘキ正當ナル平和締結ヲ敵國カ承諾スルノ日迄奮鬪セサルヘカラス神ハ吾等ノ陸軍吾等ノ海軍、皇帝、國民及祖國ヲ擁護シ給フヘシ云々ト

獨逸宰相ノ演說ニ對スル獨逸諸新聞ノ批評ハ一般ニ好意的ニシテ今後氏カ其ノ抱負ノ在ル所ヲ事實ノ上ニ示スヲ待タントスル意向ヲ示シ居レリ然レトモ大體ノ精神ヲ見ルニミハエリスノ演說ハ獨逸議會及國民ノ精神的撥條カ聊カ弛緩シ來レルヲ午後三時頃ニ至リ卷キ直シタル氣味ナシトセス

獨逸皇帝ハ七月十九日夕刻內相ヘルフエリッヒノ邸ニ臨ミ宰相其他各大臣帝國議會事務局員及二十四名ノ議員モ出席シ（極端主義ノ少數社會黨ヲ除キ他ノ政黨首領出席セリ又多數社會黨首領シャイデマンカ公式ニ皇帝ノ前ニ出テタルハ之ヲ以テ最初トスト云フ）皇帝モ頗ル打解ケテ談合セラレタル由ナルカ專ラ潛水艇戰ニ關スル評議ナリシト傳フ右會談終了後、內閣危機ノ一段落ヲ告ケタルニ安心シタル皇帝ハ西部戰線ニ向ヒ出發シタリ

（八）獨國內閣員ノ大更迭

（大正六年八月九日附報告）

獨國宰相ノ更迭後獨逸帝國及普魯西ノ內閣々員中大更迭アルヘシト新聞紙ニ報道セラレタリ同帝國議會對政府關係ノ新發展ニ顧ミ其ノ顏觸ハ世人ヨリ多大ノ興味ヲ以テ待タレタルカ本月五日附ニテ發表セラレタル處ハ左記ノ如シ政黨關係ノ者ハ僅々一二名ニ止マリ殊ニ內務大臣ヘルフエリッヒカ宰相代理トシテ閣員ノ一人タルニ對シテハ不尠失望ノ色ヲ示セル獨國新聞紙アルヲ見受ク要スルニ今回ノ更迭ハ主義方針ノ變更ト做スヨリモ單ニ人ヲ交代セシメタルニ過キスト見做スモノ多キカ如シ尤モ今日迄獨國新聞紙モ右更迭ニ關シ餘リ

立入リタル評論ヲナサス要ハ後日ノ云爲ニ徵セントスルモノノ如クナルカ曩日新宰相カ議會ニ於テ議會有力者ヲ內閣ニ迎ヘントノ意ヲ漏ラシタルニ拘ラス發表ノ結果ハ前顯ノ如クナルニ顧ミ議會ノ今後宰相及閣員ニ對スル態度ハ注目ヲ値スト論シ居ル獨國新聞アリ

（一）帝國政府ノ分

內務大臣ヘルフエリッヒハ他ノ閣員ト同時ニ辭表ヲ提出シタルモ宰相代理ノ名義ニテ閣員ノ一人トシテ居殘ルコトトナレリ尙內務省ハ從來ノ所管事務ヲ二分シ固有ノ內政、兵事、學事等ニ關スル事務ハ依然內務省所管トシ反之商業、經濟、社會政策等ニ關スルモノハ之ヲ分離シテ更ニ一省ヲ置クコトトシ（帝國經濟局 Reichswirtschaftsamt ノ名義ニテ）前者ニハケルン市長 Wallraf ヲ後者ニハストラスブルヒ市長 Dr. Schwander ヲ長官トスル趣ナルカ右ノ改造成ル迄ハ前大臣ニ於テ當分其職ヲ執ル由ナリ

外務大臣チンメルマン辭職シキユールマン（Dr. v. Kühlmann）新任セリ同人ハ千八百七十三年コンスタンチノープルニ生ル父ハアナトリヤ鐵道ノ第一重役タリキ法學ヲ修メタル後外交界ニ入リ獨帝タンジールニ赴クヤキユールマン同地ニ代理公使タリシ關係上獨帝ニ知ラレタル由倫敦華府等ニ在勤シ戰爭中海牙ニ公使タリ最近マテ君府ニ大使タリ獨國內全獨主義者ハ同人ヲ親英主義ナリトシ極力其任命ニ反對シタル由ナルカ「ケルニッセ、ツアイトウング」ノ如キ同人ハ重大問題ヲ決スルニ當リ決シテ感情ニヨリ支配セラルル人物ニアラス兎角ノ評ヲナス前ニ其ノ行動ヲ見ルヘシト論シ居レリ

遞信大臣 Kraltke 辭職シ Otto Rüdlin（伯林鐵道局總裁）之ニ代ル

司法大臣 Lisco 辭職シ伯林辯護士會長 Dr. von Krause 之ニ代ル（同人ハ普國下院ノ議員ニシテ國民自由黨ニ屬スル由）

戰時給養局（食料局）總裁バトキー辭職シミーゼン州知事 Von Waldow 之ニ代ル

（二）普國內閣ノ分

司法大臣 Dr. Beseler 辭職シ控訴院長 Dr. Peter Spahn 之ニ代ル同人ハ同時ニ帝國議會議員ニシテ中央黨首領タリ內務大臣 Von Loebell 辭職シ內務次官 Dr. Drews 之ニ代ル

文部大臣 Dr. v. Trott z Solz 辭職シ局長 Dr. Schmidt 之ニ代ル

農務大臣 Dr. von Schorlemer-Lieser 辭職シ普國下院議員 Von Eisenhart-Rothe（同人ハ從來州會議員其他州ノ高級吏員タリシコトアリト云フ）之ニ代ル

大藏大臣 Dr. Lentze 辭職シ州知事 Dr. Hergt 之ニ代ル

今次更迭中尤モ注目スヘキハ（一）墨西哥ヘノ同盟提議瑞西外務大臣「ホフマン」事件諸威ニ於ケル爆彈密輸送事件等ノ爲メ外政失敗ノ聲ヲ高メタルチンメルマン辭職シキユールマンカ四十四歲ノ少壯ヲ以テ外相ノ職ニ就キタルコト（二）潜水艇戰カ當初聲明セラレシ期間內ニ充分ノ效果ヲ奏セサリシ爲メニ批難セラレ一時ハ辭職確實ナリト傳ヘラレタルフオンカペルレカ依然海相タルコト（三）食糧問題ニ就キ種々ノ方面ヨリ攻擊セラレ居タルバトキー遂ニ辭職シ保守主義ノ人物ナル氣力旺盛事務ヲ知ルノ明アリトノ評アルワルドー食糧省長官ニ任セラレ而カモ制度不備トノ批難アリシニ鑒ミ獨逸帝國及普魯西ヲ通シ同一人ヲシテ

食糧事務ヲ統裁スルニ至ラシメタルコト(四)議員內ヨリ二名ノ入閣ヲ見タルハ幾分ナリトモ議會ノ勢力ト調和ヲ維持セシカ爲メナルコト等ナリ

然シテ獨逸諸新聞ハ夫レ々々右更迭ニ就キ批評ヲ加ヘ居レルカ大體ニ於テミヒヤエリスカ有爲有能ノ士ヲ擢用シタルコトヲ認ムルモ從來ノ方式ヲ踏襲シタル官僚內閣ナリトシ議會ヨリ入閣シタルクラウゼ、シユバーンノ兩人モ各自ノ黨派ヲ代表セルモノニ非ス唯各自分掌ノ事務ニ堪能ナルノ故ヲ以テ任用セラレタルモノナルコト及食糧省次官トシテ任命セラルヘシトノ噂アル社會黨代議士ミユラーハ同黨中ニ多大ノ勢力ナキコト等ヲ指摘シ政變ノ一動機タリシ內閣ノ議會化ハ殆ント實現セラレスト云フモ可ナリト論スルモノ多ク殊ニ左黨側ニテハ失望ノ意ヲ洩シ居レリ

外相キユールマンニ就テハ各新聞何レモ手腕ノ凡ナラサルコトヲ認ムルモ其ノ外相トシテノ手腕ハ今後ニ徵スルノ外ナシトシ批評ヲ留保スルモノ尠ナカラス其ノ經歷ニ就キ諸新聞ノ記スル所ヲ拔萃スルニ左ノ如シ

リヒヤード、キユールマンハ其父カ鐵道技師トシテバルカン諸國ニアリタル關係上千八百七十三年コンスタンチノープルニ生ル元來バイエルン人ニシテフオン、シユツムノ女ヲ娶レリ外務省ニ入リタル後數多ノ諸國ニ在勤シタルカ第一モロツコ事件發生ノ際タンヂールニ在勤シテ其ノ手腕ヲ認メラレ千九百八年以後戰爭勃發ニ至ル迄在英獨逸大使館參事官トシテ三代ノ大使ニ歷仕シ劃策貢献セル所尠ナカラス依リテ以テ獨逸外交ニ關係アルモノヨリ獨逸少壯外交官中最モ有爲且精力旺盛ナル一人トシテ認メラルルニ至リタリ戰爭後ストツクホルム及コンスタンチノープルニ在勤シタルカ千九百十五年和蘭駐劄全權公使ニ任セラレ在土耳古大使ウォルフ、メッテルニッヒ伯ノ死去ト共ニ昨年秋同地駐在全權大使ニ任セラレ在職一年ニ滿タスシテ外務大臣ノ重職ニ就クニ至レリ

(九)　獨逸外相キユールマンノ閲歷性行及外交振

(大正六年八月二十三日附報告)

瑞西發刊獨逸帝國主義ニ反對スル獨逸人ノ新聞「フライエ、ツアイトウング」及八月二十一日ノ「ジユルナル、ド、ジユトーブ」新聞ハ獨逸外相「キユールマン」ノ閲歷性行等ヲ掲載シタリ其ノ言フ所悉ク當レリヤ否ヤハ判定シ難キモ面白キ節モナキニアラサルヲ以テ左ニ之ヲ譯出スヘシ

(一)「ベルヌ」發刊「フライエ、ツアイトウング」ノ「キユールマン」閲歷記事ニ曰クキユールマンハ一八七三年コンスタンチノープルニ生ル當時彼ノ父ハアナトリア鐵道會社支配人タリシナリ青年キユールマンハ試驗ニ及第シタル後專ラ外交官經歷ニ身ヲ委シタリ彼ハ最初外務省ニ勤メ一九〇五年英、佛植民地條約發表ノ年ニ彼ハタンジエー在勤ヲ命セラレタリ獨逸使節ノ有名ナル地中海巡視ノ際彼ハ同地ニ居リタリ其時獨逸皇帝ニ近接シタルハ即チ彼ナリ暴風雨ノ爲メ皇帝ハ下船スルヲ得サリシカ少壯外交家キユールマンハ綱梯子ニテ船ニ登リ皇帝ニ謁見シタルカ此事ハ非常ニ皇帝ノ御意ニ適ヒタリ幾何モナク彼ハ公使館書記官トナリテ華盛頓及海牙ニ在勤シ海牙ヨリ大使館參事官トナリテ倫敦ニ派遣セラレタリ

其間ニ彼ハマルゲリート、フォン、シュツム孃ト結婚シタルカフォン、シュツム家ハ有力ナル眷族ナルヲ以テ彼ハ婚姻ニ依リ勢力アル實業家ノ後援ヲ有スルニ至レリ

一九一四年七月キュールマンハ賜暇歸朝中ニテバヴァリヤノ鄕里ニ在リシカ其間モ斷ヘス外務省ト通信ヲ往復シ英國通タル廉ヲ以テベートマン及フォン、ヤーゴーニ種々必要ノ報道ヲ提供シタリ英國ノ形勢緊張ノ傾向ヲ呈シタルニ當リ英國事情報告甚タ不充分ナリト認メラレ彼ハ急速ニ倫敦ニ出發セシメラレタリ出發前皇帝ハ彼ニ謁ヲ賜ハリタルカ彼ハ皇帝ニ向ヒ英國ノ干涉ハ決シテ御配慮ニ及ハス英國ハ獨逸ト平和關係ヲ維特セシコトヲ欲スル旨ノ正式ナル保證ヲ言上シタリト云フ

キュールマンノ倫敦ニ到着後幾何モナクシテ有名ナル「リヒノースキー」ノ誤解ナルモノ起レリ是キュールマンノ誤レル見解ヨリ起レル出來事ニシテ之カ爲メニ獨逸ハ最後ノ瞬間迄英國ハ白耳義侵入ニ反對セサルヘシトノ妄想ヲ抱キ居タリ英國ノ執レル最後ノ態度ニ對シベートマンカ兒戯ニ等シキ忿怒ヲ示スニ至リタルハ殆ンド全クキュールマンノ誤報ニ依ルモノナリ在倫敦獨逸大使館カ開戰間際ニ發シタル機密信ハ獨逸白書ノ內ニハ見ヘサレトモ右等ノ機密報告就中キュールマンノ機密報告ハ當時ノ內幕ヲ充分明白ニ暴露スルニ足ルヘシ

倫敦ニ於ケルキュールマンノ最後ノ一幕トシテ彼ハ一九一四年八月四日英國新聞ニ公表書ヲ揭載セシメタルカ其ノ中ニ獨逸ハ海面ヨリ佛國ヲ攻擊セサルヘク又白耳義及和蘭ノ中立ヲ犯ササルヘシトノ誓約ヲ爲スノ準備アリト述ヘタルコト是ナリ何ソ知ラン同日倫敦ニ於テハ獨逸カ既ニ白耳義及ルクサンブールノ中立ヲ侵害シ獨軍ノ先鋒ハ既ニリエージ要塞ノ降服ヲ勸告シツツアルコトヲ知レルナリ是ニ於テ同日英獨間ノ關係ハ斷絕シタルモ獨逸大使館員ハ尙倫敦ヲ去ラス而カモキュールマンハサー、アーサー、ニコルソント會見シテ土耳其ノ執ルヘキ態度ノ豫想ヲ述ヘシ爲メ英國ハ土耳其ヨリ同國ニ注文中ノ戰艦引渡ヲ拒絕シタリ此事件ハ後日土耳古カ英國ニ宣戰スル理由ノ一トナレリ

夫レヨリキュールマンハ在コンスタンチノープル大使館參事官トナリ次テ在海牙公使トナリ海牙在勤中頻リニ和蘭ヲ獨墺側ニ引入レント試ミタルモ和蘭政府ハ賢明ナル政策ヲ執リタルヲ以テ彼ノ企劃ハ悉ク失敗ニ歸シタリ海牙ヨリ彼ハ駐土大使ニ任命セラレタリ

傳フル所ニ依レハ彼ハ新式ノ獨逸外交官ニシテ目的ノ爲メニハ手段ヲ選ハス彼ノ先任チンメルマンハ種々狂言ヲ演シタルカ彼モ亦チンメルマンニ劣ラサル珍事ヲ演出スルモノト期待シ得ヘシト云フ

（二）　「ジュルナル、ド、ジュネーブ」新聞ハ在倫敦特派員發獨逸帝國外相ト題スル通信ヲ揭載シタルカ其ノ大要左ノ如シ

『ドクトル、フォン、キュールマン又ハ人カ敬稱シテ呼フ所ノフォン、キュールマン男爵ハ仕合者ナリ四十四歲ニシテ獨逸外交界ニ於テ最モ羨望ノ集ル所ノ地位ヲ占メ無數ノ平和ノ筋糸ヲ操ルヘキ大曲藝師トナレリ吾人ハ警戒ヲ加ヘサレハ獨逸ハ軍事上ノ敗ヲ轉シテ外交上ノ勝トナスヤモ知レス斯クノ如キ重大ナル責任ヲ帶フルニ至レル彼ハ其任務ヲ行フニ頗ル適當ナル性格ヲ有ス彼ノ父ハ實業ニテ富ヲ作リ貴族ノ尊稱ヲ贏チ得タル人ナルヲ以テ彼

モ亦父ニ似テ取ルヘキノ特質ヲ備フ曰ク實際的觀念商工業事項ヲ直覺的ニ知リ得ル能力及勤勉家タル傳統的習性即チ是ナリ又彼ハ獨逸貴族中ニ殆ント見ルコト能ハサル特質ヲ有ス即チ軍人階級ニ對シテハ彼ノ表面上同情ヲ有スルモ其ノ心底ニ於テハ工業實業階級ニ深ク接近シ獨逸ノ將來ハ工業ニ在リト信シ居ルナリ

彼ノ妻マルゲリートノ眷族即チシユツム家ノ關係ニテ彼ハ又獨逸ノ貴族階級ニ連絡シ延イテ帝國ノ上流指導者ト相接近シ居ルモ然レハトテ彼ハ其内ノ何レニモ特別ニ歸屬シ居ルニアラサルヲ以テ吾人ハ彼自身ノ價値如何ヲ詮義スルヲ要ス

彼カ愉快ナル外形ヲ有スルハ天惠ナリ彼ハ好男子ナリ然レトモ獨逸人ノ特徴ト認ムヘキ外形ヲ特ニ誇張的ニ具備シ居ル點ハ一モナシ彼ノ顏ニハ愛嬌アリテ常ニ笑ヲ湛ヘ淡泊實直御人好ノ人相ヲ備フルヲ以テ能ク彼ヲ知ラサル者ハ彼ノ爲メニ武裝ヲ解除セラル握手ノ遣リ方ハ親密ナレトモ稍々粗暴ナリ然レトモ相手ヲシテ彼ハ全然誠實ナリトノ感覺ヲ抱カシム外形上所謂舊式外交官ノ如クハ見エサレトモ彼ハ彼ニ接近スル一切ノ人々ニ對シ頗ル丁寧而モ簡易ニシテ聊カモ勿體ブラス故ニ人ハ彼ヲ以テ圓滿實直ニシテ何等惡念ナキ者ト思フ彼ハ完全ナル健康ヲ有シ疲勞ヲ知ラサルノ精力ヲ有ス彼ノ生活ハ贅澤ナレトモ然レハトテ贅澤ノ奴隷ニハアラス彼ハ一日予特派員ニ語リテ曰ク「予カ此世界ニ必要缺クヘカラサルモノハ只二ツノミ良キ葉卷ト良キ寢臺ナリ能ク働カント欲セハ能ク眠ラサルヘカス故ニ良キ寢臺ハ必要ナリ」ト彼ハ政治界ニ於テ敵側ノ者ヨリモ尙淡泊誠實ナリトノ非常ナル評判ヲ受ケ居レリ彼ハ實ニ能ク情報ヲ集メ居ル人間ナリ彼ハ到ル處ニ手先ヲ出シ置クナリ彼ハ

英國探訪員ニ常ニ貴重ナル報道ヲ與ヘ又獨逸大使館ニ於テ彼ハ必ス自ラ出テテ喜ンテ新聞記者ニ接シタリ

然レトモ英國ニ於ケル獨逸吹聽事業（プロパガンド）ノ大隊長タル彼ハ英獨開戰ノ日ニ於テ「ウエストミンスター、ガゼット」紙上ニ獨逸ノ英國ニ對スル意思ハ絶對的ニ純粹ニシテ英國モ亦「カイザー」ト親交ヲ維持スルコト最モ利益ナリト掲載セシメ倫敦ノ物笑ヒトナリ彼ノ隱密手段ノ化ノ皮ハ顯ハレ倫敦新聞ハ彼ヲケッタイナ男（funny man; type rigolo）ト呼ヒ做スニ至レリ……………

キユールマンハ和蘭ニテ成功シタルカ其ノ遣リ方ハ一方ニ優秀ナル探偵ヲ放チ置キ他方ニハ無邪氣ナル顏付ヲシテ任國又ハ隣國ノ新聞ニ爲ニスル所アル怪シキ報道ヲ傳播セシムルニ在リシナリ其點ニ於テハ彼ハ獨逸外交家ノ模範ニシテ政府ニ取リ二大要件ハ柔順ナル新聞ト敏捷ナル警察ナリトノ信念ヲ有ス而シテ吹聽事業ニテ一般公衆ニ其意見ヲ鼓吹スルト同時ニ少シク骨アリテ之ニ對抗スル者ハ警察力ニテ之ヲ排除シテ何等妨害ヲ加フル能ハサルノ地位ニ陷ルルナリ

彼ハ獨逸ノ將來ハ繁殖力大ニシテ且勤勉ナル獨逸國民ノ無限ナル經濟的發展ニ在リトノ意見ヲ抱懷シテ大砲ハ唯假面又ハ虛喝ノ用ニ供スヘキモノト看做スナリアガジール事件發頭人ハキユールマンナリ彼ハ脅喝政策ハ眞ニ自國ニ實利ヲ收メ得ルモノト判斷シ居リシモ小銃一發スラ放タシムルコトヲ欲セサリシナリ彼ハ開戰トナリテ英國官憲ニ暇乞ヲナセル其日ニ或友人ニ語ツテ曰ク「予ハ今日一個人ノ資格ニテ予ノ所思ヲ淡泊ニ貴下ニ語ルコトヲ

得ヘシ戰爭ハ獨逸ニ取リテハ其ノ結果ノ如何ニ拘ラス馬鹿ノ骨頂ナリ吾人カ今十年間平和ヲ維持シタランニハ吾人ハ一滴ノ血ヲモ流サスシテ世界ノ主人公トナルコトヲ得ヘカリシナリ」ト

予ハ思フニキュールマンハ三年後ノ今日ニ於テモ三年前ト同樣ノ思想ヲ有シ居ルニ相違ナシ故ニ彼ハ事情ノ許ス限リ迅速ニ平和ヲ締結シ一度平和締結トナラハ獨逸國民ハ直前邁往晝夜兼行ニテ經濟的發展ニ取掛ラサルヘカラスト信シ居ルナリ

彼ハ實際家ナリ無益ナル名譽ハ勿論政治上ノ利益迄モ彼ハ聯合側ニ讓リテ其代リニ經濟上ノ利益ヲ收メンコトヲ欲ス彼ハ中央帝國ノ爲メニ經濟上ノ報償ヲ得ルニ於テハ或ハアルサス、ローレン及波蘭ヲ手放スモ可ナリト云フヤモ知レサルナリ…………來ルヘキ平和談判ニ際シ年少氣鋭ニシテ精力アリ一切ノ問題ヲ根底ヨリ熟知シ居リテ一切ノ範圍ニ於テ防クヘキ點ト讓ルヘキ點トヲ正確ニ呑ミ込ミ居ルキュールマンニ對シ聯合側ハ如何ナル政治家ヲ差向ケントスル乎』

（十）獨逸新聞ノ獨逸新外相評

（大正六年八月八日附報告）

（一）「ベルリーナー、ターゲブラット」ハ曰ク「ドイッチエ、ターゲス、ツアイトウング」紙ハ外相フォン、キュールマンヲ英國贔負ナリトテ攻擊シ又英國諸新聞ハ新外相ヲ英國ノ最モ危險ナル敵ナリト吹聽スレトモ氏ハ是等ノ批評ヲ意ニ介セサルヲ望ム尚又全獨主義者輩ノ叫聲ニ對シテハ新外相ハ須ラク獨逸外交政策主宰權ハ氏獨リ之ヲ有スルコト並ニ其職責ニ伴ヘル權利ハ氏自カラ之ヲ行ヒ其責務ハ氏自ラ之ヲ負擔スル旨ヲ毅然トシテ答フヘキナリ

（二）「キヨルニッシエ、ツアイトウング」ハ曰ク全獨主義カキュールマンニ差向ケツツアル非難ハ不當ナリ嘗テ氏ハ英國ト妥協政策ヲ行ハントシタル代表者タリシヤモ知レサレトモ是當時ノ宰相カ採用シタル政策タリシナリ然レトモ其後狀況ハ變化シタリ吾人ハ今日ノ狀態ヲ昔日ト同一視スヘカラス新外相ハ往日ノ紀念又ハ感情的考量ノ爲メニ其外交方針ヲ動カスカ如キ人ニアラサルナリ吾人ハ氏ノ今後ノ行動ヲ見ルヲ要ス

（三）「フランキフルター、ツアイトウング」ハ曰クキュールマン氏カ戰爭開始以來數多ノ任地ニ任命セラレタルハ是同氏カ堪能ナル外交官トシテ信任セラレタル證據ナリトス氏ハ獨逸少壯外交家中最モ活動的精力ヲ有シ又最モ才氣アル一人ナリ只吾人ハ獨逸ニ第一等級ノ人物極メテ底拂シテコンスタンチノープルノ如キ重要任地ヨリ氏ヲ引拔カサルヲ得サリシヲ悲ム

（四）「フオッシッシエ、ツアイトウング」ハ曰クキュールマン氏ノ個人的意向ハ如何ナルモノナルニセヨ一ノ事實ハ動カスヘカラス他ナシ同氏ハ九月十九日帝國議會ノ表決シテ責任アル宰相ノ裏業シタル外交政策以外ノ政策ヲ行フ能ハサルコト是ナリ帝國議會ハ右政策ヲ誠實ニ實行セシメサルヘカラス

（五）「ベルリーナー、ノイエステ、ナハリテヒテン」ハ曰クキュールマン氏ニ疑心ヲ抱ク

人ハ尙同氏ヲ過頌スル人々ノ如ク一九一四年獨逸外交ハ一般政治ニ伴ヒ大變化ヲ生シタル事實ヲ忘却スルモノナリ云々

第八　獨逸ノ內政ニ關スル事項

（外事彙報大正六年第十一號）

（一）獨逸宰相ノ對內政策

（イ）特別委員會新設ニ關スル八月二十五日ノ獨逸帝國議會中央委員會ニ於ケル獨逸宰相ノ言明

（大正六年八月二十八日附報告）

獨逸宰相カ八月二十五日帝國議會中央委員會ニ於テ一箇ノ自由ナル委員會ヲ新設シ聯邦會議々員七人帝國議會各政黨ヨリ七人ヲ擧ケテ委員トナスヘキ旨ヲ言明シタリ獨逸帝國ハ萬事自身ニテ裁斷スルノ性癖ヲ有スル「カイザー」ヲ戴キ其下ニ極メテ廣汎ナル自由權ヲ有スル二十餘ノ聯邦アリ又大戰爭ノ今日ヒンデンブルグ等軍ノ頭首ノ勢力ハ非常ニ大ニシテ尙其外ニ偕老同穴ヲ契リタリト稱スル墺洪國アルヲ以テ對內閣關係ニ於テモ聯邦制度ノ獨逸ハ單純ナル國ニ比スレハ遙カニ困難ナルカ特ニ軍事行動ト相離ルヘカラサル外交關係ニ至リテハ各關係要素間ノ調和ハ蓋シ容易ノ業ニアラサルヘシ是獨逸宰相カ今回新設ノ委員會ニ聯邦會議々員ヲ加ヘタル所以ナルヘキモ陸海軍々事當局者ヲ一人モ加ヘサリシハ獨逸帝國トシテハ異例ニ屬ス尤モ新宰相ハ七月十九日ノ本會議ニ於ケル演説ノ際ニハガリシヤノ露軍戰線ヲ突破セリトノヒンデンブルグノ電報ヲ朗讀シ八月二十一日ノ中央委員會ニ於テモ各戰線ニ於ケル狀況ハ獨軍ニ有利ナリトノ同元帥ノ長文電報ヲ朗讀シタリ右電報ハ全ク議會向キノ電報ニシテミハエリスカ軍事狀況ノ説明ヲ軍司令官ニ讓リタル措置ハ巧ナリト批評シタル新聞モアリ

前宰相ベートマンノ斃レタル原因ハ議會多數派ノ反抗モアレトモ議會ノ多數派ニ屬スル保守黨國民自由黨並ニ全獨主義者及軍事當局者モベートマンノ日和主義ニ飽キテ最早彼ヲ支持スルヲ欲セサルニ至リシヲ以テナリ而シテ對議會關係ノミニ就テ云ヘハ去ル七月六、七日ノ中央委員會ニ於ケル中央黨議員エルツベルガーノ猛烈ナル質問戰ニ端ヲ發シ社會黨、進步黨モ中央黨ト步調ヲ一ニシテ忽チ多數聯合ヲ現出シタルニ由レリ右質問ノ要旨ハ既ニ報告シタルカ如ク(一)ベートマンハ如何ナル平和ヲ欲スルヤ、(二)潜航艇戰ノ見込如何、(三)憲法改正ヲ如何ニスル乎、(四)政黨ノ首領株ヲ內閣ニ列セシムルヲ欲セサル乎ノ四點ニ歸着ス其ノ間宰相ノ更迭アリ越エテ七月十九日ノ本會議ニ於テ多數聯合派ハ曩ニ報告ニ及ヒタル平和決議文ヲ決議シタル次第ナルカ七月十九日新宰相ミハエリスノ議會ニ於ケル第一回施政方針演説中新宰相ハ右決議ニ關シテハ全然贊成ナリトハ明言セス只戰後聯合側カ獨逸ヲ經濟上封鎖セントスルヲ防クカ如キハ同宰相ノ解釋スル所ニ依レハ（報告者曰ク此言葉カ盛ニ論評ノ種子トナリタリ）前記決議文ノ範圍內ニテ之ヲ實行スルヲ得ヘシト述

ヘタルノミ此ニ於テ多數派ハ右宰相ノ言葉ヲ自派ニ都合好キ樣ニ解釋シ保守黨及全獨主義者モ宰相ノ意見ハ又自黨ノ主張ニ合致スルモノナリト認メ其ノ間尙何トナク曖昧摸稜ノ迹アリテ人ヲシテ霞ヲ隔テテ花ヲ見ルカ如キ感ヲ抱カシメタルハ事實ナリ

此ニ於テ八月二十一日中央委員會ノ開カルルヤ翌二十二日ノ同委員會ニ於テ宰相ハ社會黨議員ノ質問ニ答ヘ『予ハ七月十九日ノ議會ノ決議文ニ未タ嘗テ贊成ヲ表シタル事ナシ且右決議文ヲ決議セル多數各派ノ間ニ於テモ右決議ニ關スル意見ハ必スシモ一致シ居ラス』ト述ヘタル爲メ多數派議員ハ憤激シテ宰相ヲ攻擊シ代表者ヲ派シテ宰相ニ詰問シ告ケテ曰ク多數各派間ノ決議文ニ關スル意見ニハ一ノ扞格ナシ宰相カ果シテ右決議文ヲ無視スルニ於テハ宰相ハ議會多數派ノ援助ヲ期待シ得サルヘシト尤モ保守黨及全獨主義者ハ右ノ言明コソ宰相ノ心底ヲ表明シタル言葉ニシテ是全ク吾人ノ意ヲ得タルモノナリト推稱シタリ此ニ於テ若干ノ獨逸新聞ハ內閣ハ危機再來ヲ唱ヘ保守黨新聞ハ內閣危機ニアラスト主張シタリ然ルニ宰相ハ書記官長トモ稱スヘキフオン、グラヴエニッツヲシテ多數派首領等ニ向ヒ宰相ノ前言ハ失言ナリシ旨ヲ辯疏セシメ多數派モ宰相ノ早速ノ退却ニ自負的滿足ノ感ヲ抱キタリト云フ獨逸ノ或新聞ハ宰相ノ右ノ言葉ハ「ラプサス、リンゲ」Lapsus linguae（言ヒ滑ラシ）ナリト評セリ

失言カ將タ暴言カノ論ハ姑ク之ヲ措キ宰相ハ多數代表者ニ向ヒテ前言ト異ナレル言明ヲ爲スヘキ旨ヲ約シ次テ各派首領連ト宰相官邸ニ會見シ八月二十四日ニハ大本營ニ至リテ皇帝ニ謁見シ午餐ヲ賜ハリヒンデンブルグ、ルーデントルフ等トモ會談シ同日夕歸林シタリ宰相ノ大本營往訪用件ハ專ラアルサス、ローレンヲ聯邦ニ列スルノ件ナリト噂シ居ルモ對議會案ニ關スル談合モアリタルヘキハ疑ナシ

宰相ハ八月二十五日ノ中央委員會ニ臨ミ述ヘテ曰ク予ハ帝國ノ聯邦的性質ニ牴觸セサル限リ政府ト各大政黨間ニ近邇セル接觸ヲ保ツコトヲ欲スル者ナルコトヲ宣言ス（宰相ノ此態度ニ關シ或保守黨新聞ハ宰相ハ「自己信念」ニ乏シ彼ノ意思ハ强固ナリト思ヒタルニ存外薄弱ナリト冷評シタリ新宰相キユールマンハ曰ク人事ハ相互ノ信任ニ依リテ成立ス又曰ク力モ必要ナレトモ權利モ尊重セサルヘカラストベートマンカ窮餘ノ遁所トシテ『必要ノ前ニハ法律ヲ知ラス』ト云ヘルト相對照スルニ正ニ一段ノ進步又ハ悔悟ナリト認ム全獨主義者カ新外相ヲ罵リタルモ亦其ノ故アリト云フヘシ）予カ各政黨ニ信任ヲ有スル人々ノ援助ヲ求ムルハ全ク此見地ニ依ルモノトス而シテ予ハ帝國主宰者ト諸政黨間ニ一層密接セル共助ヲ確保スル目的ヲ以テ帝國宰相所（即チ內閣）內ニ設置スヘキ自由委員會新設案ヲ案出シタリ同委員ハ第一着ニ法王公文ニ對スル回答ヲ審議セントス委員會新設案ニ就テハ既ニ各政黨首領及聯邦會議ノ意見ヲ求メ置キタリ予ハ聯邦諸政府ノ同意ヲ得ヘキコト確實ナリト信ス帝國議會ノ五大政黨ハ議員中ヨリ七名ノ委員ヲ簡派セラルヘシ即チ中央黨ヨリ二人、社會黨ヨリ二人、保守黨一人、國民自由黨一人、進步黨一人トス又聯邦會議ハ同委員會ニ七人ノ委員ヲ出スモノトス帝國宰相ハ委員會ノ議長タルヘシ此新組織ハ絕對ニ自由ナルモノト思考スルヲ要ス同委員會ハ帝國議會ノ規則ニ從ハス又各聯邦ノ代表機關ニアラス各政黨ノ代表機關ニモアラサルナリ同委員會ハ政友諸輩ノ信任ヲ享有スル所ノ堪能ノ人々ノ自由

ナル會合ニシテ其ノ目的ハ相互ニ現時ノ諸問題ノ解決ニ當ラントスルニ在リ又同委員會ハ一ノ試驗ナリ此制度ヲ今後其儘維持スヘキカ又ハ變更ヲ加フルヲ要スルカ或ハ又其ノ存立期限ヲ制限スルヲ要スルカハ實際運用ノ結果ニ見テ之ヲ決スヘシ予ハ同委員會ノ新設ハ帝國ノ内政ニ關シ必要ト認メラレタル變更及改良ニ向ヒテ其ノ歩武ヲ進メタルモノナリト思考ス

普魯西選擧改正ノ問題ニ關シテハ其解決ヲ延引スルカ如キコトハ斷シテ之無キヲ言明ス曩ニ發セラレタル詔勅ノ旨ニ從ヒテ同法改正案ヲ提出スル爲メ目下孜々準備中ナリ

帝國ノ諸問題ニ關シテハ平和條件問題戰後過渡期ニ於ケル國家經濟問題及財政改良問題ハ予カ最モ多クノ時間ト最モ多クノ勞力トヲ宛テントスル重要案件ナリトス云々ト右宰相ノ演說ニ對シ

進歩黨ノフォン、パイヤーハ大體宰相ノ提案ニ贊成ヲ表シタルモ今回ノ新内閣員ノ選任ハ宜シキヲ得ストテ幾分不平ヲ洩ラシ帝國議會議員中ヨリ無任所大臣ヲ任命セヨト主張ス

社會黨ノダビッドモ新内閣員ノ選任其ノ宜シキヲ得スト評シベートマンノ沒落ヲ來シタル内閣危機ハ依然存在スト述ヘ聯邦會議議員ヲ新設委員會ニ入ルルヲ非難シ吾人ハ新設委員會ニ助力スヘキモ同制度ハ吾人ノ希望ニ副フコト猶遠シト云ヘリ

中央黨ノエルツベルガーハ曰ク新設委員會ハ憲法上ノ論爭ヲ惹起スル虞アルモ中央黨ハ兎ニ角同委員會ヲ贊助スヘシト

國民自由黨ノストレーゼマンハ政府議會間ニ相互的信任アル共助ヲ望ミ民主制度ノ諸國カ驚クヘキ方法ニテ此戰爭ヲ持續シ居ル旨ヲ述ヘ尙議員ヲ議員ノ儘ニテ政府ニ任用スルヲ可トスルヲ以テ憲法第九條ヲ廢止スルヲ要スト述ヘタリ

少數社會黨ノレーデブールハ政府ト議會トノ共助精神ニハ贊成ナルモミハエリスノ組織スル委員會ノ權限ナルモノハ何人モ之ヲ理解スル能ハス是帝國ノ威信ヲ失墜セシムル喜劇ノミ重大問題ハ議會ニ諮ルヲ要ス新設委員會ノ如キハ事務局ノ出張所ノミト述フ（報告者曰ク少數社會黨ハ委員ヲ出スヘキ黨派トシテ數ヘラレ居ラサルナリ）

保守黨ノウエスタルプ伯ハ新設委員會ノ委員選定方法宜シキヲ得タリト認ム若シモ他ノ方法ヲ採リタランニハ皇帝ノ大權ヲ侵犯スルノ虞アリシナラント述ヘ委員會其物ニ關シテハ其ノ成績ヲ見テ追ツテ判斷ヲ下スヘシト結ヘリ

獨逸派ノ「ウアルムート」ハ新制度ヲ是認スルモ帝國議會ノ小團體ヲ除外スルハ遺憾ナリト述ヘタリ

右ノ如ク各派代表者ニハ夫レ〳〵注文モアリ意見モ出テタレトモ委員會新設ニハ大體贊成ヲ表シタルナリ

次テ宰相ハ再度演說シテ曰ク

予ハ諸君カ予ノ提案ノ實現ニ助力セラルヘキ旨ヲ言明セラレタルヲ欣幸トス機密ヲ嚴守スル爲メニ一定ノ制限セル範圍内ニテ或重大問題ヲ論議スルノ必要アルコトハ明白ナリ予カ新設委員會ノ委員ヲ政府又ハ政黨ノ代表者ト看做スヘカラスト述ヘタル意味ハ特殊ノ場合毎ニ政黨代表者カ一定ノ代理權限ヲ有シテ委員會ニ臨ミ而シテ其ノ所屬黨派ニ逐一報告ヲ

提出スル如キハ不可能事ナリト云フニ在リ協議未タ纒ラス方針未タ確定セサル一切ノ事項ハ之ヲ公開的ニ論議スヘカラサルナリ予ハ各派ノ首領カ一定ノ制限セル範圍内ニテ祕密ニ論議スルコトハ眞ニ一進歩ナルコトヲ承認セラルルナラント確信ス各派ヲ代表スル委員カ委員會ニテ其ノ黨派ノ意見ヲ吐露スルハ無論其ノ義務ニシテ又黨派首領カ其ノ黨派ト接觸ヲ保ツヘキコトモ亦勿論ナリトス然ラサレハ各黨派ハ討議ノ目的ノ何ナリシカヲ知ル能ハサルヲ以テナリ予ハ各大政黨ノ代表者ト共ニ懸案中ノ諸問題ノ解決ヲ進メンコトヲ第一ニ思考ス斯クノ如クスレハ當中央委員會ニテ表明セラレタル疑念ノ如キモ今ヤ消散セルモノト看做サルルナラン云々

聯邦會議々員ヨリ選定セラルヘキ委員ノ顔觸ハ新聞紙上ニ未タ見エサレトモ帝國議會議員ノ分ハ左ノ如シト云フ

中央黨　エルツベルガー、フェーレンバッハ
豫備委員　トリボール、ヘロルド
社會黨　エベルト、シャイデマン
豫備委員　ダビッド、モルケンブール
進歩黨　フォン、パイヤー
豫備委員　ウキーマー
國民自由黨　ストレーゼマン
豫備委員　シエーンナイヒ、カロラート公
保守黨　ウェスタルプ伯
豫備委員　レージッケ

（備考）獨逸帝國議會議員三九七名中大政黨ノ議員數ハ次ノ如シ（一九一七年ノ「アルマナック、ド、ゴタ」ニ依ル）

中央黨	九一
社會黨	八八
國民自由黨	四五
進歩黨	四六
保守黨	四三

右ノ外少數社會黨、獨逸黨、波蘭議員、アルサス、ローレン議員、ハノバー議員丁抹議員、無所屬等アリ

（ロ）獨逸新設委員會

（大正六年八月二十九日附報告）

八月二十七日ノ「フォッシッシエ、ツァイトウング」ニ依レハ聯邦會議々員中ヨリ選任スヘキ委員七人ノ内

ババリヤノレルヘンプエルド伯
サキソニーノフォン、ノスチッツ、ドルゼヴィスキー
ウルテンブルグノフォン、バルリンピューラー

ノ三名ハ當任委員トシ他ニ八人ヲ選定シ其ノ八人ハ順次ニ委員會ニ列席スル由ニテ其ノ順番ハ左ノ如シ

メックレンブルグ、バーデン、ヘッセ、オルデンブルグ、チューリンゲン、ブルンスウイック、アンハルト、ハンセアチック諸市、アルサス、ローレンノ代表者

委員會議長タル宰相ハ普魯西ヲ代表ス

帝國議會ヨリ出シタル七人ノ委員ニ就テハ宰相ヨリ何黨ハ何名ト指定シタルノミニテ五大政黨ハ各々其ノ委員ヲ自選シタルカ聯邦會議ヨリ出シタル委員ハ宰相ノ指名ニ係レリ又「ストラスブルグ、ポスト」紙ノ報スル所ニ依レハ帝國議會議長ハ委員中ニハ加ハラサルモ委員會ニ出席シテ發言スルコトヲ得ト云フ

獨逸新聞ハ新設委員ヲ「七名委員會」又ハ「十四名委員會」等ト稱シ居ルモ正式ニ之ヲ帝國宰相ノ側ニ設ケタル特別委員會」ト命名シタル趣ナリ（佛譯Commission Spéciale près le Chancelier de l'Empire）

同委員會ハ八月二十八日第一回會議ヲ開キタル由ニテ其節法王公文ニ對スル回答ヲ論議シタルニ相違ナシト思ハル、モ議事ハ總テ祕密ニ付シ居ルヲ以テ外間ニハ未タ漏洩セス

（八）獨逸新設特別委員會委員ニ指定セラレタル聯邦會議々員

（大正六年八月三十日附報告）

其後ノ報道ニ依レハ右委員七名ノ姓名ハ左ノ如クナリト云フ此報道ノ方正確ナルモノト思考ス

ババリヤ　レルヘンフェルデ伯
ザックセン　フォン、ノスチッツ、ドルゼウィスキー
ウルテンブルグ　バルンビューラー男
メックレンブルグ　ブランデンシタイン男
バード　ドクトル、ニーサー
ヘッセ　ビーゲレーベル男
オルテンブルク　アツベンハウゼン男

（二）八月二十九日ノ獨逸帝國議會中央委員會ニ於ケル出版印刷物檢閲ニ關スル決議

（大正六年八月三十一日附報告）

八月二十九日獨逸帝國議會中央委員會ハ前回會議ニ引續キ新聞檢閲問題、戒嚴問題、集會法問題ニ就キ討議シタルカ社會民主黨議員ハイネ國民進歩黨議員ドーフェ中央黨議員エルツベルガーハ新聞檢閲問題ニ關シ

「帝國宰相ハ戰時ニ於ケル檢閲振ニ就キ左ノ原則ヲ嚴守セラレタシ

一、戒嚴令ニヨリ軍事官憲カ出版印刷物ニ關シテ有スル權能ヲ軍事行動ニ關スル事實ノ

報道及其批評ノ範圍內殊ニ右ノ記事カ軍事的行動ヲ阻害スル場合ニ限ルコト

「二、戰爭及講和ノ目的、憲法改正問題並ニ內政問題ハ檢閲ニ付セサルコト

三、新聞雜誌ノ禁止ハ軍事行動ニ危害ヲ及ホス場合ニ限リ帝國宰相ノ同意ヲ得且禁止ノ理由ニ就キ發行人ニ訊問シタル後之ヲ爲スヘシ」

トノ決議案ヲ提出シ種々討議ノ結果之ヲ可決シタリ

尙同日社會民主黨及獨立社會黨ヨリ戒嚴廢止ノ決議案ヲ提出シタルモ否決セラレタリ

而シテ同中央委員會ハ八月二十九日ヲ以テ閉會シ九月二十七日再開ノ筈ナリ

（三）戰後ノ獨逸經濟財政方針ニ關スル當局者ノ言明

（大正六年八月十六日附報告）

（一）戰後ノ財政方針

獨逸大藏次官シッファーハ八月十一日ノ「ベルリーナー、ブルセン、キュリール」新聞紙上ノ戰後ノ財政政策ニ關スル氏ノ考案ノ一端ヲ發表シタリ曰ク

一、新稅ハ最モ收入多キモノタルヲ要シ且稅種ハ多數ナラサルヲ要ス無數ノ稅目ヲ設ケテ公衆ヲ疲憊セシムルヨリハ若干ノ大稅源ニ依ルヲ可トス

二、租稅ノ體樣問題ハ極メテ必要ナリ苦情ノ百出ヲ防カント欲セハ多大ノ心理的鑑識ヲ用井ルヲ要ス新稅ハ簡單明瞭ニシテ何人ニモ能ク理解シ得ルモノタラサルヘカラス一切ノ納稅就中一切ノ商業者カ容易ニ其ノ計算ヲ爲スコトヲ得何時ニテモ其ノ負擔ノ幾何ナルカヲ知リ得ルヲ要ス

三、吾人ノ經濟生活ヲ長養スルハ緊急事ナリ吾人ハ工業ヲ衰退セシムルヲ欲セス工業ハ自由ニ之ヲ發達セシムルヲ要ス何トナレハ吾人ノ要スル大稅源ハ特ニ之ヲ工業界ニ期待セサルヘカラサルヲ以テナリ吾人ハ又工業ヲシテ收支相償ハシムル爲メ必要ノ方法ヲ供給セサルヘカラス予ハ吾人ノ工業及技術界ノ盡力カ吾人ノ期待スル所ニ副ヒ得ヘキコトヲ確信ス

四、社會政策ノ主義ハ確實ニ之ヲ維持スヘク吾人ハ出來得ル限リ小納稅者誅求ヲ避クルコトヲ努ムヘシ但シ吾人ハ何人モ納稅義務ヲ脫シテ可ナリトハ思考セス

五、予ハ國家ノ事業獨占主義ニ原則トシテ反對セサルモ事業ノ收益同等ナルニ於テハ自由事業制度ヲ選擇ス

六、戰後獨逸ノ資本カ外國ニ流出スル恐ハ之無シト信ス宰相ミハエリスハ戰後經濟ニ關シ「バーテッシェ、ランデス、ツァイトウング」記者ニ左ノ如ク述ヘタリ

一、國家ノ事業獨占制度ヲ行フノ問題ハ未タ十分ニ熟シ居ラサルモ豫算ノ狀態ヨリ考フルニ此種ノ方法ニ依ルノ已ムヲ得サルニ至ルヘシ國家ノ事業獨占ハ從來久シキ間自由經濟組織ノ傳統的ニ行ハレ居ラサル範圍ニ於テ最モ容易ニ之ヲ行フヲ得ヘシ是ヲ以テ國家ノ獨占ニ適當ナル事業ハ戰爭ノ爲メニ生レタル諸工業ナルヘシ一例ヲ擧クレハ人造硝石事業ノ如キ是ナリ

二、吾人ノ採ルヘキ財政上ノ處置ハ各聯邦ノ財政自主權ヲ侵スコトナキヲ要ス

三、目下維納ニテ進行中ノ經濟商議ハ有利ノ方向ニ進行スルニ至ルヘキヲ希望ス

（二）戰時及戰後ノ食料問題

食糧省次官アウグスト、ミルラーハ「ペルリーナー、ブルセン、キュリール」記者ニ其ノ意見ノ一班ヲ洩シテ曰ク

一、現ニ戰場ニ在ル軍隊ヲ復員スルトキハ食料供給事業ハ其ノ重荷ヲ減シ得ヘシ又食料品特ニ脂肪質食料ノ輸入ハ戰後速カニ之ヲ行ヒ得ヘキコト疑ナシ

二、獨逸帝國ノ食糧省新長官ハ同時ニ普魯西ノ食料委員長トナリタルヲ以テ前任者ニ比スレハ其ノ權限モ廣汎且有效トナレリ故ニ普魯西ニ於テモ食料品ノ必要ナル徵收ヲ十分ニ行フヲ得ヘシ尤モ從來ノ制度ヲ改變スル必要アリトハ思料セス尙今日何人ト雖モ自由商業ヲ復興シ得ヘシト思フ者ナカルヘシ

三、人民共同庖厨制度ハ滿足ナル結果ヲ生シタリ最モ困難ナリシ昨冬中ト雖モ人々ハ共同庖厨ヨリ食料ヲ求ムルコトヲ欲セスシテ銘々自宅ニテ調理スルコトヲ欲シタルナリ共同庖厨ニ出入スル人々ニ交付セル切符ハ漸次其數ヲ減シテ遂ニ半分ニ下ルニ至レリ併シ昨冬ノ如キ苦々シキ經驗ハ今年ハ起ラサルヘシト期待ス

（四）獨逸ノ第七回軍事公債發行

（大正六年九月十二日附報告）

九月六日ノ「ウォルフ」電報ニ依レハ獨逸ハ第六回ト同シ條件ニテ本年九月十九日ヨリ十月十八日迄第七回軍事公債ノ募集ヲ行フヘシ而シテ新債ハ五分利附帝國公債及四分半利附大藏證劵ヨリ成リ發行價格ハ何レモ九八「パーセント」ナリトス

五分利附帝國公債ハ千九百二十四年十月一日迄据置ナルモ大藏證劵ハ抽籤ニヨリ百十「パーセント」ヲ以テ償却セラルヘシ

財務當局（Finanzverwaltung）ハ四分半利附新大藏證劵ノ應募者ニ其外五分利附ノ舊債及第一、二、四及五回軍事公債ノ大藏證劵ヲ抽籤シ得ヘキ四分半利附ニ引換フルコトヲ許セリ但シ各應募集者ハ新大藏證劵ニ應募シタル額ノ二倍ノ舊債（額面價格ニヨリ）ノ引換申出ヲ爲スコトヲ得例ヘハ五千麻克ノ大藏證劵ヲ現金ニテ應募スルモノハ其外一萬麻克ノ舊債ヲ新大藏證劵ト引換フルコトヲ得

第六回軍事公債ト同時ニ發行セラレタル大藏證劵ノ償還計畫ハ第七回軍事公債ノ大藏證劵償還ニ對シテモ有效ナリト云フ第七回軍事公債ニ對スル拂込ハ九月二十九日（九月三十日ハ日曜日ナリ）ヨリナスコトヲ得而シテ義務支拂期日ハ十月二十七日、十一月二十四日、一月九日及二月六日ナリトス今日迄帝國議會ノ協贊ヲ經タル獨逸ノ戰費ハ本年七月二十日議會ヲ通過セル百五十萬麻克ヲ加ヘ合計無慮九百四十萬麻克ノ巨額ニ達ス此ノ内六回ノ起債ニヨリ支辨シ得タルモノ既ニ六百億麻克以上ニ上レリ

自第一回至第七回獨逸軍事公債募集方法比較

	申込期日	利息	形式	發行價格	申込高（百萬麻克）	申込總高（百萬麻克）	申込數
第一回	一九一四年九月一〇日—一九日	五分	帝國公債	九七半	三、四八一	四、四八一	一、一七七、二三五
		五	大藏證券	九七半	一、〇〇〇		
第二回	一九一五年二月二七日—三月一五日	五	帝國公債	九八半	八、三三〇	九、一〇六	二、九六一、〇六〇
		五	大藏證券	九八半	七七六		
第三回	一九一五年九月四日—二二日	五	帝國公債	九九	一二、一〇一	一二、一〇一	三、九六六、四一八
第四回	一九一六年三月四日—二二日	五	帝國公債	九八半	九、一九五	一〇、七六七	五、二七九、六四五
		四、五	大藏證券	九五	一、五七二		
第五回	一九一六年九月四日—一〇月五日	五	帝國公債	九八	九、五七八	一〇、六五一	三、八〇九、九七六
		四、五	大藏證券	九五	一、〇七三		
第六回	一九一七年三月一五日—四月一六日	五	帝國公債	九八	一一、六一三	一二、九七九	六、七八六、〇八二
		四、五	大藏證券	九八	一、三六六		
第七回	一九一七年九月一九日—一〇月一八日	五	帝國公債	九八	未定	未定	未定
		四、五	大藏證券	九八	未定		

第九　第七回軍事公債ニ關スル事項

（外事彙報大正六年第十二號）

（一）獨逸第七回軍事公債發行

（大正六年九月八日附報告）

九月七日發伯林通信ニ依レハ獨逸第七回軍事公債ハ第六回ノ分ト同一ノ條件ニ依リ來ル九月十九日ヨリ十月十八日迄ニ募集セラルヘシ五分債券及四分半利大藏證券ノ二種類トス發行總價格ハ何レモ九十八ニシテ五分利債券ノ方ハ一九二四年十月一日ニハ償却セラレサルヘク大藏證券ノ方ハ最低十一割ニテ償却セラルヘシト云フ

（二）第七回軍事公債ニ關スル獨逸帝國銀行總裁ノ講演大要及公債應募勸誘ノ檄文

（大正六年十月一日附報告）

九月十二日帝國銀行總裁ハヴェンスタウン氏ハフランクフルト商業會議所ニ於テ第七回軍事公債ニ關スル一場ノ講演ヲナセリ其ノ大要ニ曰ク

『今回募集ノ公債カ最後ノ軍事公債タランコトヲ希望ス獨逸ノ經濟力ハ確カナリ銀行ニ於ケル預金ハ平和ノ最後ノ年ニ比シ二倍トナレリ貯金局（Sparkasse）及信用組合ニ於ケル預金ハ未タ曾テ見サル迄ニ増加シタリ

獨逸ノ貯金局丈ケニ於ケル預金ノ増加ハ今年ノ最初七箇月ニ於テ二十一億六千萬麻克以上ナリ前二年ノ同期間ニ於ケル増加ハ十八億三千萬麻克（千九百十六年）及十四億二千五百萬麻克（千九百十五年）ナリ

軍事公債ニ再ヒ拂込マル、條件ニテ帝國銀行カ流通セシメタル大藏證券ヘノ要求ハ第六回公債ノ時ヨリ倚大ナリキ我等ハ講和締結後ニ於テ戰爭前ヨリ一層烈シク働カサルヘカラサルヘク又一層節約シテ生活セサルヘカラサルヘシ併シ獨逸ハ他ノ交戰國民ノ何レヨリモ容易ニ且速ニ戰爭ノ負擔ニ打勝ツナラン今日迄ニ既ニ約四千五百億麻克ニ達セル總

戰費ノ約三分ノ一ハ獨逸及同盟國ノ負擔ニシテ殘リ三分ノ二ハ我カ敵ノ負擔ナリ其ノ內英國ノ負擔ハ非常ニ大ナリ之ヲ人口割ニ計算スルモ比較ニナラサル大差ナリ從來英國ニ於ケル一人ノ戰費負擔ハ約二千五百麻克ナリシニ反シ獨逸ニ於テハ千四百麻克ナリキ軍事公債ニ投入セシ運轉資本ヲ再ヒ正金ニ換フルコトハ困難ナラント杞憂スル者無キニアラサルモ夫ハ理由ナキコトナリ貸付金庫ハ講和締結後ニ於テ尚少ナクトモ四五年存續スルナラン當局者ハ其他講和締結後疑ヒナク始マルヘキ軍事公債ノ賣却ニ對シ大且有效ナル措置ヲナサヽルヘカラサルコトヲ全然覺悟セリ帝國銀行ハ目下既ニ各人カ千麻克迄ノ額ヲ九十八ノ相場ニテ交付シ得ル準備ヲナシタリ併シ將來ハ吾人ノ判斷ニヨリ幾十億ノ賣却申出ヲモ引受クルニ足ル措置ヲ必要トスヘシ之ニハ帝國銀行カ銀行界全體ト共同ニ實行スルコトヲ希望スル大規模ノ引受動作必要ナリ』云々

公債應募勸誘ノ檄文

九月十九日（第七回軍事公債募集開始日）ノ獨逸各新聞雜誌等ニ出テタル應募勸誘ノ檄文ニ曰ク

新軍事公債ハ成功セシメサルヘカラス而シテ吾人ハ英國ニ對スル戰鬪ヲ繼續スルノ元氣ヲ得ヘシ新軍事公債ハ成功シ得ヘシ如何トナレハ金錢ハ充分國內ニ存在スルカ故ナリ而シテ各人カ萬事恰モ自己一人ニ關係スルカ如ク行ハヽ新軍事公債ハ成功スルナラン！

貸付金庫ト軍事公債

最初六回ノ獨逸軍事公債應募總額（全部拂濟）ハ人ノ知ルカ如ク六百三億麻克ニ達セリ今九月十五日ノ帝國貸付金庫ノ現狀ニヨレハ同金庫カ最初六回ノ軍事公債ニ貸付ケタル金額中尚未濟ノ分九億千七百萬麻克アリ故ニ右巨額ノ一「パーセント」半丈ケハ帝國貸付金庫ノ補助ヲ以テ支拂ハレタル譯ナリ

軍隊ニ於ケル軍事公債應募成績

軍隊ニ於ケル軍事公債應募者ノ便ヲ計ランカ爲最高等司令官（Oberste Heeresleitung）ヨリ設ケシメタル戰時貯金局（Kriegssparkasse）ハ第六回軍事公債募集ノ際最モ成功セリ而シテ第六回軍事公債ノ申込ハ軍隊所屬員（Heeresaugehörige）ノ貯金切符（Sparkarte）五百七十萬枚引受ニヨリ六千五百三十萬麻克丈ケ增加シタリ即チ各々應募ノ平均額ハ殆ント十一麻克五十片ニ當ル併シ此額ハ軍隊應募總額ノ一部分ニ過キス第六回軍事公債ニ對スル軍隊所屬員ノ總應募額ハ第六回軍事公債全申込高百三十億麻克ノ十分ノ一ト見積ラサルヘカラス即チ軍隊所屬員ノ純戰地應募額ハ五億麻克又內地應募額ハ八億麻克ナリキ第七回軍事公債ニモ斯カル好結果ヲ得ンカ爲最近獨逸ノ諸新聞ハルーデンドルフ參謀次長ノ應募勸誘ニ關スル檄文ヲ載セタリ檄文ニ曰ク

吾等ノ戰捷軍ハ第七回軍事公債ノ申込ニ際シテモ義務ヲ果スナラン！　ルーデンドルフ

千九百十七年九月九日大本營ニテ

又目下獨逸ノ官民ハ一般ニ來ル十月二日ノヒンデンブルグ元帥七十ノ誕辰祝賀準備ニ忙殺セラレ居ルニ當リ參謀總長ヒンデンブルグ元帥ハ之ニ對シ九月九日附ニテ辭退文ヲ發表セリ其ノ文ノ結末ニ左ノ句アリ

……軍事公債ニ應募スルモノハ余ニ最モ麗シキ誕生祝ノ贈物ヲナスモノナリ

（三）獨逸ノ第七回軍事公債募集條件

（大正六年九月二十日附報告）

獨逸政府第七回軍事公債募集條件ハ概要左ノ如シ

（一）　第七回軍事公債ハ五分利債券及四分半利國庫證券ノ二種トシ申込所ハ獨逸帝國銀行申込期間ハ千九百十七年九月十九日ヨリ千九百十七年十月十八日迄トス

（二）　五分利債券ハ二萬麻克、一萬麻克、五千麻克、二千麻克、一千麻克、五百麻克、二百麻克、一百麻克ノ額面ニ區別シ毎年四月一日及十月一日ニ支拂フヘキ利札ヲ添附ス第一回ノ利子ハ千九百十八年四月一日ヨリ進行シ千九百十八年十月一日ニ支拂ハル、モノトス四分利半國庫證券ハ額面二萬麻克、一萬麻克、五千麻克、二千麻克、一千麻克ノ五種ニ區別シ毎年一月二日及七月一日ニ支拂フヘキ利札ヲ添附ス第一回利子ハ千九百十八年一月一日ニ進行ヲ開始シ千九百十八年七月一日ニ支拂ハル、モノトス

（三）　國庫證券ハ毎年一月及七月ヲ以テ抽籤ヲ行ヒ當籤者ニ對シ一月二日及七月一日百麻克ノ額面ニ對シ百十麻克ノ割合ヲ以テ償却ス第一回ノ抽籤期ハ一九一八年七月ナリ抽籤法ニ依リ償却セラレサル國庫證券ニ對シ政府ハ千九百二十七年七月一日迄額面ニ依ル償却ノ通告ヲ發スルコトヲ得ス同上期間經過後政府ハ額面ニ依ル償却ノ通告ヲ發シ得ルモ同時ニ國庫證券ノ所持人ハ償却ヲ受ケス其所持證券ヲ抽籤ニ依リ額面百麻克ニ對シ百五十麻克ヲ支拂ハルヘキ四分利新證券ニ切替フル事ヲ請求スルヲ得政府ハ第一回ノ額面額償却ヲ通告セル後最少十箇年ヲ經過スルニアラサレハ第二回ノ額面額償却ヲ通告スルコトヲ得ス又第二回通告受領ノ際國庫證券ノ所持人ハ第一回ト同樣償却ニ代ヘ其所持證券ヲ抽籤ノ場合額面百麻克ニ對シ百二十麻克ヲ受取リ得ル三分半利新證券ニ切替フルコトヲ請求スルヲ得ルモノトス政府ハ二回以上償却ノ通告ヲ爲スコトヲ得ス國庫證券ノ利子及元金支拂ノ爲政府ハ毎年國庫證券發行總額面額ノ五分ニ該當スル金額ヲ支出シ結局千九百六十七年七月一日ニ至リ全部ヲ償却スルモノトス

（四）　發行價格ハ（イ）五分利債券ハ證券ヲ交付スル場合額面百麻克ニ對シ九十八麻克、帝國公債簿ニ登錄シ證券ヲ交付セス且千九百十八年十月十五日迄處分ヲ差止ムルモノニ對シ九十七麻克八十布（ロ）四分半附國庫證券ハ券面百麻克ニ對シ九十八麻克トス

（五）　申込者ニ對スル債券又ハ國庫證券ノ割當ハ申込締切後可成急速ニ實行ス割當額決定前ニ拂込濟ノ金額ニ對シテハ已ニ割當ヲ爲シタルモノト見做ス其他ノ場合ハ申込登錄所ニ於テ割當數額ヲ決定スルモノトス

（六）　申込者ハ左ノ區分ニ從ヒ拂込ノ義務ヲ負擔ス千九百十七年十月二十七日迄ニ割當額ノ三割同十一月二十四日迄ニ割當額ノ二割千九百十八年一月九日迄ニ割當額ノ二割五分同二月六日ニ割當額ノ二割五分

（七）　各郵便局ハ五分利債券ニ限リ申込登錄ノ取扱ヲ爲ス

（八）　四分半利國庫證券ノ申込人ハ第一、二、四、五回軍事公債ノ債券及國庫證券ト四分

半利新國庫證券トノ交換ヲ申出ツルコトヲ得但シ交換スヘキ舊債券及國庫證券ハ券面額ニ依リ申込人ノ應募セル新國庫證券ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ス

交換ノ場合ハ五分利舊債券ヲ提出セル者ニ對シテハ同數ノ四分半利新國庫證券ヲ交付シ五分利第一回國庫證券ヲ提出セル者ニ對シテハ額面百麻克ニ對シ二麻克ノ補償金ヲ與ヘ又第二回五分利國庫證券ヲ提出セル者ニ對シテハ百麻克ノ額面ニ對シ一麻克半ノ補償金ヲ與ヘ更ニ第四及第五回ノ四分半利國庫證券ヲ提出セル者ニ對シテ百麻克ノ額面ニ對シ三麻克ツヽヲ徴收スルモノトス

（四）　獨逸第七回軍事公債應募額

（大正六年十月二十一附報告）

十月二十日伯林發「ウォルフ」電報ハ本件ニ關シ左ノ如ク發表セリ

「第七回軍事公債ノ結果ハ今迄知リ得タル所ニ依レハ舊軍事公債ノ乘替ヲ除キ百二十四億三千二百萬麻克ニ達ス小口ノ一部分及締切期限十一月二十日迄ノ戰線ニ於ケル申込ノ一部猶分明セサルヲ以テ應募金額ハ不明ナルモ百二十五億ヲ超過スヘシ此ヲ以テ千九百十七年度ニ於ケル總應募額ハ二百五十億ヲ超エ千九百十五年及千九百千六年度分ヲ超ユルコト四十億ナリ此結果ハ獨逸カ世界史上未曾有ノ經濟力財政力ヲ有スルコトヲ立證スルモノニシテ一方又ウィルソンノ公文及敵國側カ獨逸人ノ經濟的崩潰ヲ期待スル空想ニ對スル最好ノ回答ナリ

第十　一九一七年八月ニ於ケル帝國議會中央委員會ノ經過並ニ其ノ前後ノ政況一般

（前號獨逸ノ對外問題ニ關スル事項及獨逸ノ内政ニ關スル事項參照）

（外事彙報大正六年第十二號）

（一九一七年自八月中旬至九月上旬獨逸諸新聞ヨリ蒐集）

一、中央委員會開會前ノ政況一般

當期ノ中央委員會ハ先ニ新宰相ミハエリスカ帝國議會ニ於テ試ミタル就任劈頭ノ演説中ニ於テ内政改革ニ關スル豫約的言明ヲナシタル後ノ最初ノ開會ナル事並ニ帝國乃至普魯西閣員ノ更迭アリテ政黨出身者ノ任用アリタルコト及駐土大使キュールマンカ入リテ外相ノ任ニ就キタルコト之ニ加フルニ偶々羅馬法王ノ講和提議問題勃發シタル事等ノ理由ニヨリ多大ノ興味ト緊張トヲ以テ迎ヘラレタリ

夏期休暇ヲ終リタル各黨代議士ハ續々中央ニ歸來シ來リ各黨相次キテ院内團會議（フラツクチオン）ヲ開キテ陣容ヲ新ニスルト同時ニ七月中ノ内閣危機ニ際シテ成立シタル多數黨各派院内團協議會ハ八月二十日ヲ以テ會合シ、爾後ノ共同行動ニ就キ打合ヲナシタリ國民自由黨ハ先ニ帝國議會講和決議ノ問題ニ關シテ他黨ト議合ハスシテ單獨行動ヲ採リタルヲ以テ今次ノ協議會ニ參加ス可キヤハ頗ル興味アル問題トセラレ居リシカ結局其ノ代表者ヲ出席セシムルニ至レリ之ニ次キ翌二十一日ヲ以テ帝國宰相ハ各黨領袖ヲ召集シテ重要問題ニ就キ協議スル所ア

リ斯クノ如クシテ政情愈緊張ヲ加ヘタリ

二、中央委員ノ經過（自八月二十一日至同月二十九日）

八月二十一日

帝國議會中央委員會ハ新委員長フェーレンバッハ司會ノ下ニ開會ス劈頭第一宰相ハ次ノ如キ演説ヲ試ミタリ

議會閉會中敵國ノ增加スルモノ三、一ニ曰ク暹羅ナリ、二ニ曰ク支那ナリ、三ニ曰クリベリヤナリ、而シテ是等ノ諸國カ我國ニ宣戰スルニ至レル所以ノモノハ專ラ聯合國及合衆國ノ壓迫ニヨルモノニシテ敵タル可キ確乎タル理由ノ存スルニハ非サルナリ同盟諸國トノ關係ハ益强固ニシテ軍事上乃至政治上ノ協力ハ完全ニ遂行セラレ居レリ（中略）予ハ先ニ佛露祕密條約ニ關シテ述フル所アリタルカ今日更ニ敵國カ我等ノ戰爭目的ニ關シ締結シタル一層詳細ナル協定ニ關シ說述セサル可カラス

一九一四年九月七日敵國ハ非單獨講和ノ締約ヲナシ次キテ翌年三月四日露國ハ講和ノ曉左ノ要求ヲ有ス可キ事ヲ申出テタルニ英佛ハ等シク之ヲ認メタリ

露國ノ要求ス可キ地域（一）コンスタンチノープル並ニ海峽ノ歐洲側沿岸（二）トラキヤ南部エース、ミヂア線迄（三）マルモラ海諸島（四）インブロス島ラネドス島並ニ黑海ボスポラス、イスミード灣ニ圍マル、小亞細亞ノ半島、東ハサカリヤ河ニ至ル迄

此ノ後一九一五年乃至一六年英、佛・露ノ三國ハ更ニ協議ヲ遂ケ露國ハアルメニヤノヸラエット、トラペツント並ニクリヂスタンヲ佛國ハシリヤ及アダノ、メルシナ兩市並ニ其ノ北方背後地シワス、カルプートニ至ル迄ヲ英國ハメソポタミヤヲ領有スルコトヲ約シ尚土耳其領小亞細亞ノ他ノ部分ハ英佛ノ勢力範圍ニ分割セラレパレスチナハ一種ノ萬國共同統治ニ服シ又其他ノ土耳其人並ニアラビヤ人ノ住ム地方ハアラビヤ本部並ニイスラム聖地ヲ含メテ英國宗主權ノ下ニ一ノ聯邦ヲ形成スルコトニ定メラレタリ而シテ伊太利參戰後ハ同國モ亦其ノ後協議ニ參與シタル由ナルカ其ノ詳細ニ就キテハ後日之ヲ公ニシ得ヘシト信ス

敵國ノ有スル戰爭目的カ以上ノ如ク而シテ敵國カ斯クノ如キ獨逸全滅ノ意思ヲ捨テサル間ハ我國ニ於テハ講和ノ如キハ思ヒモヨラサル所ナリ

宰相ハ更ニ法王ノ講和提議ニ對スル意向ヲ發表シテ曰ク

（一）該通牒ハ吾人ノ勸誘ニ出テタルモノニ非ラスシテ、法王ノ自意ニ發シタルモノナリ

（二）吾人ハ永久的平和ノ招徠ニヨリ民族間ノ戰ヲ終熄セシメントスル法王ノ努力ニ對シ同情ヲ有シ敬意ヲ表ス、（三）之ニ對スル回答ニ就キテハ吾人ハ同盟諸國ト步調ヲ共ニス

（『羅馬法王講和提議ニ對スル獨墺國內ノ論調』參照）

委員會ハバイヤーノ動議ニ基キ日程ヲ變更シテ宰相ノ演說中特ニ法王ノ講和提議ニ關スル部分ニ就キテノミ討議シ其他ノ外交問題ハ其後ニ討議スヘキ旨ヲ決議シ各黨概ネ宰相ノ態度ヲ是認シ尚獨立社會黨ノ一員カ『帝國議會ハ法王ノ回答ニ干與スル事ヲ斷念ス可ラス』ト云ヘルニ對シ政府ハ該回答ノ決定ニ就キテハ帝國議會ノ意向ヲ無視スル事ナカルヘキ旨答ヘタリ

新外相キュールマンハ次ノ如キ就任演説ヲ試ミタリ　八月二十二日、二十三日

（前略）予ハ敵國側カ充分國際公法ヲ尊重スル限リ又我戰爭上ノ必要カ之ヲ許ス限リ中立國人ノ權利並ニ生命ヲ充分ニ尊重セント欲ス重要ナル中立利益ノ侵害ヲ避止スル事ハ我外交上ノ極メテ重要ナル任務ニシテ吾人ハ『政治上ニ於テハ權力カ物云フ然レ共正義モ亦物云フ』ト云フ原則ニ從ヒテ此任務ヲ巧ニ解決セント欲ス單ニ權力ノミヲ基礎トスル政策ハ到底成功ノ見込ナキモノニシテ權力ト正義トノ二ノ柱ノ上ニ築カレタル政策ニシテ始メテ永久ノモノタリ得ヘキナリ

吾人ノ敵國ニ對スル關係ハ公ノ外交的關係ハ勿論杜絶シ居レリト雖輿論ノ潮流ニ國境ナク我國ノ新聞ニ於テ彼國ノ新聞ハ我國ニ於テ讀マルヽノ狀態ニアリ吾人ハ敵國ノ心理ヲ研究シ輿論ノ傾向ヲ研究シテ折衝機宜ヲ過ラサラン事ヲ期ス

外相ハ更ニ帝國議會ト相信頼シテ外交事務ノ解決ニ當ラン事ヲ希望シ最後ニ述ヘテ曰ク吾人ハ恐ラクハ今年ヲ以テ此民族戰ノ最後ノ年トナル可キヲ確信ス願ハクハ我無比ノ軍隊其ノ偉大ナル統帥我若年ナレトモ光輝アル艦隊ニ信頼シ又獨逸國民ノ才能ニ依囑シテ確固不動以テ最後ノ日迄持チ堪フヘキ意思ヲ以テ進ミ行カン云々

ト外相ノ演説ハ斯クノ如ク極メテ曖昧模糊タルモノナルカ之ニ對スル各黨ノ批評モ亦漠然トシテ要領ヲ得サレトモ要スルニ大體ニ於テ好意ヲ表スルモノヽ如ク進歩黨ノ一員ハ外相カ權力ト正義トノ調和ヲ高調シタルヲ慶シ又中央黨ノ一員ハ『願ハクハ外相ヲシテ「今年ヲ以テ戰爭終ラン」ノ語ニ忠實ナラシメヨ而シテ外相カ權力ト相駢ンテ正義カ政治ノ重要ナル要素ナル事ヲ說ケルニ贊意ヲ表ス』ト述ヘ社會民主黨ノ一員ハ『吾人ハ政府ト人民代表者トノ間ノ信頼ヲ希望ス而モ相互信頼ヲ希望ス而シテ從來ノ組織ハ不信任ノ組織ナリ故ニ組織改革ノ必要アリ』ト說キタリ

然ルニ此間七月十九日ノ帝國議會講和決議ノ解釋ニ就キ宰相ト多數黨トノ爭ヲ生シ小數黨亦此間ニ介在シ議場大ニ亂レタルモ宰相カ講和決議ノ內容ヲ尊重スル旨ヲ言明シタルニヨリ其ノ解決ヲ見ルニ至レリ

八月二十四日

帝國宰相ハ大本營ニ赴キ中央委員會ハ石炭問題並ニ原料品問題等ノ經濟問題ニ就キ討議シタリ

八月二十五日

大本營ヨリ歸來シタル宰相ハ二十五日午前中央委員會ニ臨ミテ七月中ノ政變以來ノ宿題タル政府議會接近策並ニ普魯西選擧法改正問題等ニ就キ一場ノ演説ヲ試ミタリ宰相ハ先ツ七月十九日帝國議會ニ於ケル就任演説ニ基キ大ニ黨人ヲ登用シタル事ヲ述ヘ『予ハ必スヤ大政黨ノ信任ヲ受ケ得ヘキ人ナリト確信スル人々ヲ帝國官吏ニ登用シタリ即チ帝國司法大臣ニハ一人ノ議會政治家ヲ帝國經濟大臣ニハ左黨ノ信任ヲ受ケ得ヘキ人ヲ起用シ又帝國兵站次官ニハ社會民主黨員ヲ帝國大藏省局長トシテ國民自由黨ノ一員ヲ登用シ又中央黨ノ一員ハ普魯西司法大臣トシテ聯邦參議院ニ入レリ』ト云ヒ次ニ宰相ハ獨立委員會新設ノ件ヲ詳

述シ終リニ宰相ハ極メテ簡單ニ普魯西選擧法改正ノ件ニ言及シ『普魯西選擧法改正案ノ提出ハ多少ノ遲延ヲ見ル可キモ草案ハ極力完成ヲ急キ完成次第提出セラル、筈ナリ』ト述ヘタリ之ニ對スル各黨ノ意見ヲ見ルニ獨立委員會ノ設立ニ就キテハ各黨共之ヲ過渡的施設トシテ容認スト云フニアリ又黨人ノ登用ニ關シテハ進歩國民黨領袖パイヤーハ次ノ如ク述ヘタリ

帝國宰相ハ花ト木ト實トヲ分チタルシラーノ『異國ノ乙女』ノ如ク振舞ヘリ而モ宰相ノ爲ス所必スシモ公平ナリト云フ可ラサルノミナラス新政府ノ組織振ハ多數黨ノ豫期シタル所ト全ク背戾セリ多數黨ハ新政府ノ組織並ニ政策ニ干與スル事ヲ求メタリ然ルニ帝國議會ノ議員カ普魯西國務大臣ニ普魯西下院議員カ帝國々務大臣ニ任命セラル、カ如キハ一種ノ詐欺ニシテ此等ノ人々ハ所屬院內團トノ關係ハ切斷セラレ其ノ議會的才能ハ用ウルニ處ナカラン

又社會民主黨領袖ダヰッドハ曰ク

獨逸國民ハ新政府ヲ與ヘラレタリ而モ新政府ハ獨逸國民多數ノ希望ニ背戾セリ新政體ハ要スルニ自由主義者ノ參與スル保守內閣ニ非スヤ然レトモ我黨ハ暫ク忍ンテ未タ白紙ナル此等ノ人々ト事ヲ共ニシ彼等ノ爲ス所ヲ見ント欲スト

中央黨領袖エルツベルゲルノ云フ所モ略右ト同シ

新人ニ就キテハ予ハ云フヲ欲セス只バトキ、ステゲルワルドノ如キ有爲ノ士カ罷メラレタルハ悲ムニ餘リアリ又我黨ハ帝國官吏ノ任命ニ就キテモ不滿足ナルモノニシテシュパーン氏ヲ普魯西法相ニ起用スルカ如キ未タ以テ充分ニ我黨ヲ滿足セシムルニ足ラスト

國民自由黨ノ領袖ストレーゼノンハ左ノ如ク述ヘタリ

戰爭ノ經驗ハ我政府ノ組織ノ特ニ外交方面ニ於テ薄弱ナル事ヲ敎ヘタリ我國ニ於テハ宰相ノ地位ハ他國政治家ノ地位ヨリモ遙カニ困難ニシテ而モ從來ノ組織ハ此難境ヲ救フニ足ラサルカ故ニ此際帝國政府ハ帝國議會トノ間ニ親密ノ關係ヲ作ル事必要ナリ而シテ新人政府ニ登用セラレタルカ數箇月前誰カ社會民主的思想ヲ有スル人物カ獨逸帝國ニ次官トシテ働クヲ得ヘキ事ヲ想像セシモノアランヤ之誠ニ時ノ勢ニシテ吾人ハ戰爭中ニ於テ各黨ヨリ議會的大臣カ任命セラル、ニ至ルモ遠キニ非サルヘキヲ確信スト

論者ハ更ニ歩ヲ進メテ『閣員ハ同時ニ議員タリ得サル可ラス故ニ憲法第九條ハ改正ノ必要アリ』ト說キタリ

之ヲ要スルニ議會多數ノ主張ハ宰相今回ノ行動ハ未タ第一歩ニ過キス更ニ第二歩第三歩ヲ進メテ議院內閣ノ組織ニ到達セサル可ラスト云フニアリ然ルニ獨リ保守黨ハ依然トシテ超然內閣論ヲ固執シ同黨領袖ウェスタルプ伯ハ閣員ノ選任ハ一ニ大權ニ屬ス』ト大聲疾呼セリ

八月二十七日、二十八日

中央委員會ハ二十七、八日ノ兩日秘密會議ヲ開キ占領地統治問題（波蘭、リタウェン、クールランド）ニ關スル討議ヲナシ結局國民自由黨、中央黨、進歩國民黨並ニ社會民主黨ノ動議ニ基キ全會一致ヲ以テ『帝國議會ハリタウェン、クールランド占領地ノ爲メニ人民ノ代

表機關カ人民各部ノ信任ヲ負擔スヘキ方法ヲ以テ可成的速カニ設立セラレ加之軍事上ノ狀況ノ許ス限リ民政ヲ行フ事ヲ帝國宰相ニ慫慂セント欲ス』トノ決議ヲナシタリ

八月二十九日

中央委員會ハ政治的檢閲制度ノ廢止並ニ戒嚴令撤回其他ノ件ニ關スル討議ヲナシ其ノ結果社會民主黨ノ動議ニカヽル戒嚴令撤回ノ件ハ否決セラレ多數各派ノ動議ニカヽル政治的檢閲制度ノ廢止及檢閲事務處理ノ方針ニ關スル多數各派ノ決議ハ共ニ可決セラレタリ右ヲ以テ帝國議會本會期ハ終了シ次期ハ九月二十七日ヲ以テ開會セラル可シ但シ事情ニヨリテハ委員長ノ權限ヲ以テ開會期日ヲ繰上ケラルヘシト云フ

三、中央委員會閉會後ノ政況一般

帝國議會ニ於ケル多數黨ノ勢力益々盛大ナルヲ致スヤ全獨主義新聞中ニハ帝國議會多數黨並ニ國民自由黨ヲ以テ敵國特ニ英國ノ利益ノ爲メニ働クモノナリトノ誣言ヲ弄スルヲ辭セサルニ至リ「ドイッチェ、ターゲス、ツァイツング」ノ如キハ『多數黨ハ彼等ノ行動ト彼等ノ宣言ノ公表トニヨリ獨逸帝國ノ利益ヲ害シタリ』ト云ヒ又『多數黨ノ各種ノ機關カ宰相ノ政策ヲシテ外國ニ對シ信用ヲ落サシメンカ爲メ手段ヲ選ハス有ユル事ヲナシタルハ疑ナシ』ト云ヘリ而シテ遂ニ軍人團體モ非多數黨運動ヲ起スニ至リ在伯林普魯西軍人會ノ如キハ各地軍人、自治團體役員、教師等ノ助力ヲ得テ小冊子其他印刷物ノ散布、貼札、貼繪、幻燈其他各種ノ手段ヲ以テ反講和氣勢ヲ煽ルニ努ムルニ至レリ「ベルリーナー、ターゲブラット」ノ如キハ此運動カ帝國政府又ハ政府巨頭連ノ關知スル所ニ非サルヤヲ疑ヘリ

斯クノ如クシテ政爭ハ益々險惡ヲ加ヘ全獨主義者中ニハ帝國議會ノ解散ヲ要求スル聲漸ク高ク全獨派ノ先鋒タル「クロイツ、ツァイツング」ノ如キハ『帝國議會多數黨ニシテ猶其ノ態度ヲ改ムルナクンハ帝國議會ヲ解散スヘシ戰爭中帝國議會ヲ解散スルノ損害ト危險トハ今日多數横暴ノ損害ニ比スレハ遙ニ少ナリ』ト論シ又「ドイッチェ、コルレスポンデンツ」ハ『ミハエリスハ帝國議會ヲ解散シ新選擧ニ於テ現多數黨反對派ノ統率者タラサル可ラス』ト述ヘタリ

之ニ對スル多數黨員ノ意見ヲ見ルニ社會民主黨ノ名士ダヴィッドハ社會黨機關新聞「フォアヴェルツ」ニ於テ帝國議會解散論ニ報イテ曰ク

今日ノ場合ニ於テハ帝國議會ノ解散ハ（憲法上議會解散後十六日以内ニ新選擧行ハル可キヲ以テ）相互了解ニ基ク講和並ニ國内ノ自由主義的新組織ニ對スル人民ノ一般投票ヲ意味ス而シテ既ニ新選擧カ此意味ヲ有スルニ於テハ多數各黨ハ以上ノ二問題ニ就キ國民多數ノ後援ヲ有スル事ヲ證スル爲メニ相協同シテ逐鹿場裡ニ出テサル可ラスト

又中央黨機關紙「ゲルマニア」ハ『議會ヲ解散シテ新選擧ヲ爲スカ如キハ愚ノ骨頂ニシテ祖國ノ必要ニ反ス』ト云ヒ尚保守黨乃至全私派ノ新聞カ新選擧ニ期待セル所ヲ郤ケテ曰ク『保守黨並ニ國民自由黨カ此選擧ニヨリ多數ヲ占ムルニ至ラントハ保守黨モ之ヲ信スル事ヲ得サル可ク若シ夫レ中央黨ノ領域ヲ蠶食シ得ヘキ事ヲ期待スルニ至リテハ愚モ甚シ』ト

又民主黨系ニ屬スル「フランクフルター、ツァイツング」ハ左ノ如ク論セリ

『帝國議會ノ多數黨ハ其ノ實國民ノ意向ニ背戾セルモノナリトノ理由ヲ以テ帝國議會ヲ

解散スヘシト論スルモノアリ然レトモ予ハ帝國政府ハ議會解散ノ要求ニ從フ程愚昧ナラサル可キヲ信ス新宰相ハ屢々議會ト協同親和スルノ意思アルヲ聲明シ又實際的施設ヲ以テ此聲明ヲ實現シタリ

但シ帝國議會多數黨ハ必要ノ場合ニハ甘ンシテ國民ノ判斷ヲ受クルモノナル事勿論ナリトス』ト

第十一 獨國鋼及糧食ノ交換ニ付テ蘭國ト協定スル件

(十月二十七日ニユーヨーク、タイムス)

BERLIN MAKES DEAL WITH DUTCH FOR FOOD EXCHANGE FOR STEEL

AMSTERDAM, Oct. 26.—The Norddeutsche Allgemeine Zeitung, the semi-official German Government organ, says that an agreement has been concluded between Holland and Germany which will extend over six months, by which Holland will get German and Belgian coal, iron, and steel, covering Holland's main requirements, while Germany will obtain Dutch foodstuffs, chiefly cheese and butter.

The newspaper adds that a group of German banks will arrange an exchange of credits for the purpose of adequately covering the payment of balances.

第十二 獨逸鐵類供給ヲ條件トシテ蘭國船舶ヲ管理センコトヲ企ツルノ件

(十一月二十七日ニユーヨーク、タイムス)

GRASPS FOR DUTCH SHIPS

GERMANY AIMS AT CONTROL THROUGH STEEL SUPPLY, IT IS ASSERTED.

AMSTERDAM, Oct. 10, (Correspondence of The Associated Press.)—Germans are attempting to secure entire control of the Dutch mercantile marine during and after the war, as Holland, having no iron and steel for ship construction or repair, is obliged to obtain these materials from Germany, writes the special correspondent here of The London Times. The conditions imposed by Germany for supplying iron and steel place Dutch shipbuilders, he asserts, at the mercy of the Germans.

All the Dutch shipyards receiving German iron and steel are under contract to the Germans to make a return of all details connected with ship construction and repair and with the ultimate destination of the vessel, such as the person to whom the shipbuilder contemplates selling. Any dispute arising has to be settled by a German court at Essen.

In addition the Germans insist that all Dutch shipbuilders and owners receiving

German iron and steel shall sign a contract valid for five years after the war that they will not sell any ship without giving Germany the right of refusal, and that they will not allow their ships to be employed directly or indirectly for the benefit of Germany's present enemies. The Dutch Government Iron and Steel Committee has advised builders and owners not to accept these last two conditions.

No ship is allowed to be repaired with German iron and steel by any firm on the German black list, but the Germans are prepared to waive this prohibition on a condition of generous subscription to their war loan.

Notwithstanding these measures, the Dutch have overcome in some cases the Teutonic attempt to letter shipowners, as appears from a circular by Dr. Sturm, officially known as The Hague representative of the Berlin Export and Import Office. Certain Dutch shipbuilders signed a declaration which was not binding, and several ships therefore have gone to England.

"Unless something is done to counter German action all Dutch merchant shipping will very soon come under German control," asserts the writer.

第十三　食料品軍需品其他ノ取締ニ關スル件

（一）獨逸ノ給養ニ關スル事項

（イ）ドレスデンニ於ケル戰時經濟說明會ニ於ケル給養次官等ノ給養ニ關スル演說

（外事彙報大正六年第十二號）

（大正六年八月三十一日附報告）

獨逸新聞ノ報道ニ依レハ給養次官ドクトル、アウグスト、ミユルレル氏ハ八月二十四日ドレスデンニ於テ催サレタル戰時經濟說明會議ニ臨ミ大要左ノ如キ演說ヲナセリ

『吾人ハ目下平時口糧（Friedensration）ノ五分ノ三ヲ備フ尤モ之ハ量ニシテ品質ニハアラス何トナレハ吾人ニハ重要食料品殊ニ脂肪及蛋白質ヲ缺クカ故ナリ

今迄ノ情報ニ依レハ今年ノ麥作ハ充分ナリ馬鈴薯モ良作ナリ併シ飼料ハ極メテ適度ノ作ナリ

人間ノ營養ニ必要ナル麥及馬鈴薯ニテ家畜ヲ飼フコトハ絕對ニ妨ケサルヘカラス併シ豚ヲ餘リ早ク多數ニ殺スコトモ避ケサルヘカラス

吾人ハ目下ノ「パン」量及脂肪量ヲ維持シ得ンコトヲ希望シ又肉ハ一時目下ノ量ヨリ增加シ得ンコトヲ希望ス馬鈴薯ハ飼料ノ不足額ニ應シテ豚ノ保有高ヲ減スル場合ニハ多分充分ニ供給スルコトヲ得ヘシ此方面ニ於テハ人ノ知ル如ク既ニ必要ノ措置ヲ執レリ

吾人カ豚ヲ肥ヤス以前乳牛種獸及使役獸ノ飼料ヲ第一番ニ補ハサルヘカラス故ニ多數ノ豚ヲ屠殺スルコトモ免レサルヘシ云々』

又ハルレーノアブデルハルデン教授ハ同會議ニ於テ「戰爭ト健康」ト題シ大要左ノ如ク曰ヘリ

貴重ノ物質カ利用セラレスシテ人體ヨリ排泄セラルルコト從前ヨリ大ナルコトハ大便ノ檢査ニテ證セラレタリ凡テ人間ハ多少貪食スルコトハ大便ニ排泄セラルル窒素ノ量ニ就テ證明シ得タリ

目下ノ營養狀態ニテハ石炭及瓦斯ノ缺乏ハ堪フヘカラス目下食物ヲ良ク咀嚼スルコト又一ノ愛國的行爲ナリ

我食料品ノ品質ハ宜シ但シ牛乳不足ノ爲メ石灰缺乏ス此石灰ハ或特別ノ「プレパラート」ニ於テ人體ニ導クコトヲ得

目下所々ニ發生スル流行病ハ Kohlrübe（蕪菁ノ一種）ノ食用ニ歸ス Kohlrübe 中ノ有害ナル物質ニ就キテハ研究未タ終ラス昨冬獨逸ニ於テハ寒氣甚タシカリシ爲メ久シク馬鈴薯ヲ供給スルコト能ハサリキ故ニ當局者ハ之カ代用物トシテ比較的寒氣ニ侵サレサル Kohlrübe（蕪菁ノ一種）ヲ供給シタリ

（アブデルバルデン教授ハ Kohlrübe ヲ食ハサル樣注意セリ）

目下ノ營養狀態ハ小供及中年ヲ害スルコト少ナク最早抵抗力ナキ五十歳以上ノ老人ヲ害スルコト多シ特ニ肺炎ニ依ル死亡率增加セリ肺結核モ增加シタリ

同教授ハ可成蔬菜ヲ馬鈴薯或ハ他ノ物質ト混シ食スルコトヲ薦メタリ

（ロ）獨逸ノ戰時給養局擴張並ニ新給養局長フォン、ワルドーノ給養ニ關スル談話

（大正六年九月十八日附報告）

昨年五月二十二日獨逸帝國宰相ベートマン、ホルウェツヒ氏ハ聯邦參議院（Bundesrat）ノ命令ニ基キ戰時給養局（Kriegsernährungsamt）ト名ツクル一局ヲ設ケテ帝國宰相ニ直屬セシメ其ノ總裁ニハ東普魯西亞州知事フォン、バトキ氏ヲ任命セルモ同氏ニ附與セル權限不充分ニシテ新局ノ任務ヲ根本的ニ解決スル能ハス況ンヤ各聯邦各州及各郡カ互ニ交付ヲ禁シ居ル以上到底國民給養ノ統一ヲ計ルコト不可能ナリ特ニ戰時給養局ト普魯亞農務省トノ間ニ一間ノ反對存在セシ爲フォン、バトキ氏ハ種々ノ困難ヲ見タリ本年二月普魯西亞政府カ Der Preussische Staatskommissar für Ernährung 普魯西給養委員ナル職ヲ設ケ時ノ普魯西亞大藏次官ドクトル、ゲオルグ、ミヒアエリス氏（現帝國宰相）ヲ之ニ任命シテヨリ普魯西亞ニ於テモ始メテ目的ニ適フ給養執行ノ路ヲ拓ケリ

今回ベートマン、ホルウェツヒ氏帝國宰相ノ椅子ヲ去ルニ當リフォン、バトキ氏モ戰時給養局ノ總裁ヲ辭シタリ新宰相ドクトル、ゲオルグ、ミヒアエリス氏ハ最近戰時給養局ヲ帝國各省ト同格ニ昇セ其ノ長官ヲ尙書（Staatssekretär）トシ而シテ尙書ノ下ニ二名ノ侍郎（Unterstaatssekretär）ヲ置ケリ同省ノ尙書ニハポーゼン州知事フォン、ワルドー氏ヲ迎ヘ同時ニ普魯西亞給養委員ヲ兼ネシム而シテ普魯西亞給養委員タルフォン、ワルドー氏ニハ

給養制度ノ範圍ニ於テ普魯西亞ノ內務、農務及商務大臣ノ權限委任セラレタリ之ニヨリ戰時給養省ノ長官及普魯西亞給養委員ノ行フアラユル措置ノ間ニ統一行ハレ其ノ結果實施非常ニ簡單トナリ事務ノ進捗ヲ見ル大ナルヘシ戰時給養省長官ノ更迭ニ當リ同省ノ組織變更ハ計畫セラレス理事、給養顧問、帝國議會顧問、專門委員及婦人顧問ニ關スル制度ハ舊ノ如シ獨逸ノ新收穫年度ニ於ケル戰時給養經濟ノ方針ハ既ニ發セラレタル聯邦參議院ノ命令、所轄機關ノ同意ヲ得テ發セラレタル帝國宰相ノ命令及戰時給養局前總裁ノ發シタル命令ニヨリ確定セラレタリ之ハ新任者ニ對シテモ施措ノ標準タルヘシ

今回軍需局（Kriegsamt）給養部ノ事務戰時給養省ニ移サレタルヲ以テ全國民ノ給養（軍需品製造工業ニ從事スル勞働者ノ給養ヲモ含ム）ニ對スル管理ハ最早一手ニ歸シタリ新給養尙書フォン、ワルドー氏ハ當經濟年度ニ於ケル國民給養ノ豫想ニ就キ大要左ノ如ク語レリ

『目下ノ時期ニ於テ我狀態ヲ精知セルコトハ猶自然的ニ不可能ナリ穀類ノ收穫ハ猶進行中ニテ目下收穫ノ結果ヲ見積ルニ必要ノ基礎ヲ缺ク然レトモ今迄帝國ノ大部分ヨリ到着シタル報告ハ「パン」穀物（小麥及裸麥）ノ供給ハ全年ニ對シ保證セラレ居ルコトヲ是認ス場所ニヨリテ大ナル相違アレトモ一般ニ平作ナリト思ヒテ差支ナシ

馬鈴薯ノ收穫ハ目下ノ報告ニテハ滿足ナリ今後氣候ニ特別ノ變化起ラサル限リ最早其ノ收穫ニ大ナル害ヲ及スコトナカラン

帝國馬鈴薯所（Reichskartoffelstelle）ノナシタル準備ハ確ニ去ル年度ニ於ケルヨリモ此經濟年度ニ於ケル馬鈴薯ノ供給ニ好結果ヲ齎スナルヘク又吾人カ最近數箇月ニ涉リ忍ハサルヘカラサリシ如キ大苦痛ヲ免レ得ヘキコトヲ思ハシム

飼料穀物（燕麥、大麥等）及蒭租ノ狀態ハ甚タ困難ナリ其ノ收穫成績ハ千九百十五年ヨリモ尙劣ルナラン而シテ軍隊、農業、工業及都會ノ使役馬ニ對スル飼料ノ需要ヲ互ニ平均セシムル爲ニハ熟慮ヲ要ス是非必要ナル軍隊ノ需要ニ充ツル傍ラ農業生產ノ維持ヲ第一ニ顧慮セサルヘカラサルコトハ無論ナリ之ニハ農業經營ニ是非必要ナル輓獸ノ給養ヲ充分ニ保證スルコト必要ナリ其ノ外都會及戰時經濟上必要ノ工業ニ於テ使用スル馬ノ給養ヲ可能ナラシムルコトヲ要ス（注意、最近戰時給養省ノ帝國議會顧問會議ニ於テ競馬ニハ增加口糧ヲ與ヘサルコト及純奢侈用ノ馬ヲ有スルコトヲ全然禁スルノ動議提出セラレタリ）此要求ヲ入ル、時豚ヲ肥ス爲及牛ノ現在高ヲ維持スル爲ニ充分ナル飼料ヲ供給シ得ストセハ正當ノ時期ニ即チ冬ノ入リ前ニ豚及牛ノ有高ヲ計畫通リ減セサルヘカラス此事ハ肉ノ供給並ニ牛乳及脂肪ノ製造ニ對シ自然的ニ影響ヲ及ホスナラン肉ニ就テハ其ノ口糧ヲ一時增加ストモ再ヒ制限セサルヘカラサルヘク牛乳及「バタ」ノ供給維持ハ冬ニ於テ特ニ困難トナルヘシ果實及蔬菜ノ供給ハ最近良好トナレリ秋季蔬菜ハ到ル處平等ナラス部分的ニ旱魃起リ且多數ノ害蟲發生ノ爲多クノ望ヲ囑シ難シ貯蓄ハ公ノ管理及是ニヨリ必要トナレル穀物ノ措置ニヨリテ腐敗セシメサル樣特別注意ヲ拂ハサルヘカラス

目下「パン」穀物ノ貯蓄ハ早ク打禾スル結果腐敗ストノ風說廣カリ居ルモ帝國穀物所ハ之ニ關シ到着セル凡テノ報告ニツキ精細ニ調査セル結果斯カル損害ハ起リ居ラサルコトヲ確メ

得タリ不適當ナル穀物ノ貯藏ヲ防止センカ爲ニ帝國穀物所ハ凡テノ用意ヲナシタリ而シテ目下同所ニ申シ出ツルヨリモ尚多量ノ穀物ヲ貯藏スルニ充分ナル倉庫ヲ所有ス此處彼處ニ起ル汽車ノ停滯ニヨリ穀物ノ引取屢々延引スルコトアルハ免レ得ス併シ斯カル場合ニハ穀物ハ引取後直ニ適當ニ取リ扱ハル必要ノ場合ニハ人工的ニ乾燥セラレタリ斯クシテ今迄損失ヲ避ケ得タリ

最後ニ新給養尙書フォン、ハルドー氏ハ『余ハ獨逸國民ノ不動ト見識及農業家ノ義務ト觀念トニ信頼シ獨逸國民ハ必スヤ第四戰時經濟年度ノ給養難ニモ打勝ツナランコトヲ確信ス』ト述ヘタリ

（八）敵國間ニ於ケル羅馬尼收穫物ノ分配

（大正六年十月一日附報告）

最近着ノ"Neue Freie Presse"所載ニヨレハ昨年十二月二日ヨリ今年九月十五日迄ニ中歐國カ羅馬尼ヨリ輸出シタル穀物及飼料ハ遙ニ一百萬噸ヲ超過シタリ而シテ其分配ハ同盟者ノ共同商議ニヨリ各々ノ需要ニ應シテ確定セラレタルカ其際墺太利カ今春遭遇セシ苦境ニ就キ大ニ斟酌セラレタリ先ツ全輸出ノ半以上ハ墺太利、洪牙利ニ行ケリ墺洪ノ次ニハ獨逸カ輸出ノ大部分ヲ得タリ然レトモ墺洪ニ對スノ輸出量ヨリ約十五萬噸少ナカリキ土耳其及ブルガリヤモ墺洪及獨逸ト同樣自國ノ收穫ニヨリ供給セラレ得サリシ丈ケノ最モ急迫セル需要ヲ羅馬尼ヨリ充足シ得タリ墺太利、洪牙利ヘノ主ナル輸入ハ小麥及玉蜀黍ナリキ獨逸ヘノ小麥輸出ハ墺太利ヘノ小麥輸出ニ比シ約三ト五トノ比例ナリシニ獨逸ヘノ玉蜀黍輸出ハ墺太利、洪牙利ヘノ玉蜀黍輸出量ニ超過セリ獨逸ハ油果實ノ需要ノ大部分ヲ羅馬尼ヨリ充足シ得タリ又ブルガリヤハ鹽ノ供給ヲ得タリ

（二）獨逸ノ麵麭分配量

（大正六年十月十五日附報告）

獨逸ハ當分目下ノ「パン」分配量（一人一週間ニ對シ千九百五十瓦）ヲ維持スヘシトノ件ニ關シ十月四日ノ"Berliner Tageblatt"ハ獨逸當局者ノ通知ニ基キ左ノ如ク報セリ

『全經濟年度ヲ通シテ目下ノ「パン」分配量ヲ維持センニハ本年八月行ヒシ收穫見積ノ結果我「パン」穀物（Brotgetreide）ノ伸張（Streckung）（他ノモノヲ混シテ其量ヲ增スコト」ヲ必要トス幸ニ我カ今年馬鈴薯收穫ハ良好ナリシ故此伸張ヲ爲スコトヲ得然レトモ乾シタル馬鈴薯製調品ノ古キ貯藏品（Vorrat）ハ存在セサル故「パン」ノ伸張ハ馬鈴薯粉ニヨリ來年二月一日ヨリ始ムルコトヲ得此ノ時期迄ニハ必要ノ貯藏品集メラル、ナラン「パン」ノ伸張ハ今年ノ十一月一日迄全然計畫セラレス其迄ハ目下ノ麥粉（Mehl）分配量（一人一日ニ對シ二百二十瓦）ハ續イテ交付セラル十一月一日ヨリ二月一日迄ノ時期ニ於テ二百瓦ノ麥粉分配量ヲ一割丈ケ伸シ得ル爲ニ市町村ニ或量ノ生ノ馬鈴薯ヲ供給スヘシ之ヲ以テ戰爭ノ最初ノ二年ニ於ケル分配量ハ復活ス市町村中此伸張ヲ行ハス寧ロ住民ニ馬鈴薯ニテ分配スルヲ擇フモノアル時ハ其市町村ハ馬鈴薯ノ一人一週間ニ對スル分配量

ヲ増加スル權利アルヘシ然ル時ニハ其ノ増加量ハ一人一週間ニ對シ約一封度半ナラン（新收穫後ニ於ケル馬鈴薯ノ一人一週間ニ對スル分配量ハ例ヘハ伯林ニ於テハ五封度ヨリ七封度ノ間ニアリ此移動ハ毎週ノ終ニ於ケル市ノ馬鈴薯貯藏高ニ依ル）穀物ノ磨上九十四「パーセント」ノ規定ハ當分之ヲ繼續セサルヘカラス九月二十日ヨリ十月五日迄ニ行ハル、收穫見積カ良好ナル場合ニハ剩餘收穫ハ麥粉配量ノ増加ニ利用セス磨滅ニ利用セラル、ナラン之ニヨリ「パン」ノ品質ハ著シク改良セラレ同時ニ飼料トシテ必要ナル糠ハ我カ農業ニ供給セラル、ナラン

（二）獨逸ニ於ケル馬鈴薯及麥收穫良好

（大正六年十月十日附在瑞西帝國特命全權公使三浦彌五郎報告）
（通商公報第四七六號）

十月十九日「ウォルフ」通信ニ依レハ獨逸ノ各地ヨリ到着スル報道ハ馬鈴薯ノ收穫佳良ナルコトヲ示シ特ニ東普魯西ニ於テハ優良ニシテ「ハーバー」ニ於テハ最近十年間今年程多額ヲ得タルコトナシ南獨逸モ北獨逸ト同様ニ收穫良好ナリ且ツ分量ノ豐富ナルノミナラス其品質モ上等ナリ都市ニ對スル馬鈴薯供給ハ今ヤ滿足トナレリ麵麭製造ニ多分馬鈴薯粉ヲ使用スルコトヲ再始スルニ至ルナラン

麥ノ收穫ハ平作以上ニ達シタリ獨逸ニ於ケル麵麭供給ハ次ノ收穫期迄ハ今ヤ確實トナレリ

（三）獨逸ニ於ケル屑物及原料品蒐集ニ付テ

（大正六年九月十日附在瑞西帝國特命全權公使三浦彌五郎報告）
（通商公報第四七一號）

海外ヨリ食料品及原料品ノ輸入杜絶セル獨逸ニ於テハ其後アラユル屑物及從來十分注意セサリシ一切ノ原料ノ利用ニ努メ到ル處ニ活潑ナル蒐集活動開始セラル今同之等ノ蒐集作業ヲ總括センカ爲ニ在伯林軍需供給局（Kriegsamt）內ニ蒐集及扶助勤務ニ對スル戰時委員會（Kriegsausschuss für Sammel-und Helferdienst）新設セラレタリ同委員會ハ先ツ現在ノ蒐集組織ヲ完成シ必要ノ場合之レヲ補足スルモノナリト云フ蒐集作業ニ際シ最モ困難ナルハ人手ノ不足ト運送難トニテ之レヲ排除スルニハ是非軍事當局ト共同動作スルヲ要ス故ニ今後右連絡ハ軍需供給局長（Chefdes Kriegsamts）ノ支配ヲ受クル新設戰時委員ニヨリツケラルヘシ

獨逸ノ屑材料及野生ノ果實蒐集ニ關シ最近 Norddeutsche Allgemeine Zeitung 紙上ニ屑材料及野生ノ果實ヲ蒐集セヨト云フ題ニテ顯ハレタル記事ノ大要左ノ如シ

一切ノ屑物ハ國民給養及原料供給ノ爲メ剩餘ナク利用スルコト我カ戰時經濟上如何ニ必要ナルカ吾人ハ之レニ付始終注意セサルヘカラス兎ニ角此目的ニ適シ或ハ從來使用ニ當リ尙完全ニ利用セサリシモノハ今後一層注意シテ決シテ放置スヘカラス工業ノ營業或ハ家計ヨリ生スル最モ僅ノ屑物ニテモ大切ニ保存セサルヘカラス價値ナキモノハナシ最モ僅ノ量ニテモ價値ヲ有ス些々タル物體ニテモ尙何等カノ役ニ立ツヘシ殊ニ料理屑ハ穢ナキ隅ニ貯メ

或ハ以前炭又類似ノモノニ用ヒタル箱等ニ於テ保存スヘカラス之レハナルヘク清潔ニシテ貯メ置クヲ要ス、紙、炭鉄片、木片及金屬小片、灰及類似ノモノハ料理屑ト混スヘカラス珈琲糟モ馬鈴薯屑及蔬菜屑ヨリ分チテ保存セサルヘカラス之レハ貴重ナル飼料補充物タリ珈琲糟ハ目下毎月三千「ツェントネル」モ家畜ノ飼料トシテ應用セラル紙屑（百基瓦ニ對シ平均八馬力乃至十馬力仕拂ハル）古キ瓦斯管、蛇管、其他ノ護謨屑（之等ニ對シテモ同シク高ク仕拂ハル（塞子、塞子屑、女ノ髪（女ノ髪ハ一基瓦十四馬克、此蒐集ニハ女學校ノ生徒等盡瘁シ得ヘシ）都會及田舍ノ何レノ家ニモ存在スル如キ各種葉鐵小片及金屬小片、骨（石驗用脂肪、骨越幾斯、「スープ」藥味、飼料粉、其他ノ製造ニ）果實ノ核子（油ヲ製スルニ）等總テ集メサルヘカラス利用所（Verwertungstelle）モ是等ニ對シ相應ニ仕拂フヘシ然レトモ單ニ之レ等ノ屑ノミノ蒐集ニ熱中スヘカラス尚野生ノ果實及野生ノ蔬菜モ蒐集セサルヘカラス吾人ハ未タ餘リ尊重セサリシ富ニシテ我カ森、畑及野ニ於テ發見スルヿ如何ニ多キカヲ見ヨ此處ニハ Weissdarn-Früchte（「サンザシ」ノ實）珈琲ノ代用物トシテ控ヘ彼處ニハ槲實及栗食料及飼料在高ヲ增加セントシテ待チ Brennessel（「イラクサ」屬）ハ織物ノ材料ニ利用サル、ノミナラス美味ナル「サラダ」トシテ熱望セラル又「クロイチゴ」（Brombeerstrauch）「エゾイチゴ」、（Himbeerstrauch）及「オランダイチゴ」（Erdbeerpflanzen）ノ葉ハ茶ノ代用物トシテ歡迎セラル而シテ未タ知ラレサルモ普通ノ蔬菜ニ比シ何等遜色ナキ野生ノ蔬菜及「サラダ」ガ如何ニ豐富ナル撰擇ヲ人ノ前ニ呈スルカヲ見ヨ今其二、三ヲ擧クレハ「スカンポ」（Suerampfer）Melde（「バマアカザ」ノ類）Wegerich（「ハコベ屬」）「ノコギリサウ」（Schafgarbe）「キヅタ」（Hederich）野生唐花草（Wilder Hopfen）「アルカナ」（Ochsen-zunge）「タンポポ」（Löwenzahn）「ワレモカウ」（Pimpinelle）Rapunzel（「サラダ」ノ一種）落花生（Erdnuss）月見草（Nachtkerze）Rohrkolben（荳蔻花ノ類）ノ甚タ美味ナル根慈姑（Pfeilkraut）「クノップクラウト」（Knopfkraut）常春藤（Gundermann）等ノ如シ

實際是等ノ蒐集ヲ大キク且ツ多方面ニ渡リテ確實ニナサハ必ス其目的ヲ達シ得ヘシ此活動ニ協力スルハ我々家ニ殘レルモノ祖國ニ對シ盡スヘキ當然ノ義務ナルカ故ニ何人ト雖拒ム能ハス既ニ多クノ都會及村落ニ於テ存在スル彼ノ熟慮セル組織ハ著々效果ヲ收メ居ルカ故ニ未タ斯カル組織ナキ市及村ニ於テハ速ニ之レヲ起ス樣其行政機關ニ向ツテ始終警告ヲ與ヘサルヘカラス教員及組合ノ指導者等ハ力メテ愉快ニシテ教訓的且ツ有益ナル遠足會ヲ催シ以テ蒐集熱ヲ鼓舞スヘキナリ尚斯カル組織ヲ如何ニシテ作ルヘキカ之レヲ最モ目的ニ適フ樣ナスニハ如何ニスヘキカニ付テハ在伯林（軍需供給局）內蒐集及扶助勤務ニ對スル戰時委員會ヨリ詳細ナル指圖ヲ與フヘシ

（四）獨逸ト熱帶農產物

（大正六年八月十四日附在瑞西帝國特命全權公使三浦彌五郎報告）

（通商公報第四六五號）

曩ニ中央阿弗利加獨逸殖民地建設ヲ唱道シテ著名ナルエミル、チンメルマンハ八月十日發刊「フォシッシェ、ツァイツング」ニ獨逸ト熱帶性農產物ナル一論文ヲ寄セ工業原料、食料、

家畜飼料補給ノ爲メ歐洲東部占領地ヲ併合スヘシトノ議論ハ著實ニアラス歐洲ノ永續的平和及獨逸將來ノ經濟ノ發達ヲ確保センニハ熱帶地域領有ノ外明案ナシト論結シ大要左ノ意見ヲ發表セリ

今同ノ戰爭ニ依リ獨逸カ從來穀類、馬鈴薯、砂糖、牛乳及肉類ニ關シ著シキ程度マテ海外輸入ニ依賴シ居リタル事項明白トナリ獨逸ニ於テハ近來農業地擴張ノ要求漸ク勢力ヲ增加セリ開戰ト同時ニ年額三億六千四百五十萬麻克ノ大麥輸入杜絕シ尙吾人ハ馬鈴薯及穀類ヲ十分所持セサリシ爲メ家畜飼料ノ缺乏ヲ顧慮シ千九百十四年豚ノ大屠殺ヲ行ヒタルカ右以來獨逸ノ豚總數ハ再ヒ戰爭前ノ狀態ニ回復セス目下肉類供給ノ原料ハ著シク稀薄トナレリ

獨逸ノ牛類總數ハ從前ト同一ノ情態ヲ維持シ居ルモ牛乳ノ產出ハ甚タシク減退シハレル大學農科主任ウォルトマン教授ノ說ニ依レハ戰爭前ニ比較シ千九百十六年ニハ約半額ニ低下セリ尙右減少ハ全ク熱帶及准熱帶產含油飼料輸入杜絕ニ起因セルモノニシテ含油飼料ハ著ルシク牛乳ノ產量及脂肪分ヲ增加スル效果ヲ有シ間接ニハ農業上極メテ重要ナル厩肥ヲ產出シタリ然ルニ戰爭後是種飼料缺乏ノ爲メ厩肥料ハ殆ト皆無ノ有樣トナリ農作上ニモ尠ナカラス影響ヲ及ホシタリ換言セハ熱帶產物輸入杜絕ノ爲メ植物性脂肪及動物性脂肪ノ大不足ヲ惹起シ吾人ハ「カカオ」ヲ喫スル能ハス牛乳ノ消費ヲ制限セサル可カラサルコト、ナリ又厩肥減少ノ結果穀類、馬鈴薯及甜菜ノ產額ヲ削減セリ

獨逸農業ニ關シ人造肥料ノミヲ使用シテ豫期ノ成績ヲ擧クル能ハス厩肥代用トシテ人造肥料カ農產物ノ產額減退ヲ防止シ能ハサル事實ハ今回戰爭中ノ經驗ニ依リ明瞭トナレリ前述ノウォルトマン博士主張ノ通リ厩肥ハ將來ニ亘リ獨逸農業ニ重要ノ關係ヲ有スヘク又國民ノ重要食料タル動物性脂肪產出ノ見地ヨリ家畜飼料タル油性果實、植物性油糟及大麥ノ產出ハ獨逸農業ノ基本的要素タルヘク從ツテ以上ノ產物ヲ獨逸領地ニ於テ產出セントスル希望ハ正當ト認ムヘキモノナリ

以上油性果實、大麥產出ニ關スル專門家ノ意見ハ頗ル有益ナルモ其計算ハ正鵠ヲ失セル點尠ナカラスシュルテ博士ハ右ニ關シ內地產額及輸入數量ヲ比較シ輸入額ニ相當スル油性果實、大麥等ヲ產出スルニ幾何ノ土地ヲ要スヘキカヲ研究シ其結論トシテ家畜飼料產出ノ爲メ新ニ三百三十三萬「ヘクタル」（一「ヘクタル」ハ一町二十五步）又國民食料增加ノ爲メ二百萬「ヘクタル」ノ土地ヲ要求スト述ヘ又ウォルトマン博士ハ國民及家畜食料ノ兩者ニ對シ農作地及牧草地ヲ合シテ四百萬「ヘクタル」ノ土地ヲ要スト論セリ獨逸現在ノ農作地域カ二千六百萬「ヘクタル」又各種牧草地八百五十萬「ヘクタル」ニ達セル事實ニ鑑ミ以上ノ計上ハ決シテ多額ニアラス

然レトモ兩博士ノ見解ハ諸種ノ點ニ於テ誤謬ヲ包含ス例ヘハ右兩者共獨逸現在ノ農作地二千六百萬「ヘクタル」ノ產物ハ大體獨逸國民及家畜ヲ給養シ得ルモノナリト假定シ立論セルモノナルカ同時ニ從來ノ收穫ハ熱帶及准熱帶ヨリ油性飼料ヲ輸入シ其間接ノ結果トシテ土地ニ十分ノ厩肥ヲ與ヘタル結果タルコトヲ忘却セリ

又獨逸ニ輸入スル椰子實及其乾核ハシュルテ博士カ計算セル如ク熱帶地四十三萬四千「ヘクタル」ノ產出ニアラスシテ恐クハ右ヨリ五十倍乃至百倍モ大ナル地域ヨリ產出セルモノ

ナルヘシ從テ若シ吾人カ歐洲東部ニ於テ二百五十萬「ヘクタル」ノ土地ヲ併合スルニ於テハ油性果實ノ產出ニハ十分ナリトノ說ハ大誤謬ナリ何レニシテモ東部地方ニ於テ含油性植物ヲ栽培セントスルニハ其價格現時ノ如ク平時ヨリ四五倍モ騰貴セルニアラサレハ引合ハサルヘク生產費ヲ顧ミサルニ於テハ棉花及落花生ノ如キ溫室ニテモ培養スルコトヲ得ヘシ

實際問題ノ立場ヲ離レサル人士ハ獨逸及其附近地域ニ於テ含油性植物ハ氣候最モ溫暖ナル地方ニ限リ發育シ尙一層有利ナル產物ニ利用シ能ハサル土地ニ限リ栽培シ得ルモノタルコトヲ了解セルナルヘシ故ニ新ニ二百五十萬「ヘクタル」ノ油性植物耕地ヲ獲得セントスルニハ少ナクトモ其十倍乃至二十倍ノ土地ヲ併合セサル可カラス又假リニ併合スルトスルモ果シテ豫期ノ如キ結果ヲ得ヘキヤ疑問ナリ

次ニ大麥耕作地トシテ歐洲東部併合ノ可否ヲ判斷セン吾人ハ從來二千六百萬頭ノ豚ヲ飼養シ年額三百萬噸其價額三億六千四百五十萬麻克ノ飼料大麥ヲ輸入シ外ニ豚及豚肉五千萬麻克竝ニ豚脂肪約一億二千萬麻克ヲ輸入シタリ故ニ將來右輸入全部ヲ中止スルモノトセハ四千萬頭ノ豚ヲ飼養シ其飼料トシテ大麥前揭ノ輸入額三百萬噸及新需要高二百萬又ハ三百萬噸合計五百萬乃至六百萬噸ヲ新ニ產出セサル可カラス然ルニ露國ニ於テ一「ヘクタル」ノ大麥產額ハ約一噸ナルヲ以テ五百萬噸ヲ產スルニハ五百萬「ヘクタル」即チ五萬方「粁」ノ土地ヲ必要トス又土地併合ノ場合ニハ食料ヲ要スル住民及動物ヲモ引受ケサル可カラス故ニ五萬方「粁」ノ新耕地ヲ得ルニハ事實上十二萬乃至十五萬方「粁」ノ土地ヲ領有セサル可カラサル結果トナルヘシ尙吾人カ籠城主義ノ農業政策ヲ採用シ熱帶殖民地希望ヲ拋棄スルニ於テハ獨逸農作地ハ上述ノ通リ厩肥缺乏ノ爲メ著ルシク產出力ヲ減退シ千八百九十三年當時ノ情態ニ逆戾リスヘク其結果獨逸平準產額タル麪麭穀類ハ一億七千三百萬「ドッペルツェントネル」ヨリ一億三千萬「ドッペルツェントネル」ニ馬鈴薯ハ四千五百萬乃至五千萬噸ヨリ四千萬噸ニ、又燕麥及大麥ハ一億二千萬乃至一億三千萬「ドッペルツェントネル」ヨリ六千五百萬「ドッペルツェントネル」內外ニ減少スヘシ

結局東部地方ハ大麥、豚肉及ヒ脂肪ノ產出ニ關シテハ見込ナキニアラサルモ油性植物栽培ノ見込ハ殆ト皆無ナルモノナリ吾人ハ千九百十三年ニ油性植物四萬六千「ヘクタル」ヲ栽培シ五十三萬九千「ドッペルツェントネル」ノ收穫ヲ取得シタリ假ニ吾人カ同栽培地ヲ五十萬「ヘクタル」ニ其收穫高ヲ五百萬乃至六百萬「ドッペルツェントネル」ニ增加スルモ尙平年ノ需要總高ニ達スルニハ油糟ニ關シ千七百萬乃至千八百萬噸又油性果實ニ關シ千二百萬乃至千三百萬噸ノ不足ヲ生ス

右ノ事情ナルヲ以テ東部地方ノ地質、氣候ハ獨逸本來ノ要求ヲ滿足セシムルニ不十分ニシテ又單ニ大麥及家畜ノ產出ヲ目的トスル大規模ノ併合ヲ實行セサル可カラス從テ獨逸カ同政策ヲ採用スルトセハ七千萬ノ獨逸國民ハ歐洲ニ於テ土地獲得慾望ノ爲メ永久戰爭ヲ繰返スモノト覺悟セサル可カラス之レ吾人カ熱帶農業地取得ヲ主張スル所以ニシテ熱帶殖民地建設ニ依リ始メテ歐洲平和ノ基礎ハ樹立シ獨逸ハ所要ノ油性果實、工業原料等ヲ取得シ經濟的獨立ヲ確保シ得ルモノナリ

（五）獨墺間ノ石炭協約墺國ヨリ獨逸ニ供給スル石油量及獨逸ヨリ中立諸國ニ供給スル石炭

（大正六年九月十日附報告）
（外事彙報大正六年第十二號）

（イ）獨墺間ノ石炭協約

八月二十八日維納ヨリノ通信ニ依レハ衆議院ノ戰時經濟委員會ニ於テ墺太利ノ土木大臣（Leiter des Ministeriums der Öffentlicher Arbeiten）ホーマン氏ハ左ノ如ク述ヘタリ

獨逸カ每月墺太利ニ「オーベルシュレジエン」炭五十二萬五千噸、匈牙利ニ二十九萬噸ヲ供給スルニ對シ墺太利ハ每月獨逸（即チバイエルン、ザクセン及普魯西ノ一部）ニベーメン產褐炭三十萬噸ヲ交付スル義務アリ

八月十四日維納ヨリ右ニ關スル協約ニ就キ大要左ノ如ク報セリ

昨年ノ半ハ墺太利ヨリ獨逸ヘ鑛油生產物ヲ交付スル件及獨逸ヨリ墺太利ヘ「オーベルシュレジエン」炭ヲ輸入スルノ件ニ關シ協約成立セリ其ノ際獨逸代表者ハ每月墺太利匈牙墺ニ「オーベルシュレジエン」炭八十一萬五千噸ヲ輸出スヘキコトヲ協定シタリ而シテ其ノ內ノ五十九萬五千噸ハ墺太利ニ廿二萬噸ハ匈牙利ニ分タルヘキ筈ナリキ然ルニ其後獨逸ハ獨逸ノ貨車カ非常ニ長ク墺太利及匈牙利內ニ殘留スル爲オーベルシュレジエンニ於テモ貨車ノ缺乏生シ墺洪ニ對スル輸入ヲ增スコト能ハストテ實際右ノ量ヲ交付セサリキ墺太利ノ中央運輸部ハ此苦情ニ基キ缺點ノ一部ヲ除去シタリ今年三月更ニ伯林ニ於テ談判ノ結果獨逸ハ墺太利及匈牙利ヘ九十萬噸ヲ輸出スルコトヲ約セリ其ノ內六十萬噸ハ墺太利ヘ三十萬噸ハ匈牙利ヘ行クヘキ筈ナリキ然ルニ獨逸ヨリ此石炭量ヲ交付セサリシノミナラス墺太利ノ褐炭相殺交付モ遲滯シタリシ故先月伯林ニ於テ新ニ交涉ヲ爲セリ其結果獨逸ハ千九百十六年ニ於ケル如ク每月墺太利匈牙利ニ少ナクトモ八十一萬五千噸ヲ交付セサルヘカラス此內五十二萬五千噸ハ墺太利ニ二十九萬噸ハ匈牙利ニ交付スルモノニシテ匈牙利ノ受クル量ハ千九百十六年ニ比シ十七萬噸多シ之目下彼地ニ於テモ石炭ノ生產普通ト見做ス能ハサル事情アルカ故ナリ在伯林石炭分配帝國委員（Reichskommissar für Kohlenverteilung in Berlin）ハ既ニ獨逸ノ石炭採掘業者等ニ注文ヲ發シタリ墺太利ノ獨逸ニ交付スヘキ石炭數量確定談判ハ「オーベルシュレジエン」炭輸入談判ト同時ナリキ北西ベーメン炭區及ファルケナウー、エルボーゲン炭區ヨリノ輸出ハ平時、月ニ七十萬噸乃至其以上ナリキ然レトモ同地方ニ於ケル生產力ハ開戰後減退セル爲此輸出ハ價格上墺國ニ取リ有利ナリシニセヨ三十萬噸ニ限ラレサルヘカラサリキ此褐炭三十萬噸ノ輸出ハ獨逸カ墺國ニ約セル最少量五十二萬五千噸ヲ實際交付スルコトヲ條件トスルモノナリ「オーベルシュレジエン」炭ニ關スル上述ノ最少量ハオーベルシュレジエン炭區ニ於ケル每日ノ貨車數一萬一千輛ヲ越ユル時ニ協定ニ依リ始メテ增加セラルヘシ

（ロ）墺太利ヨリ獨逸ニ供給スル石油量

最近維納ヨリVossische Zeitungニ寄セタル通信ニ依レハ露兵驅逐後尚ガリシヤニ於テ發見セラレタル石腦油ノ貯蓄ハ最早全部精製シ盡シタルチ以テ今後全ク新シキ生產ニヨラサルヘカラス故ニ墺國ハ獨逸ニ對シテモ又洪牙利ニ對シテモ當分石油ノ交付チ著シク制限セサルチ得ス即チ九月一日ヨリ獨逸ニ對シ石油ノ交付ハ每月千百七十五車ヨリ二百四十車ニ、瓦斯油ノ交付ハ每月千三百八十車ヨリ千車ニ減セラルヘシ但シ重油ハ二百五十車「パラフイン」及蠟燭ハ百四十五車及各種中間生產物ハ約百車チ交付セラルヘシ洪牙利ニ對スル石腦油ノ交付ハ每月千車ニ減セラレタリ目下羅馬尼ノ石油坑ハ驚クヘキ給付能力（目下既ニ每日二百車）ニ達シタルチ以テ此制限ハ獨逸ニ取リ餘リ苦痛トハナルマシ獨逸ハ二千車ノ羅馬尼石油ノ送付セラル、每ニ墺太利洪牙利ハ現存協定ニ依リ五百車ノ羅馬尼石油チ受領スヘシ

（ハ）獨逸ヨリ中立國ニ供給スル石炭量

（A）瑞西

獨逸ヨリ每月瑞西ニ供給スル石炭ノ數量ハ物品交換ニ關シ千九百十六年九月二日獨逸瑞西間ニ締結セル協約中ニ二十五萬三千噸ト定メアリシモ實際獨逸カ協約後瑞西ニ供給セル石炭ノ數量ハ大體左ノ如シ

千九百十六年九月	約二十三萬四千五百噸
同　十月	同二十一萬六千七百噸
同　十一月	同二十一萬八百噸
同　十二月	同十八萬七千四百噸
千九百十七年一月	同十九萬七千噸
同　二月	同十二萬六百噸
同　三月	同二十二萬三千六百噸
同　四月	同十九萬噸
同　五月	同十八萬七千三百噸
同　六月	同二十萬七千噸
同　七月	同廿一萬四千六百七十六噸

右ノ如ク獨逸ヨリ最近十一箇月間ニ於テ瑞西ニ供給セル石炭量ハ平均一箇月二十萬噸ニ達セサリキ

本年九月初獨逸瑞西間ニ批准セラレタル新協約ハ昨年九月ノ協約中ニ定メラレタル石炭供給量チ減シテ今後（千九百十八年四月迄）每月二十萬噸チ供給スルコトニ變更セリ新協約ニヨレハ獨逸カ每月二十萬噸ノ石炭チ瑞西ニ供スル場合ニ瑞西ハ每月二千萬法ノ信用チ獨逸ニ供與スルチ要ス

（B）和蘭

獨逸ハ和蘭ニ對シ每月三十二萬噸ノ石炭チ供給スルコトチ約セルモ事實ハ三十萬噸程チ供給スル由ナリ

八月三日ヘーグヨリ報スル處ニ依レハ石炭交付ニ關スル獨逸和蘭協約ハ本年七月三十一日ヲ以テ滿期トナルヲ以テ目下同問題ニ就キ交涉中ナリト八月三十一日伯林ヨリ報スル處ニヨレハ獨逸ハ最近瑞西ト締結セル公債類似ノ所謂「バルータ」ノ調節ヲ目的トスル公債締結ニ關シ目下和蘭ト談判中ナリ

（C）瑞典

瑞典ハ石炭供給ニ關シ獨逸ト協約（但シ三箇月目每ニ更新）スルコト既ニ年餘ニ達ス千九百十三年獨逸ヨリ同國ニ輸入セル石炭量ハ僅カニ四十一萬八千噸ナリシカ昨年ハ四百萬噸卽チ一躍シテ十倍ニ達セリト云フ

（D）丁抹

獨逸ハ丁抹ニ對シテハ其ノ需要ノ大部分ヲ供給ストト云フ

（E）諸威

獨逸ハ事情ノ許ス範圍ニ於テ諸威ニモ供給スヘシト云フ

本年二月Vossische Zeitung揭載ノ記事ニ依レハ和蘭、諸威、丁抹及瑞典ハ每月少ナクトモ左ノ量ノ石炭ヲ要スト云フ

和蘭	一箇月少ナクトモ三十五萬噸
諸威	一箇月少ナクトモ二十萬噸
丁抹	一筒月少ナクトモ十五萬噸
瑞典	一箇月少ナクトモ十五萬噸

（六）獨國ニ於ケル石炭缺乏ノ件

（十月十一日ニューヨーク、タイムス）

BERLINERS SHIVER TO CONSERVE COAL

LIGHTING OF FIRES BEFORE OCT. 15 IS PROHIBITED BY OFFICIAL ORDER.

BERLIN, Oct. 9, (via London, Oct. 10.)—The coal distribution authorities some days ago, when the weather was sunny and warm, decreed that before Oct. 15 no fires should be lighted anywhere in private or public, even in Government buildings. On Saturday the weather began to grow extremely chilly, and has continued so ever since. Men have been compelled to bring out their Winter overcoats, and women are decorating themselves with furs. Rain adds to the general discomfort.

The suburb of Schoeneberg asked the coal authorities to withdraw the order, but so far this has not been done. The weather prophets are certain that the sun will soon shine again as brightly as the season permits.

LONDON, Oct. 10.—The German State railways are faced with a great shortage of fuel, and drastic limitation of traffic has begun, according to reports reaching here. The railroads propose to levy heavy excess fares on express trains, so as to dis-

courage all except unavoidable business journeys. A large number of fast trains have been eliminated from the Winter timetables. The Württemberg railways will charge heavy excess fares for traffic on Saturday afternoons and Sundays.

The Department of Commerce has received reports on the coal shortage in Germany, from which the following extracts are taken:

"Like the iron and the potash industries the coal mining industry of Germany is unable to satisfy the demands made upon it. There is no lack of underground supplies, but it is impossible to bring sufficient quantities above ground, as is likewise the case with the other industries mentioned.

"Moreover, owing to the war, much larger demands are now made on the coal mines than in normal times. Stocks of coal at the mines, which could not be shipped during the past Winter for lack of transportation facilities, have disappeared, so that at the present time there are no supplies of coal or coke available for immediate shipment, and the quantities produced pass directly into consumption.

"The reduction in the output is due to three factors—an insufficient number of miners and their helpers, a lessening of the productive capacity of the labor force, and a lack of necessary equipment. The number of mine workers has been increased by the furloughing of 19,000 soldiers who are miners or mine managers by trade or profession. This has resulted in an increase of production, but the output is still insufficient.

"Not only in Germany, but also in Austria, which imports large quantities of coal from Germany, the fear is entertained that the supplies of fuel for the coming Winter will prove insufficient, and various measures are being taken to conserve the existing stocks.

"Even in the Ruhr district, which is so rich in coal, and in the City of Essen, where no gas has to be manufactured as the coke ovens of the mines furnish an abundance of gas as a by-product, both coal and gas have to be conserved. The consumption of gas is to be reduced by prohibiting the use of gas stoves in dwellings, and it is expected that electric heating will be prohibited altogether.

"Special regulations are expected concerning the heating of water, the equipment of bathrooms, the giving of baths in hotels, and the use of office rooms; several persons are to occupy office rooms which heretofore have often had but one occupant each, the Government permitting no exceptions. In the schools several classes are to share the same room.

"Peat and wood cannot take the place of coal, for the restrictions enumerated

above are being introduced in Germany even in the Ruhr district, notwithstanding the fact that the people there are cutting wood and digging peat."

第十四 雜件

（一）獨逸商船ノ戰後恢復ニ關スル法案英國議會通過ノ件

（十一月三十日ニューヨーク、タイムス）

DOUBLE SUBSIDY TO GERMAN SHIPPING

GOVERNMENT BOTH PAYS OWNERS FOR LOST VESSELS AND HELPS PAY FOR NEW.

German shipping interests, led by the Hamburg-American Line and the North German Lloyd, appear to have won a substantial victory over the masses of the German people through the bill for the restoration of the German merchant marine, which, according to cablegrams from Amsterdam received in New York in October, has passed the Reichstag and is likely to become a law within a short time. Details of the new bill, which was substituted for the original Ship Subsidy bill described in The New York Times of March 17, are found in copies of Berlin newspapers reaching London, and show that, far from the German Government having tightened its grip on the shipping concerns, it looks as if the big shipping interests had obtained a firmer control of the Government.

The provisions of the new bill make it possible, and almost imperative, for a commission of fourteen to be named by the Imperial Chancellor, with the approval of the Federal Council, not only to recompense tho owners for the ships they have lost through the war, but also to see that the German Government pays a share, running as high as 80 per cent. in some cases, of the extra cost of building the vessels that are to replace the lost craft. The Government and the big ship owners succeeded in having Reichstag overside the objections of the Socialist members, who talked and voted against the bill, and the German Empire will shortly be pledged to spend a sum which the lowest estimates, place at $250,000,000 for the purpose of rebuilding the German merchant marine.

The committee report to the Reichstag said that the Government insisted upon the urgency of legislation, on the ground that the shipbuilders must be enabled to make all their plans and to conclude contracts with the building yards. The Government said that it was aware of the seriousness of the new financial burden, but that direct grants, without any provision for repayment, would alone be satisfactory.

It was suggested that the immediate consequence of the passing of this bill would be a flood of similar demands from other industries. To this the Government replied that the position of shipping was quite peculiar, that its restoration was an absolute necessity, and that without a mercantile marine the whole German people would be unable to recover from the consequences of the war. German shipping had been peculiarly unprotected, because there was no immunity for private property at sea, and the losses of German shipping had been largely due to the measures of the German Government. In reply to the accusation that it was making a free gift to the very strongest German capitalists, the Government said that the bill was keenly desired by organized German seamen.

GOVERNMENT MONOPOLY REJECTED.

In view of the enormous expenditure involved it was suggested that the Government should take the whole matter into its own hands. The Government replied that nothing was less suited than shipping to form a Government monopoly, and that the effect of a Government monopoly would be "to threaten German trade with the loss of the international possibilities of expansion upon which its greatness has been based.

The Government successfully resisted all proposals that it should secure the right of purchase of subsidized ships, or that it should secure a share of the ultimate profits on subsidized ships. The Government, whose arguments throughout seem to have been those of the shipping men, said that the old mail steamer subsidies had not been a success, and that schemes for the division of profits between the Government and owners were not really practical.

There was a great deal of discussion as to the probable expenditure under the bill. The lowest estimate was $250,000,000, and this figure was accepted by the Imperial Treasury. But the German experts admit that the cost is increasing every day, owing both to the increased losses of shipping and to the increased cost of construction.

In the second reading debate the Government upheld all the arguments of the shipping interests; a National Liberal said that the great object must be to make Germany independent of British shipping after the war, and the argument was freely used that the more ships Germany can build the more she will save through the fact that the vast quantities of raw materials that Germany will need will be imported in German ships.

ABSOLUTE GIFT TO CAPITAL.

The strongest opposition came from the Independent Socialists. Their spokes-

man, a Bremen Deputy, named Alfred Henke, expressed the utmost skepticism about the Government estimates of probable expenditure, and said that the whole bill was the work of the shipping interests. The Government was making them an absolute gift, although it cared nothing about the workers in the textile and tobacco industries.

Henke said that the German shipowners were not only the most absolute capitalists, but the most international capitalists. It might be true that two-fifths of the German tonnage had been lost, but the value of the remaining three-fifths had been trebled. Moreover, many new ships had been ordered and would be completed. It was untrue that the position of the German mercantile marine was extremely had, and although it would not be so large after the war as it was before, there would be plenty of tonnage available. The present gift to the shipping interests amounted to at least as much as the whole of the capital originally invested in German shipping, and this gift, which was to be taken from the German taxpayers, workmen, and soldiers, would amount to more than the levy on capital in the year before the war. The present concessions to the shipowners would only encourage them to make fresh demands in order to meet the competition with the mercantile marine of other countries. Henke declared that the policy of subsidies could only be ended, like the expansion of armaments, by international agreement.

（二）獨國側ノ發表ニ係ル戰爭三年間ノ成績統計

（大正六年八月二日附報告）

（外事彙報大正六年第十一號）

戰爭三年ノ終リニ於テ獨國ハ戰勝ヲ誇ル爲メ左ノ統計ヲ公表セリ（八月一日北獨日報）

獨墺側ノ占領地ハ目下約五四八、七〇〇平方基米突ニシテ獨國全體ノ面積（五四〇、八〇〇）ヨリモ多シ右占領地ニハ四十七ノ要塞アリ

之ニ反シ敵國側ハ歐洲ニ於テ僅カニ一六、〇〇〇平力基米突ヲ占領シタルニ過キス而モ右ハ目下獨墺軍ノガリシヤ進軍ノ爲メ日ニ減少シツヽアリ

協商側人員ノ損失ハ露九百五十萬佛四百四十萬英百六十萬伊同シク百六十萬白二十四萬羅三十萬ニシテ白、蘭、瑞（西）ノ諸國人口總計ヨリモ大ナリ

獨墺側ノ有スル俘虜ハ約三百萬人ニシテ內約三萬人ハ士官ナリ

戰利品ノ內砲約一萬二千機關銃約五千トス尙航空機ノ射下セラレタルモノ約二千アリ

海上ニ於テハ敵ノ軍艦約九十三萬噸ヲ損失ニ歸セシメ又潜航艇ノ活動ニヨリ破壞シタル敵ノ商船ハ千萬噸以上ニ上レリ

戰費ニ於テハ敵國側約二千五百八十億廝克ナルニ對シ獨墺側ハ千七億廝克ナリ

（三） 獨逸側ヨリ見タル聯合側ノ士卒損失數及軍費額

（大正六年八月四日附報告）

（外事彙報大正六年第十一號）

八月四日伯林發「ヴォルフ」電報ハ本件ニ關シ左ノ報道ヲ傳ヘタリ

「周密ナル計算ニ依レハ戰爭開始ヨリ千九百十七年六月三十日ニ至ル損失數露西亞九百五十萬人、英國（印度人ヲ除キ）百六十萬人、佛蘭西四百四十萬人、伊太利百六十萬人、白耳義二十四萬人セルビヤ五十萬人、羅馬尼三十萬人ニ達シ總計千八百萬人ヲ超ユ聯合側ノ三年間ニ於ケル軍費ハ二千五百八十億麻克ニ達セルカ同盟側ノ分ハ千七十億麻克ナリ

（四） 交戰諸國ノ戰費

（一九一七年七月二十九日「ノイエ、フライエ、プレッセ」所載）

（外事彙報大正六年第十二號）

信據シ得ヘキ報道若ハ推測ニ基キ交戰諸國ノ三年間ノ戰費ヲ計算スレハ左ノ如シ（十億「クローネ」ヲ單位トス）

	開戰第一年	第二年	第三年	合計
聯合國側				
英	二四、二	三六、〇	四六、九	一〇七、一
佛	一七、七	二六、四	三六、四	八〇、五
露	一八、〇	二五、九	三四、五	七八、四
伊	五、〇	五、九	一二、〇	二二、九
中歐國側				
獨（戰時公債）	一六、〇	二四、五	二八、一	六八、六
獨墺（戰時公債）	七、〇	一二、五	一五、〇	三四、五
總計	八七、八	一三一、二	一七二、九	三九二、〇

英國ノ戰費ハ第三年ニ於テ一時日額平均七百萬磅ニ上リタルコトアレトモ其後六百萬磅臺ニ下レリ六月二十五日ボナー、ローハ下院ノ演說ニ於テ開戰第三年ノ戰費ヲ十九億五千三百萬磅ト計上セリ第四年ニハ三十億ヲ下ラサルヘシト云フ開戰前ニ六億五千一百萬磅ナリシ英國國債ハ本年三月三十一日ニハ三十八億五千四百萬磅（聯合國海外領地ヘノ貸出ヲ除ケハ二十八億八千四百萬磅）トナレリ本會計年度ノ終リ即チ來年三月末ニハ英國ノ純國債ハ四十一億三千五百萬磅ニ上ルヘシト云フ

佛國ノ戰時豫算ハ開戰以來一九一七年九月末日迄九百八十八億三千二百萬「フラン」ナルカ內三年間ノ戰費ハ約八百一億ニシテ他ノ百八十餘億ハ戰爭ニ直接關係ナキ各般ノ行政費ト見做スヘキカ又同國戰費ハ第一年ニ於テ月額平均十九億五千萬「フラン」ナリシモノ第二年ニハ月額二十三億「フラン」トナリ第三年ニハ月額約三十億「フラン」トナレリ尙同國ハ英國ト同樣戰費ノ支辨ハ主トシテ短期ノ債務ニ依リ即前後二回ノ戰時公債二百十二億九千萬「フラン」ナルニ對シ國防債劵二百二十五億、外國ヘ賣出シタル國庫債劵七十四億三千萬、

米國公債三十一億、佛蘭西銀行及アルジェー銀行借金六百二十億「フラン」トス

露國從來ノ戰費ハ正確ニ知リ難シト雖現在毎日ノ戰費ハ四千萬乃至四千五百萬留ノ間ヲ上下シ居ルモノヽ如シ同國々内ノ元債ハ七十億留ニ達シタルヤニ傳フルモ募集結果ノ公報ナシ戰費ノ大部分ハ紙幣ノ發行ニヨルモノナラン開戰當時九十億留ナリシ同國ノ國債ハ同國大藏省ノ算スル中ニ依ルニ本年末ニハ五百五十億留ニ達スヘシ特ニ同國外債ノ増加ハ著シク即佛國ヨリ二十億、英國ヨリ約六十億及米、日ヨリ若干ノ戰時貸出ヲ受ケ此等同國外債ノ總額ハ百十億留ニ達スト算セラル

伊國ニ至リテハ戰費月額當初四億五千萬「リラ」ナリシモノ昨年ニハ八億五千萬「リラ」ニ上リ本年六十億「リラ」若クハ其ノ以上ニ上レリ同國戰費ハ單ニ其ノ一部ヲ固定公債ニ俟チタルニ止マリ大部分ハ流動債ナルカ其額本年五月終リニハ九十一億八千七百萬「リラ」ニ達セリ（一九一四年六月末ニハ十一億七千萬「リラ」ナリキ）

獨國カ戰爭ノ爲メニ費シタル總額ハ正確ナル數ヲ得サルモ嘗テ帝國議會ニ於テ右ノ額ハ英國ヨリ著シク劣ルコトナシト報告セラレ又最近百五十億麻克ノ「クレデット」ノ要求ニ際シ（之ヲ加ヘテ從來ノ。「クレデット」總額九百四十億麻克トナル大藏大臣ハ獨國戰費月額客年前半ニハ二十億麻克以下ナリシモノ本年二月乃至五月ノ月額平均三十億ヲ超エタリト云ヘリ此ニヨリテ察スルニ同國戰爭ノ戰費ハ單ニ戰時公債ニヨリテノミ支辨セラレタルモノトハ見做シ難ク要スルニ同國從來ノ戰費總額ハ約七百乃至七百五十億麻克ト見做スヲ得ヘキ乎（戰時公債募集額約六百億麻克）墺洪國ニ於テモ戰時公債ノ應募額ハ戰費總額ニ及ハス最近墺國當局者ノ報告ニヨレハ墺國ノ戰時債務總額ハ三百五十四億「クローネ」ニ達セリト云フ而シテ尙洪國ノ他ノ戰時債務ハ約百八十五億「クローネ」ナルヘキニヨリ墺洪國全體ニテ此迄約五百四十億「クローネ」ノ戰費ヲ支出シタルモノト見做シ得ヘク之ヲ月額ニ見積レハ十億三千三百萬「クローネ」トナル

要スルニ以上六交戰國ノ總戰費ハ約四千二百乃至四千三百億「クローネ」ニ達シ此外小交戰國及中立國ノ（動員及中立維持ノ爲）費シタル所ヲ見レハ勃牙利約四十乃至五十億「クローネ」、土耳古五十乃至六十億「クローネ」、白耳義、塞爾比亞、羅馬尼十六乃至七十億「クローネ」ト見積リ得ヘク葡萄牙ノ戰費ハ全部英國ニテ引受ケタルヘク希臘ノ分ハ英佛ノ所謂聯合國ヘノ貸出金ノ内ニ含マルヘク中立國殊ニ瑞西、和蘭、スカンヂナヴィヤ諸國ノ分ハ二十乃至三十億「クローネ」ト見積ルヘキカ果シテ然ラハ一九一四年ヨリ一九一七年ニ至ル歐洲ノ戰費總額ハ四千四百億乃至四千五百億「クローネ」トナリ英國ノ國富總額ト見積ラルヽモノヲ超過スルコト尠カラサルモノヽ如シ

墺太利洪牙利國法令

墺太利洪牙利國法令

（外事彙報大正六年第十號）

第一　墺國問題

（一九一七年七月二十九日「ベルリーネル、ターゲブラット」所載リヒノヴスキー侯稿）

墺國トハ如何ナル國カ獨逸新聞ノ政治記者モ各自ノ教育程度又ハ其旅行區域ノ相違ヨリ墺國ノ狀勢ニ關スル評說區々ニシテ明確ナル智識ヲ有スル者尠キカ如シ多數ノ人ハ墺國人ト云ハ丶凡テ獨逸語ヲ話シ（但シ彼等ノ出會スルハ大抵智識階級ニ屬スルカ故ナリ）又甞テハ獨逸ノ支配下ニ在リシ一國ナレハ墺國ハ全然獨逸的ノ國ナリト思惟シ居ルカ如シ而シテ國內ニ異民族ノ居住スル事實ヲ知リ統一困難ナリトノ聲ヲ聞クモ『彼等ヲ凡テ獨逸ニ同化セシムレハ統一何ノ困難カアル』ト放語シ居レリ蓋シ斯クノ如キハ未タ墺國ノ眞相ヲ解シタル者ト云フヲ得ス

『墺地利ニ關スル純然タル國法學的及地理學的ノ正鵠ナル觀念ヲ得ントスルハ決シテ容易ノコトニ非ス甞テ獨逸同盟ニ屬シ居リシハアルプス地方及ズデーテン地方（註索遜及シュレジヤトボヘミヤノ境ヲ指ス）ニ過キス所謂狹義ノ墺地利ナリ尤モ昔時ノ獨逸帝國ナルモノハ其他凡テノ地方及洪牙利ヲモ包含シ居タリキ一八六七年ノ『整理』後初メテチスライタニエン（註墺國領地ナリ）及トランスライタニエン（註洪國領地ナリ）ノ別ヲ生シタリ現今

『墺地利』ト云フハ公文用語ニ從ヘハ『墺帝國議會ニ代表ヲ有スル諸王國及諸國』ヲ包括スルモノニシテ即チ昔時ノ獨逸同盟ニ屬セシ地方ニガリシア、ブコヴイナ及ダルマシアヲ加ヘタルモノナリ此後段ノ三地方ハ墺國内ニ於テ恰モ外藩ノ如キ地位ニアリ

一九一〇年ノ調査ニ依レハ墺地利ノ人口ハ左ノ如シ

獨逸人	一千萬
「チエック」人	六百五十萬
波蘭人	五百萬
「ルテニア」人	三百五十萬
「スロウェーン」人	百五十萬
「セルボ、クロアト」人	八十七萬
伊太利人	七十七萬
羅馬人	二十七萬
其他外國人	六十萬

以上總計二千九百萬人ニシテ獨逸人ハ僅ニ其ノ三分ノ一ヲ占ムルニ過キス隨ツテ獨逸人ハ最モ有力ナル民族タルニハ相違ナキモ未タ過半數ニモ達セス反之「スラヴ」人（「チエック」人、「スロワーク」人、波蘭人、「ルテニア」人、「スロウェーン」人、「セルボ、クロアート」人）ハ總計一千七百萬ニ達シ過半數ヲ占ム

又ガリシア、ブコヴイナ、ダルマチアノ各地方ヲ除キ（墺國ヨリ此等ノ地方ヲ除外スルハ獨逸人ノ宿望ナリ）所謂狹義ノ墺地利タルアルプス及ズデーテン兩地方ノミノ人口ヲ見ルニ大略左ノ如シ

獨逸人	九百六十萬
「チエック」人	六百五十萬
「スロウェーン」人	百二十五萬
伊太利人	七十五萬
波蘭人	二十五萬
其　他	六十萬

即チ總計千九百萬ニシテ獨逸人ハ其約半數ニ達シ居レリサレト斯クガリシア、ブロヴイナ及ダルマチアヲ除クモ猶獨逸人ハ人口ニ於テ過半數ニハ達セス併シ議會ニ於ケル獨逸人議員ハ墺地利全體ニ就キテ見ルモ絕對過半數ヲ占メ居レリ

前揭ノ表ハ墺國ハ決シテ獨逸的國家ニ非サルヲ證明シテ餘リアリ狹義ノ墺地利（アルプス及ズデーテン地方ニ就キテ見ルモ獨逸人ハ全人口ノ約五割ヲ占ムルノミニシテ墺地利全體（チスライタニエン）ニテハ全人口ノ三割四分ヲ占ムルノミナリ更ニ墺洪國ニ就キテ見レハ全人口五千百萬ニ對シ獨逸人ノ數ハ千二百萬ニ過キス即チ全人口ニ對スル割合ハ二割三分ナリ反之「スラヴ」人ノ數ハ二千四百萬ニシテ全人口ノ四割七分ナレハ獨逸人ノ約二倍ナリ以上說明セルカ如ク墺洪國ニハ全人口ノ四分ノ三以上ノ非獨逸人居住セル有樣ナルカ故ニ墺洪國ヲ直チニ獨逸的國家ナリト見ルハ大ナル誤謬ナリ彼等非獨逸民族ハ現在コソ隱忍シ

居ルモノ、時機ニ乘シテ內政ニ於テモ外交ニ於テモ獨逸人ノ政策ヲ覆サント欲シ居ルモノナリ一八六七年ニ墺洪兩國ニ分離セシカ婚姻ノ關係ト條約ノ締結トニ依リ兎ニ角「ハプスブルグ」家ハ條件附ニテ兩國ノ主權者タル地位ヲ贏チ得タリサレト一八四八年以來民族的自覺旺トナルニ及ヒ兩國ノ軋轢亦漸ク甚シカラントス特ニ墺地利內ニハ北方ニ於テ獨逸對チエック南方ニ於テハ獨逸對スロウェーンノ軋轢甚タシキモノアリガリシアハ全然波蘭系ノ國ナレハ問題トナスニ足ラス旣ニ七十年代頃ヨリ官用語トシテ波蘭語ヲ使用シ居ル程ニテガリシアハ實際墺國內ニテモ特殊ノ地位ヲ有スルモノナレハ其ノ政治問題モ波蘭人ノ問題タルニ止マリ獨逸人トノ軋轢ヲ生スルカ如キコトナシガリシアニテハ獨逸語ハ智識階級ノ交際用語タル外維納中央政府トノ交涉帝國議會ニ於ケル發言等ニ使用セラル、ニ止マリ國內ニテハ公私共專ラ波蘭語ヲ使用シ獨逸語ハ全然疎外セラル墺地利內ニハ獨逸人對波蘭人ノ軋轢ナケレトモガリシアノ東半分ニハ「ルテニア」人居住スルカ故ニガリシアニテハ波蘭人對「ルテニア」人ノ爭アリ貴族ハ凡テ波蘭人ニシテ政治モ亦波蘭人ノ掌中ニアルカ故ナリ

要スルニ獨逸人ノ勢力ノ及ヘル範圍ハ狹義ノ墺地利即チ獨逸ト國境ヲ接スルズデーテン及アルプス地方ナリ此等ノ地方ニテハ獨逸人ハ人口ニ於テモ約半數ニ達シ昔時ヨリ優勢ナル地位ヲ占メ居レリ而シテ其ノ所以ハ半ハ獨逸文化ト墺地利化セル獨逸官僚主義トニアリ又特ニ維納中央政府ノ政策宜シキヲ得タルニアリ

ガリシアハ今後如何ナル政治的發展ヲナスヘキヤ又南部地方ノ「スラヴ」人ハ戰後如何ナル狀態トナルヘキカトリエストノ北部及東部ニ居住スル「スロヴェーン」人ハ「セルボ、クロアト」ノ國家ニ屬スルニ至ルヤ否ヤ斯クノ如キ問題ハ吾人ニ直接ノ利害關係ナシサレト約一千萬ノ獨逸人居住シ嘗テ獨逸同盟ニ屬シタリシズデーテン及アルプス地方ノ將來ニ關スル問題ハ吾人ニ重大ナル利害關係アリ墺地利內ノ反獨逸傾向ヲ嘆シテ或憂國者ハ此地方ニ居住スル千萬ノ非獨逸人ヲ何等カノ形式ニ於テ獨國ニ屬セシムヘシト述ヘタレトモ斯クノ如キハ畢竟實現シ得ヘカラサル論ナリサリトテ彼等ノ同化ヲ維納政府ノ力ニ俟ツモ亦是不可能事ナリ然ラハ獨逸ノ採ルヘキ政策ハ如何墺地利ヲシテテッチェン（エルベ沿岸ノボヘミヤ）ヨリテッシェン（墺國領シュレジヤ）ヲ經テトリエストニ至ル間ノ地方ヲ統一シ一地方トナサシメ其內ニ包括スル各民族ニハ民族的活動ノ自由ヲ與ヘ特ニ獨逸民族ニハ其歷史的地位文化的價値及數字上ノ優越等ニ鑑ミ第一位ノ指導者タル優遇ヲ與フルニアリ而シテ此案ノ實現ヲ期スルハ實ニ吾人ノ採ルヘキ外交政策ノ第一要諦タラスンハアラス民族間ノ軋轢問題ノ中心地ハ人モ知ル如クボヘミアナリ此地ニ於ケル民族問題ハ洵ニ厄介ニシテ複雜ヲ極メ其槪略スラ到底今爰ニ之ヲ說述スルヲ得スボヘミア本國ニハ「チエック」人四百萬ノ外獨逸人二百五十萬アレトモ獨逸人ノ主トシテ居住スルハ一定ノ限リタル地方ニシテ即チ北部ニテハ索遜、シュレジア境ニ沿ヒタル地方西部ニテハ巴威境ニ沿ヒタル地方是ナリメーレンニハ「スラヴ」人百七十萬ニ對シ獨逸人七十萬アリシュレジアニハ「チエック」人及波蘭人合計三十七萬アリテ獨逸人ハ三十萬ナリ所謂ボヘミア王領地（ボヘミア、メーレン、シュレジア）全體ニ就テ居レハ「スラヴ」人ハ約六百萬ニシテ獨逸人ハ約三百五

十萬ナルカ故ニ前者ハ後者ノ殆ト倍數ナリ

此等非獨逸人ノ要望ハ一言以テ之ヲ云ヘハ墺洪王國ヲ封建制度ニ變改シ前記ズデーテン諸國ヲ維納政府ヨリ分離シテ「ルクセンブルグ」時代ノ如ク一ノ國家聯合ヲ組織シプラーグ市ヲ首都ト定メ此處ニ『聯合議會』ヲ創建セントスルニアリ國家ノ形體斯クノ如ク成ラハ此地方ノ獨逸人カ單ニ墺國內ノ他ノ獨逸人ヨリ離間セラルヽニ止マラス遂ニハ「チエック」人ノ多數ニ制セラレテ「スラヴ」人ニ漸次同化セラルヽニ至ルヘシ若シ前述ノ如キ聯合セルボヘミア王國形成セラレ一國家トシテ存立スルニ至ラハ恰モ一八六七年以後ノ洪牙利ノ如キ地位ヲ有スルコトヽナルヘク國內ノ獨逸民族ハ現在洪牙利內ニ於ケル獨逸人、「スラヴ」人又ハ羅馬尼人ノ如キ立場トナルニ至ルヘシ又「チエック」人ハ旺ンニ民族的精神ヲ皷吹シ破竹ノ勢ヲ以テ發展シ人口モ亦益〻增加スヘケレハ獨逸人ハ遂ニ民族競爭ノ敗殘者トナルニ至ルヘシ而シテ巴威トシュレジアトノ中間ニ露西亞、佛蘭西、波蘭乃至英國ヲ背景トシ何等獨逸ノ勢力ノ及ハサル一國家ノ出現スルヲ吾人ハ唯傍觀スルヨリ外ナカルヘシ猶ズデーテン地方ハ經濟上ノ價値重大ナルモノアルカ故ニ墺洪國ノ國策ニ就キテモ決定的勢力ヲ有スルニ至ルヘシ聯合國ハ波蘭ニ嘗テ分割サレシ三地方ノ併合ヲ約セシ如ク「チエック」人ニ對シ此封建制ノ實現ヲ約シタリカルカ故ニ獨逸人ハ斷乎タル決心ト正義トヲ以テ如何ナルコトアリトモ上述ノ如キ國家ノ變革ヲ許サスト聲明セリ假令其結果彼等カ政治的及經濟的ニ露國ニ倚賴スルニ至ルトモ獨逸人ハ統一國家ノ存續ヲ墨守シテ已マサルナリ若シ彼等ニ讓步ストスルモボヘミア內ノ「チエック」獨逸兩民族混淆ノ地方ニ限リ兩語ノ併用ヲ公認スル程度ニ止マルヘキナリ然レトモ「スラヴ」人ハ國內到ル所ニ於テ兩語ニ均等ノ權限ヲ與ヘラレンコト即チ獨逸語ノ官吏ト「チエック」語ノ官吏トヲ併置センコトヲ要求シ居レリ勿論斯クノ如キ要求ハ獨逸人ノ峻拒スル所ニシテ若シ此要求ヲ容レタランニハ是實ニボヘミアカ墺國ヨリ分離シ純然タル「スラヴ」國ニ化セントスル第一步ト云フヘク獨逸語ヲ墺地利一般ノ國語トナサントスル獨逸人ノ理想ハ遂ニ實現スル能ハサルニ至ル可シ墺地利內ニ於ケル民族軋轢ノ情況大略上述ノ如ク之ヲ統一センカ爲ニ政治家カ如何ニ苦心ヲ重ネツヽアルカヲ思フヘキナリ然レトモ幸カ不幸カ這回ノ戰亂勃發シテ擧國一致ノ精神旺盛トナルニ及ヒサシモ甚シカリシ國內民族間ノ軋轢ハ變シテ外敵ニ對スル敵愾心トナリ其ノ反動トシテ國內ハ却テ平靜トナリタリヴィクトル、ユーゴーハ既ニ五十年前ニ『敵ヲ憎ムハ我ヲ愛スル最良ノ手段ナリ』ト喝破セリ洵ニ至言ト謂フヘク人間ノ心理ハ五十年前モ今モサシテ變化ナキモノヽ如ク見ユ

然レトモ現戰役後ニ至ラハ墺洪國政府ハ再ヒ此民族問題ニ逢着スヘキヤ必セリ蓋シ此問題ヲ双方ノ滿足スル如クニ解決スルハ至難事ト云フヘク選擧期切迫セハ獨逸人側カ又ハ「チエック」側ヨリ大反對起リ何レ一騷動ヲ免レサルヘシ斯クテ步一步トシテ相互ノ反對ト乖離トヲ甚シカラシムルニ至ラン又本問題ニ對シテハ戰爭ノ終局如何カ重大ナリト云ハンヨリハ寧ロ決定的ノ意義ヲ有スルナリ「チエック」國民會議ハ墺地利ノ憲法改正ニ參與スルヲ拒絕シ「ボヘミア」問題ヲ國際的ノモノトナシ來ルヘキ講和會議ニ提出セント敦圍キ居レリボヘミアカ一國家トナルハ吾人年來ノ外交政策ニ一大打擊ヲ與フルモノナリ吾人カ「チエ

ツク」民族ヲ抑壓スルハ正義ニ悖ルモノナリト云フ者アランモ是維納政府ノ中央集權的官僚主義ノ目的トシタル所ニシテ嘗テ反對的改革ノ時代ニ帝國主義的貴族カ援助ヲ與ヘタルモ亦此爲メニ外ナラス聯邦國カ將タ民族的聯合ノ國家カ民族主義カ將タ民族聯合主義カ抑モ又國法的解決カ將タ行政的解決カ是實ニ融和スヘカラサル對照ナリ

墺地利內ノ獨逸人ヲ區別スレハ「アングロ、ローマン」ノ文化ト傾向トヲ有スル貴族主義者「セミチックレ」ノ色彩ヲ有スル資本家階級及民族主義的又ハ社會主義的又ハ基督教會＝反資本家的ノ民主主義者ノ三種類ニ分ツコトヲ得レト彼等ハ墺地利ヲ根本的ニ獨逸的色彩ヲ有スル統一國家タラシメントスル民族的運動ニハ一致團結シ居レリ而シテ此目的ノ爲メニハ彼等ハ政治的ニ獨逸國民及獨逸帝國ニ倚賴セサル可ラス墺地利ノ利益ヲ犧牲ニセサル程度ニ是テ同盟又ハ其他ノ形式ヲ以テ連絡ヲ取ラサル可ラス獨逸統一問題カ小獨逸國ニ解決セラレテ以來彼等ノ採ルヘキ外交方針ハ此以外ニナシ又アル可ラサルナリ大獨逸運動再現ノ兆候ヲ維納ニ見ルト傳フレト此ハ恰モ墺地利カ反獨逸同盟ニ加入スト云フカ如ク到底實現スヘカラサル風說ナレハ決シテ憂フルニ足リサルナリメッテルニッヒ及シュワルツェンベルグノ時代ハ既ニ過去ニシテカウニック及ポイストノ時代モ既ニ過キ去リタリ（註以上ハ總テ排普魯西論者ナリ）

現代ニ於テハ民族精神ノ倫理的威力及言語文化ノ共通コソ公文書ノ調印ヨリモ更ニ效果アル結合力ヲ有スルモノニシテ上流階級ノ意向等ノ如キモノハ王室ノ利害問題等ト同シク今ヤ何等ノ威力モナキモノナリ

サレド『中歐帝國』ノ如キ夢想的政策ヲ主張シ墺國ニ其ノ經濟的及政治的獨立ヲ放擲セシメントスルハ愼マサル可ラス墺國ハ依然自由競爭者トシテ近東市場ニ吾人ト競爭セシメサル可カラス往時ノ神聖帝國ヲ再興セントスルハ假令如何ナル方法ヲ以テスルモ迷妄ニ外ナラス

第二　墺國海運獎勵法ト海運界現狀

（大正六年十月二日附在瑞西帝國特命全權公使三浦彌五郎報告）
（通商公報第四七八號）

九月二十七日「フオシッシェ、ツァイツング」ハ目下墺國議會ニ提出中ナル現行海運獎勵法有效期限延長ニ關スル法案ニ說明ニ加ヘ千九百七年以後同國造船業ノ擴張セル事實竝ニ海運界ノ現狀ニ關シ左ノ記事ヲ揭載セリ

墺國政府ハ今期議會ニ千九百七年制定ノ海運獎勵法有效期限ヲ千九百十九年末迄延長スヘキ法律案ヲ提出セリ同海運獎勵法ハ當初ヨリ臨時的性質ヲ有セルモノニシテ今回延長期間ヲ千九百十九年末迄ト限リタルハ墺國將來ノ海運政策ハ同年ニ至ラハ見込確立スヘシト信セルカ爲メナリ

墺國ノ海運保護ハ事業補助、航海補助、造船補助ノ三者ヨリ成立ス事業補助ハ內地造船所ニ於テ建造セラレ一總噸五百五十「クローネ」ノ價格ヲ有スル裝鐵船ニ對シ一噸九「クローネ」ノ割合ヲ以テ補給ス又航海補助ハ墺國ノ港ヨリ輸出シ又ハ墺國ノ港ニ指定セラレタル

貨物カ最少全載貨ノ三分ノ一ニ該當シ或ハ同貨物カ最少千七百噸ニ達セル場合ニ給付スルモノニシテ補助額ハ百哩ノ航海ニ對シ一噸ニ付十「ヘルラー」ナリ

目下最モ重要視セラル丶ハ造船補助ニシテ此點ニ關シ海運奬勵法ハ從來十分ノ效果ヲ示シタリ千九百七年迄墺國ニ於テハ唯タ稀ニ自國ニ於テ船舶ヲ建造セルカ千九百七年以後ハ造船業著ルシキ發展ヲ爲シ千九百七年ヨリ現戰爭開始迄内地ノ造船所ニ於テ四十六隻總噸數二十四萬五千噸ノ商船ヲ建造シ就中十萬八千噸ハ自由航海ニ從事シ殘餘ハ墺國「ロイド」會社ニ所屬セリ又墺國汽船ノ全噸數ハ千九百七年ヨリ戰爭開始ニ至ル間ニ於テ四十九萬八千噸ヨリ七十七萬三千噸ニ增加セリ現行海運奬勵法ニ依レハ造船補助ハ裝鐵船舶ニシテ内地材料ヲ最少五割迄使用セルモノニ對シテハ船體一總噸ニ付四十「クローネ」ヲ給付シ尙其率ハ順次增加シ全部内地材料ヲ以テ建造セル船舶ニ對シテハ一總噸ニ付六十「クローネ」迄上ルモノナリ其他汽罐及機械類ニ對シテハ「ドッペルツェントネル」重量ヲ單位トシ補助ヲ與フ

右海運奬勵法補助額ハ戰爭前造船ノ平均價格ガ一總噸三百「クローネ」内外ニ在リシ當時ニ於テハ最高補助金ハ建造費ノ約二割ニ該當シタルカ戰爭後造船費ノ暴騰セル現狀ニ於テハ同補助金ハ左迄重要視シ能ハサルコトトナレリ又戰爭中他諸邦國ノ造船ニ對シ交付セル補助金ハ概シテ墺國ヨリモ多額ニシテ例ヘハ從來放任主義ヲ執リ居タル英國ノ如キモ現戰國中建造ニ著手セル各商船ニ對シ一總噸ニ付一磅半ノ補助ヲ與ヘ更ニ船主カ同船舶ヲ戰爭後七年間外國ニ讓渡サヽル義務ヲ負擔スルニ於テハ三磅ニ增加スルコトヽセリ

墺國政府カ他國ノ事情右ノ如キニモ拘ハラス造船補助割合ヲ增加セサルハ冒頭ニ述ヘシ如ク戰爭後造船ノ狀況ノ明瞭ナルヲ待チ根本方針ヲ決定セント思料セルカ爲ナリ墺國ノ船舶カ戰爭後主トシテ國家補助ニ依賴セサル可カラサルヤ否ヤハ現在ニ於テ斷言スル能ハス船舶持主外國港灣ニ繫留シ押收ノ危險アル船舶ヲ賣却シテ取得セル利益ハ莫大ニシテ右尠ナカラス船舶業者ノ實力ヲ增加セリ今日迄賣却セラレタル以上ノ船舶ハ墺國ノ分八萬噸、洪牙利船舶一萬二千噸ナリ又墺國ノ賣却商船中一萬五千噸ハ墺國「ロイド」會社ニ四萬二千噸ハ「オーストロ、アメリカナ」汽船會社ニ所屬セルモノナリ船舶賣却價格ハ船主帳簿上ノ價格ノ數倍ニ上リ例ヘハ「オーストロ、アメリカナ」汽船會社ノ如キ戰爭前ノ船舶帳簿上ノ總價格二千九百萬「クローネ」ナリシカ同社カ賣却ニ依リ取得セル金額ハ已ニ七千萬「クローネ」ニ達セリ又墺國「ロイド」汽船會社ハ商船賣却ニ關シ「オーストロ、アメリカナ」會社ノ如キ巨利ヲ博セサルモ上海ニ繫留セル同社三隻ノ商船ハ空想ニ等シキ高價ヲ以テ賣渡セリ

沈沒又ハ戰時捕獲トシテ宣言セラレタル墺國商船ハ約四萬八千噸又ハ敵國領土内ニ於テ押收セラレタルモノ約十四萬噸ニシテ之レニ對シ現戰爭中已ニ建造ヲ終ヘ又ハ戰爭終了後六ケ月以内ニ完成セラルヘキ商船十二萬噸存在ス尙右新造船中ニハ墺伊開戰ノ際「モンファルコン」造船所ニ於テ建造中ニシテ或ル程度ノ大損害ヲ受ケタルモノ六萬五千噸ハ計上シ居ラサルナリ要スルニ現戰爭中墺國商船ノ損害高ハ平時存在總噸數ノ二割餘ニ該當スルモノニシテ戰爭後此損害ハ直ニ恢復スヘシ

第三　墺洪國ノ戰費及戰事債

（外事彙報大正六年第十號）

（一九一七年六月九日「フライエ、プレッセ」所載）

帝國議會ノ國債監査委員會ヨリ最近發表セラレタル報告ニ基キ一九一六年末迄ノ墺洪國ノ戰費概算ヲ試ミン蓋シ正確ノ數字ニ近カルヘシ尤モ該報告書ニハ墺國ノ戰費ノミヲ掲出スルニ止ムルモ元來戰費及戰事負債ハ墺洪國カ一定ノ按分比例ニ依リ負擔スルコト明瞭ナレハ墺國ノ戰費ヲ知リテ洪國ノ分及墺洪國ノ分ヲ算出スルコト容易ナリ一九一六年末迄ノ概算左ノ如シ

	百萬「クローネ」
墺太利	
軍事公債（自第一回至第五回）	一八、〇五六
墺洪銀行ヨリ借入	八、一九五
銀行當座借越	三、二九五
獨逸ヨリ借入	一、八四〇
外國「シンジケート」ヨリ借入	四
墺國戰事負債合計	三一、三九〇
洪牙利	
軍事公債（自第一回至第五回）	八、五〇〇
墺洪銀行ヨリ借入（三六・四%トシテ計算ス）	四、七〇〇

獨逸ヨリ借入金（前同）	一、〇五〇
銀行當座借越	二、〇〇〇
洪國戰事負債合計	一六、二〇〇
墺洪國總計	四七、六〇〇

以上ノ表ニ依レハ墺洪國戰事負債總計ハ約四百七十億「クローネ」トナリ居ルモ此表中ニハ重複シテ計算サレ居ルモノアリ即チ第五回軍事公債ノ如キ一九一六年末ニハ尚募集中ナリシニモ拘ラス全額ヲ計入シアリ而シテ銀行當座借越額ハ同年末現在高ヲ計上シタリ然ルニ此當座借越ノ大部分ハ軍事公債引受ノ前拂ニシテ募集完了ト同時ニ消滅スルモノナリ故ニ第五回軍事公債ノ全額ヲ計上セハ當座借越ノ大部分ヲ算入スヘカラス斯クテ重複額ヲ控除セハ一九一六年末ニ於ケル墺國ノ戰事負債額ハ約二百八十億トナリ墺洪國ノ總計ハ約四百四十億「クローネ」トナルヘシ

軍事公債額ハ固ヨリ戰費ト同額ニ非ス戰費即チ戰爭ニ要シタル費用ノ中ニハ未タ公債トハナリ居ラサルモ國庫ノ在金ヲ以テ支辨シタルモアリ通貨ヲ以テ支拂ヒタルモアリ又支拂未濟ノモノモ巨額アリテ實際ノ戰費ハ軍事公債ヨリ多額ニ上ルヘシ然レトモ又前掲ノ第五回軍事公債ノ如キハ昨年末ニ募集シタルモ必スシモ昨年中ニ要シタル戰費決濟ノ爲ノミナラス一部ハ過去ノ費用ノ決濟ニ使用シ一部ハ將來ノ戰費ニ充ツルモノタルヤ明カナリ故ニ戰費ノ計算ニ當リテハ此點ニモ亦留意スル必要アリ斯クノ如ク純粹ノ戰費ヲ計算スルハ至難事ナルカ故ニ前掲ノ如キ戰事負債額ノ計算ヲ以テ滿足スルノ外ナカルヘシ

一九一六年末迄ニハ開戰以來二十九箇月ヲ經過セリ此二十九箇月間ニ於ケル墺國ノ戰事負債ハ二百八十億、洪國ノ分ハ百六十億「クローネ」ナリ即チ一箇月ノ平均額ハ墺國ハ約十億「クローネ」洪國ハ五億「クローネ」ノ割合ナリ但シ戰費ハ其ノ時季ニ依リ高低常ナキモノナレハ必スシモ一箇月ニ此平均額ヲ費消シタルモノト云フヲ得ス動員開始ノ月ハ最モ巨額ヲ要シタレトモ漸次戰費ハ減少シ近時ニ至リ亦高額ヲ要スルコト、ナレリ一九一六年後半期ニハ墺國ハ六十八億「クローネ」、一九一六年一箇年ニハ百七十億「クローネ」ヲ要シタリ但シ此六十八億及百七十億ナル數字中ニハ前述セル重複ノ部分ヲ含ミ居ルカ故ニ之ヲ控除シ墺國ノ一九一六年ニ於ケル戰事負債百五十億トセハ其一箇月平均十二億五千萬「クローネ」ニ當リ洪國ノ分モ同樣ニ計算セハ一箇月平均七億五千萬「クローネ」トナリ居レリ此一箇月平均額ノ割合ヲ以テ本年モ出費スルモノトセハ本年前半期末ニハ墺國ノ負債ハ更ニ七十五億「クローネ」ヲ增加スヘク例ノ重複部分ヲ控除スルモ總額三百五十億「クローネ」ニ達スヘシ又洪國ノ一箇月平均ハ前述ノ如ク七億五千萬「クローネ」ナルカ故ニ本年前半期中ニハ四十五億「クローネ」ノ負債ヲ增加スルコト、ナリ六月末ニ於ケル總額約二百億「クローネ」トナルニ至ルヘシ而シテ墺洪國戰事負債總計ハ一九一七年六月末ニ於テ實ニ五百五十億「クローネ」ノ巨額ニ達スヘシ又一日ノ平均戰費ヲ計算セハ一九一六年ニ於テ墺國ハ四千百六十萬「クローネ」洪國ハ約二千五百萬「クローネ」ノ割合トナリ居レリ

然レトモ前揭ノ數字中ニハ嘗テ洪國大藏大臣ノ言明セシ如ク出征軍人ノ家族、孤兒及戰死者ノ遺族等ニ對スル扶助料モ含マレ居リテ其額ハ墺洪兩國ニテ一箇年約二十億「クローネ」ナリト云フ故ニ上記ノ金額全部戰爭ノ直接費用ト見ルヲ得ス

本年分ハ暫ク之ヲ別トシ昨年（一九一六年）十二月末迄ノ總額ヲ人口ニ割當ツレハ墺國ノ人口二千八百五十萬（戰前ノ調查ニ據ル）トシテ一人宛約一千「クローネ」ノ戰事負債ヲ負擔スルコト、ナリ洪國ハ總人口二千八十八萬（戰前ノ調查ニ據ル）ナレハ一人宛七百六十八「クローネ」ノ負擔トナリ居レリ但シ此人口中ニハボスニアノ人口ヲ含ミ居ラス又此戰事負債ニ對スル利子ハ墺國ハ一箇年十三億一千四百萬「クローネ」ニシテ洪國ハ同シク七億四千四百萬「クローネ」ナリサレト此洪國ノ分ハ實際ハ今少シ高額ニ達スヘシ如何トナレハ墺洪銀行ヨリノ借入及獨逸ヨリノ借入等ハ利率敢テ高カラサルモ洪國軍事公債ハ六分利附ニシテ普通平均利率ヨリ約五厘高率ナレハナリ

和蘭國法令

和蘭國法令

第一　輸出禁止品ノ件

○蘭領印度輸出禁止命令除外品中取消（十一月十六日官報）本件ニ關シバタビア駐在領事松本幹之亮ヨリ本月十二日發ヲ以テ左ノ如ク電報アリ（本年四月十八日本欄內參看）（外務省）

蘭領印度政府ハ外國ヨリ銑鐵（Pig iron）ヲ輸入シ得サルタメ十一月一日ヲ以テ曩ニ公表セル輸出禁止命令除外品中ノ第七、錬鐵屑及古錬鐵ヲ取消シタリ

○蘭領印度政府古鐵輸出禁止（十二月八日官報）本件ニ關シバタビア駐在領事松本幹之亮ヨリ去月七日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ（本年四月十八日本欄內參看）（外務省）

當領總督府ハ本年三月十三日ヲ以テ外國輸入品輸出禁止令ヲ公布シタルカ本令ノ適用ヲ受ケスシテ輸出シ得ル品目中錬鐵屑及古錬鐵アリ本品ハ普通鑄鐵鋼鐵製器械器具ノ一部ニ附屬シ古鐵中ヨリ本品ノミヲ分離シテ輸出スルコト困難ナルニ依リ船腹每ニ總督ノ特許ヲ得テ本邦ヘ輸出セル邦商モ相應ニアリテ其量約二萬噸ニ上リタルカ總督府ハ近來當領ニ銑鐵ノ輸入杜絶シタルニ鑑ミ前記錬鐵屑及古錬鐵ノ當領輸出ヲモ禁止シ本月一日ヨリ之ヲ施行セルヲ以テ當領ヨリ古鐵輸出ハ當分見込ナキニ至レリ

○蘭領印度輸出禁止除外品（十二月十五日官報）　本件ニ關シバタビア駐在領事松本幹之亮ヨリ去月十七日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ（本年四月十八日本欄內參看）（外務省）

本年三月十三日瓜哇官報ヲ以テ發布セル外國輸入品輸出禁止令中本令ノ適用ヲ受ケスシテ輸出シ得ル品目ヲ左ノ通改正セル旨十一月十六日瓜哇官報ヲ以テ公布セラレタリ

イ、石油及其副產物
ロ、沃度銅
ハ、蠟書更紗及縞織物竝ニ蘭領印度製絹織物及半絹織物
ニ、蘭領印度製石鹼（稅關ニ於テ領內ノ製品ナリト認定シ得ヘキ書類提出ヲ要ス）
ホ、鉱力屑
ヘ、稅關ニ於テ使用ニ堪ヘスト認定シタル護謨製品
ト、包裝材料
チ、「フィルム」
リ、樂器及蓄音器竝ニ其附屬品
ヌ、書籍、雜誌、價格表、彫刻物、繪畫、設計圖及青寫眞
ル、商品見本及商品模型ニシテ稅關吏ノ認定シタルモノ
ヲ、現ニ船內ニ於テ必要缺クヘカラサル船舶用具
ワ、衣服、身邊裝飾品、室內使用品、筆紙文房具等ニシテ輸出者及其家族ノ自用品
カ、家具及動產ニシテ輸出者及其家族ノ私有品
ヨ、其他バタビア、チェリボン、スマラン、パダン、パレンバン、ブラヲン及マカッサーノ稅關上級官吏ニ於テ價格微細ナリト認定シタル物品

第二　和蘭ニ於ケル物資缺乏問題

（大正六年九月二十四日附在蘭帝國特命全權公使落合謙太郎報告）（通商公報第四七九號）

和蘭ニ於ケル物資缺乏ノ顚末竝ニ之レニ對スル政府ノ措置ニ付テハ（本誌第四二八號本欄『和蘭ニ於ケル物資缺乏問題近況』第四五四號及本欄『和蘭ニ於ケル馬鈴薯輸出問題』參照）其後モ問題ノ焦點ハ依然トシテ石炭供給問題及穀物供給問題ニ存シ就中米國ノ參戰以來穀物供給問題ノ前途ハ著ルシク困難ヲ加エタルモノヽ如シ玆ニ和蘭新聞紙ノ報道ニ基キ本問題其後ノ經過ヲ窺フニ左ノ如シ

穀物供給問題

穀物輸入ノ困難　獨逸ノ無制限潛水艇戰爭ノ布告ハ英國ノ對抗措置ト相俟テ和蘭ニ對スル穀物輸入ノ途上ニ橫ル一大難關タルニ至リタルカ其後米國起テ協商側ニ加入シ其對敵措置ノ一トシテ穀物輸出禁止ノ擧ニ出ツルヤ目下同國カ戰局其他作物成績ノ關係上和蘭ニ對スル主要穀物供給國トナレルカ爲メ當國穀物缺乏問題ハ更ニ甚タシキ難況ニ陷ルニ至レリ今右米國穀物輸出禁止事件ニ關スル蘭米交涉ノ經過ニ付九月初旬當國外務省ノ發表セルトコロヲ見ルニ左ノ知シ

米國ノ輸出禁止カ穀物ニモ適用セラレタル瞬間穀物ヲ積載セル約四十隻ノ和蘭船ハ米國港ニ在泊セリ

米國食料調節官兼白耳義救助委員總裁 Mr. Hoover ハ和蘭公使ニ對シ右和蘭船載貨（小麥一萬八千五百噸、玉蜀黍六萬三千九百噸、燕麥四萬二千百噸、亞麻仁粕五萬二千四百噸）ノ三分二ヲ白耳義救助委員用ニ他三分一ヲ和蘭國用ニ充ツルノ條件ヲ以テ右穀物船解放ヲ通牒セリ

政府ハ主義ニ於テ右提議ヲ容ルルニ決シタレトモ在ロッテルダム白耳義救助實行委員ト商議ノ結果前記載貨ノ三分二ハ白耳義ニ於テ消費シ盡サレサルノミナラス飼料ノ輸入ハ該委員ノ權限外ニ屬スルトコロナルヲ以テ右載貨中委員ノ使用シ得ヘキトコロハ小麥一萬八千五百噸及玉蜀黍三萬噸ナルコト判明シタルニ依リ右 Hoover 氏提議ノ主義ニ遵據シテ左ノ對案ヲ提出セリ

救助委員ハ前記載貨船腹十九萬五千噸ノ三分二即チ約十三萬五千噸ニ對スル使用權ヲ有スヘク而シテ前記載貨中ヨリハ小麥一萬八千五百噸、玉蜀黍三萬噸ヲ使用シ得ルコト、シ右不足額約八萬五千噸ニ對シテハ和蘭政府ハ船腹ヲ提供シテ其使用ニ宛ツヘシ尙斯クノ如クスルトキハ和蘭ニ對シ約十四萬五千噸ノ穀物ヲ餘ス以テ右救助委員ニ提供スル船腹ヲ十四萬五千噸迄增加スヘシ

右交渉ハ和蘭公使ト Hoover 氏トノ間ニハ滿足ナル協定ヲ見ルニ至リタリト雖米國輸出評議院 (American Export Council) ハ右協定ヲ以テ Hoover 氏カ白耳義救助委員總裁タルノ資格ヲ以テ取結ヒタルモノニシテ食料調節官トシテ締結シタルモノニアラス從テ拘束力ナシトシテ右ニ同意ヲ與ヘス而シテ同院ハ救助委員ニ於テ小麥一萬八千五百噸、玉蜀黍四萬噸ノ使用權ヲ得ヘク和蘭ニ對シテハ大麥一萬三千五百噸、玉黍蜀三萬七千噸ヲ解放スヘキコトヲ決定セリ

右ノ決定ハ甚タ不滿足ナリシモ和蘭政府ハ結局獲得シ得ヘキ最少限トシテ之レニ承諾スルノ外ナカリキ但シ右米國官憲ノ決議變更ニ付テハ目下和蘭公使ニ於テ盡力中ナリ

尙右蘭米交渉蹉跌前後是レヨリ先キ穀物輸入其他通商問題ニ關シ和蘭公使ト協同交渉ノ任ニ當ル爲メ渡米ノ途ニ在リタル和蘭特使一行モ著米シタリトノコトナレトモ蘭米交渉其後ノ消息ニ付テハ未タ新聞報道ノ徵スヘキモノナシ

政府ノ救濟措置ト農民ノ不平　右ノ狀況ニ鑑ミ政府ニ於テハ最近ニ至リ麵麭粉ニ對スル馬鈴薯粉若クハ玉蜀黍粉ノ混和割ヲ益々多クシ以テ麵麭用穀物ノ節約ヲ圖ルノミナラス九月二日ヨリ麵麭割當ヲ更ニ減少シテ重要勞働者ヲ除クノ外一人一日二百五十瓦強（從來ハ三百十一瓦強）ト爲スニ至レルカ尙內地穀類收穫期ノ近キニ鑑ミ豫メ之レヲ徵發シテ將來ノ配給ニ贊セントスルノ措置ニ出テタリ然ルニ右徵發措置ハ輸入杜絕ニ基ク飼料穀物供給難ト相俟テ當國農業界（牧畜業ヲ含ム）一般ノ不平ヲ釀セル由ニテ此等不平ノ農民ハ集會若クハ決議等ノ方法ヲ以テ國內諸所ニ於テ政府ノ措置ヲ攻擊セリトノコトナルカ其一例トシテ最近當國 Eindhoven ノ集會ニ於テ行ハレタリト云フ決議ヲ見ルニ集會ノ農業者ハ若シ政府ニ於テ二週間以內ニ左ノ要求ニ應セサルトキハ農業者ハ小麥若クハ「ライ」麥ノ播種ニ從

事セサルヘキ旨宣言シタリト云フ

（一）農業者ヲシテ其生産物中自己及其家族用麵麭用穀物其他ハ十分之二保存セシメサルヘカラス

（二）農業ヲ繼續スルニ必要ノ飼料ハ一定ノ相場ヲ以テ其代用品ヲ與フルニアラサレハ之レヲ徴收スルコトヲ得ス

（三）農産物ノ生産ハ目下殆ト收益ナキニ至リタルニ依リ穀物其他ニ對スル最高價格ハ之レヲ引上クルコトヲ要ス

（九月八日附「ガゼット、ド、ランド」所載）

石炭供給問題

石炭供給ノ困難　和蘭需要ノ石炭ハ少額ノ自國炭ヲ除クノ外主トシテ之レヲ獨逸ニ從トシテ之レヲ英吉利ニ仰クヲ常トシ而シテ英吉利炭ノ輸入ハ本年春以來杜絶シ獨逸炭ノ輸入ニモ種々困難ノ事情（本誌第四五四號本號『和蘭ニ於ケル馬鈴薯輸出問題』參照）ヲ伴ヘルコトハ已ニ報告ニ及タル所ナルカ最近和蘭政府ノ公表ニ依ルニ右獨逸炭ノ輸入モ遂ニ杜絶スルニ至レリト云フ

（甲）獨逸炭ノ供給難　獨逸炭輸入問題ニ關スル獨蘭交涉ノ經過ヲ窺ハンカ爲メ當國新聞紙「ヘット、フォルク」通信員ノ求ニ應シ當地獨逸公使館ノ與ヘタリト云フ說明（九月十七日同紙所載）ヲ見ルニ左ノ如シ

七月下半獨逸政府ハ和蘭政府ニ對シ必要貨物ノ相互的輸出入問題及之レニ關聯セル財政問題ヲ包含セル一般的經濟協定ヲ成立セシメンコトヲ提議セリ而シテ右交涉ノ進行中先ツ石炭問題及「クレヂット」問題ヲ解決スルノ必要ヲ認ムルニ至レリ蓋シ他ノ問題タル食料品ニ關スル協定ハ實際「クレヂット」ニ關スル協定成立ヲ待テ始メテ交涉シ得ヘキモノナレハナリ

石炭供給ニ關シテハ獨逸ハ成ルヘク多額ヲ輸出センコトヲ欲スル旨ヲ宣明シタリ右ハ獨逸爲替相場ノ現況ニ徴スルモ首肯スルニ難カラス但シ一方ニ於テ獨逸ハ自國及同盟國ノ石炭需要頗ル大ナルニ顧ミ和蘭ニ對シ如何ニ好意ヲ表スルモ毎月獨逸炭二十萬噸及白耳義炭五萬噸以上ノ輸出ヲ承諾スルコト能ハスト雖右二十五萬噸ニ關シテハ千九百十八年三月三十一日迄其供給ヲ約スルニ異議ナカリキ

代價ニ關シ獨逸ハ石炭ノ如ク自國ニ取リ極メテ貴重ナル物資ヲ供給スル以上之レニ依リテ和蘭ニ於ケル獨逸爲替相場ノ安定改善ヲ行ハサルヘカラストノ見地ニ立チタリ故ニ獨逸ハ他ノ中立國殊ニ瑞西ヘノ要求ニ倣ヒ一定ノ代價ヲ蘭貨仕拂トシ內一部ヲ正金ニテ他ノ一部ヲ「クレヂット」ニ依ランコトヲ要求セリ而シテ獨逸一銀行團ハ和蘭トノ「クレヂット」ヲ開始スヘシ

右仕拂方法ニ關スル提議タルヤ啻ニ獨逸ノ至當スル所タルノミナラス他ノ中立諸國ノ應諾シタル所ニ比スルニ遙ニ和蘭ニ取リ有利ノモノタリシナリ然ルニ交涉長期ニ亙リ獨逸當局ニ於テハ最早舊來ノ炭價ヲ維持スルヲ欲セサルニ至リ九月十五日以降獨逸ハ各一噸ノ炭價ヲ從來ノ倍額ニ引上ケタリ蓋シ新價格ハ最初獨逸カ要求シタル正金竝「クレヂッ